

地方独立行政法人大阪市博物館機構
令和4事業年度にかかる業務の実績に関する評価結果
小項目評価

年度評価
令和5(2023)年3月31日現在

内容

1. 地方独立行政法人大阪市博物館機構の業務運営、財務及び会計並びに人事管理に関する規則第9条で定める項目別業務実績及び自己評価等

大項目Ⅰ 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

I-① さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	1
(1) 活動の基盤をなす人材及び資料等の充実並びに施設及び設備の整備	1
(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力の効果的な発信	20
(3) 戦略的広報の展開	42

大項目Ⅰ 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

I-② 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」	52
(1) ソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備	52
(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携	60
(3) 民間企業等との協働等	64

大項目Ⅰ 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

I-③ 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」	69
(1) こども及び教員等への支援	69
(2) 幅広い利用者への支援	73
(3) 参画機会の提供	83

大項目Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

(1) 人材の活用と育成	88
(2) 評価制度の活用	89
(3) ICTの導入及び活用	90
(4) 民間活力の導入	91

大項目Ⅲ 財務内容の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

- (1) 収入の確保 92
- (2) 経費の節減 93

大項目Ⅳ その他業務運営に関する重要事項の目標を達成するためとるべき措置

- (1) 環境整備 94
- (2) 重要なリスク回避のための体制の構築 95
- (3) 利用者等の安全確保 97
- (4) 環境保全の取組み 98
- (5) 情報公開の推進 99

1. 地方独立行政法人大阪市博物館機構の業務運営、財務及び会計並びに人事管理に関する規則第9条で定める項目別業務実績及び自己評価等

大項目 I-①	<p>I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</p> <p>1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」</p> <p>(1) 活動の基盤をなす人材及び資料等の充実並びに施設及び設備の整備</p> <p>(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力の効果的な発信</p> <p>(3) 戦略的広報の展開</p>
------------	--

中期目標	<p>1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」</p> <p>法人は、大阪の都市格の向上に寄与するよう、博物館等における歴史、美術、自然、科学及び科学技術に関する実物、標本、現象に関する資料その他の資料(以下「博物館等資料」という。)の蓄積と人々が学び、楽しみ、育んできた成果を更に発展させ戦略的に発信する</p> <p>(1) 活動の基盤をなす人材・資料等の充実と施設・設備の整備</p> <p>各館の活動の成果の継承及び発展並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の整備に取り組む</p> <p>【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館等資料(寄託品を含む、以下、同じ。)の新たな収集 ・防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承 ・常設展における展示替え及び自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化【1-(2)において記載】 ・博物館等資料に関する情報及び資料の収集、整理及び提供 <p>【中長期的 発展を見据えて 取り組む事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成 ・博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究 ・博物館等の運営に関する調査研究及び評価等 ・博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復 ・ICT等を活用した博物館等資料に関するさまざまな情報の有効利用及び博物館等資料のアーカイブ化(重要な資料等をひとまとめにしてデジタルデータ化すること等により、資料等を広く相互利用が可能な形式で保存することをいう。以下同じ。)による公開の推進【1-(2)において記載】 ・博物館等の施設として必要な機能及び快適な利用環境の確保に向けた各館の施設の計画的な整備及び改修 ・調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲得 ・バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設の計画的な整備及び改修
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(1) 活動の基盤をなす人材・資料等の充実と施設・設備の整備						
各館の活動成果の継承及び発展並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、次の通り、人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の整備に取り組む。						
【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】 1 博物館等資料の新たな収集 各館が対象とする実物、標本、現象に関する資料その他の資料(以下「博物館等資料」という。)について、調査研究、寄贈、購入等を通じて、新たな獲得を目指す。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：4、科：3、歴：3 中：3 各館とも寄贈による資料収集を進めることができた。特に東洋陶磁では、評価額が100,210千円にも及び高額な資料の寄贈を受けた。	3		
	(大阪市立美術館) ア 絵画・書・彫刻・工芸・考古の諸分野において、購入及び寄贈の受け入れを継続的に行う。 【令和2年度実績】購入0件、寄贈5件	1	(大阪市立美術館) ア 購入0件 寄贈2件、135点 【令和3年度実績】購入0件、寄贈3件、19点 イ 受入4件4点 返戻22件174点	3		

	<p>イ 博物館活動に有効な資料の寄託確保に努める。 【令和2年度実績】受入10件29点、返戻13件114点 (大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 自然史標本の今後の収蔵計画について「大阪市立自然史博物館資料収集方針」に基づき、社会共有の財産である自然史標本を適切に収集し、次世代へ継承するために受け入れ、保存管理する。 【令和2年度実績】みさき公園の骨格標本ほか322点、松田 吉弘コレクション(昆虫)9,891点等26,456点増</p> <p>イ 収蔵庫等館内の配置を見直し、収蔵余力の確保に努める。移動式物品棚導入により特別収蔵庫の再配置を進めており、スペースの有効活用と、さらなる整理を進めるとともに、将来の安定的な収蔵に向けた検討を進める。</p>	1	<p>【令和3年度実績】受入9件41点、返戻14件276点(うち中之島236点) (大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 小海途銀次郎鳥の巣コレクション、東冬虫夏草コレクション、水野辰彦甲虫コレクション等、総数精査中 【令和3年度実績】総資料数1,926,963点(昨年度末比16,253点増)</p> <p>イ 移動物品棚に寄贈された鳥の巣コレクションの収納を完了した。</p>	3	
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 芸術的あるいは資料的価値の高い作品の購入および寄贈の受け入れを継続的に行う。 【令和2年度実績】 ・寄贈件数14件(作品数119件133点):評価額計83,069千円 ・寄託作品8件(作品数44件、うち新規受入1件(作品数3件)、継続7件(作品数41件))</p>	1	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 寄贈件数8件(作品数27件30点) 評価額計100,210千円 寄贈者との信頼関係を構築することで、貴重資料の寄贈を受け入れることができた。 【令和3年度実績】寄贈件数6件(作品数19件19点) 購入作品0件 【令和3年度実績】0件 寄託作品6件(作品数40件):継続6件(作品数40件) 【令和3年度実績】6件(作品数40件)継続6件(作品数40件)、解除2件(作品数4件)</p>	4	
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 物理、化学、天文、科学史、気象、科学技術中心とした分野の新規資料を収集し、科学における「現象」そのものを展示化するための装置開発・調査研究を行う。 【令和2年度実績】展示物の改修・改善等15件(※コロナ感染防止改修を含む)</p> <p>イ 大学等との連携を通じて観測機器類・実験装置類等実物資料の収集を行う。 【令和2年度実績】資料寄贈10件、購入・制作2件、借用16件</p>	1	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 今年度1件の資料寄贈を受けた。収蔵品の一部は常設展示等で活用している。 【令和3年度実績】寄贈2件 イ 大学へ資料や実験装置等の調査を2件行った。</p>	3	
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 歴史・考古・美術・民俗・芸能・建築の諸分野において、購入および寄贈の受け入れを継続的に行う。 【令和2年度実績】購入0件、寄贈1,405点</p> <p>イ 博物館活動に有効な資料の寄託の確保に努める。 【令和2年度実績】0件0点</p>	1	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 令和4年度 購入0件0点、寄贈746件1,217点 【令和3年度実績】購入0件、寄贈491件546点</p> <p>イ 収蔵可能なスペースを鑑み、特に博物館活動に有効な寄託品の確実な確保に努めているが、4年度は寄託品整理を重点課題とし、新規受入の手続きを整備した。 令和4年度実績:48件65点 【令和3年度実績】9件9点</p>	3	

	(大阪中之島美術館) ア 美術及びデザインに関する作品資料及び情報の収集を行う。 ・作品資料収集活動に必要な適切な情報を入手するため、国内外の美術動向に関する資料を継続的に収集する。 ・所蔵作品作家の著作権状況について継続的に調査を進める。	1	(大阪中之島美術館) ア 令和4年度作品収集：購入32件、寄贈等69件 ・作品収集の準備・情報収集については、随時積極的に実施した。 ・所蔵作品作家の著作権状況についても継続的に調査を進め、情報を更新した。	3	
2 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承 博物館等資料について、収蔵庫等において適正な温度・湿度等の下、防災や防犯にも備えた環境で適切に保管し、将来へ継承する。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3、中：3 各館とも、計画通りに温湿度管理、IPM、防犯・防災等に着実に取り組んだ。	3	
	(大阪市立美術館) ア 館内での総合的虫菌害の管理（IPM）を行う。 月に1回害虫トラップ調査、半年に1回の空気環境調査を行う。 イ 収蔵庫及び展示室での温湿度管理を継続的に行う。 ウ 防犯・防災システムを定期的に点検する。 エ 新規受入資料の登録を継続的に行う。	2	(大阪市立美術館) ア 月1回害虫トラップ調査をしており、作品を移動させた三井倉庫、住友倉庫でも行っている。上半期の空気環境調査を実施した。日常のIPM対策の徹底を図っている。 イ 24時間体制で監視し、展覧会毎に必要な応じた体制をとった。各作品移転先でも温湿度管理を行っている。 ウ 防犯・防災システムの定期的な点検を行った。文化庁に防災施設整備事業費補助金の申請をしている。 エ 受入の度に登録している。	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 収蔵庫内での虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行う。 【令和2年度実績】ドアブラシ設置によるIPM管理を強化した。 イ 入室記録、貸出管理簿による適切な資料の管理を行う。 ウ 防犯・防災システムを定期的に点検し、訓練を実施する。 エ 収蔵庫内の棚転倒防止対策を順次実施する。 オ 西日本自然史系博物館ネットワーク等との連携による災害対策の検討を進める。 【令和2年度実績】令和2年7月豪雨被害標本の修復を支援し、災害対応時の協力体制に関する検討を進めた。	2	(大阪市立自然史博物館) ア トラップによる監視、データロガーによる監視、定期的な点検を行った。ドアブラシ設置によるIPM管理を強化した。地下エレベーターホールのカビ害対策として、除湿対応を追加実施した。 イ 入退室記録簿、各研究室による資料貸借簿による適切な管理を行った。 ウ 防犯・防災システムの定期点検を行い、2月に教養型防災訓練を実施した。 エ 収蔵庫内の棚転倒防止対策を検討した。 オ 津波被災可能性のある文化施設についての検討し、全科協ニュースに公表した。また、令和2年7月豪雨被災標本の修復を進め、11箱を返還するとともに、将来の保存について関係機関と議論した。 【令和3年度実績】令和2年7月豪雨被災標本の修復を進め、10箱を返還	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 収蔵庫・展示室の虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行う。 【令和4年度目標】定期清掃（収蔵庫、資料展示室、李博士研究室）12回（月1回） 【令和2年度実績】8回 イ 館蔵品の点検を計画的に行う。	2	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 展示室環境を把握するため収蔵庫・展示室の温湿度測定を継続して行った。 ・虫菌害の対策として定期清掃（収蔵庫等）を12回行った。 ・展示室とバックヤードにモニタリングトラップを設置し、展示室の環境を把握した。	3	

	<p>【令和4年度目標】国宝2件、重文13件、重要美術品9件及び本館・新館収蔵庫収蔵作品1,500件等</p> <p>【令和2年度実績】国宝2件、重文13件、重要美術品9件、寄贈作品119件、寄託新規受入作品1件</p> <p>ウ 防犯・防災システムを定期的に点検すると共に既存設備の改修工事を行う。(3東陶改修)</p> <p>エ 新規受入作品の登録を継続的に行う。</p> <p>【令和2年度実績】寄贈作品14件(作品数119件)</p>	<p>イ 館蔵品の所在確認及び状態確認を「大阪市立東洋陶磁美術館 館蔵品管理方法」に沿って計画的に行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出品、調査、修復、撮影による状態確認を400件行った。 ・令和4年10月1日～2日 指定物件(国宝2点、重文13点、重要美術品9点)の所在確認を実施した。 ・令和4年5月23日～24日、8月8日～9日、10月24日～25日、令和5年1月11日、13日、17日、19日に館蔵品全件(5,705件:令和3年度末時点の館蔵品数)のうちの約4,000件の所在確認を実施。 ・令和4年12月14日 大阪市監査委員監査人による館蔵品の管理に関する実地調査を行った。 ・令和5年3月3日 会計監査人による館蔵品実査(10件)及び館蔵品管理方法の検証を行った。 <p>【令和3年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出品、調査、修復、撮影による状態確認を320件行った。 ・令和4年2月7日～10日 指定物件(国宝2点、重文13点、重要美術品9点)の所在確認を実施した。 ・令和3年3月23日 令和2年度の新規館蔵品(寄附、寄託等)について監査法人による実査調査を行った(2回目)。 ・令和2年11月10日～19日 指定物件(国宝2点、重文13点、重要美術品9点)の所在確認を実施した。 ・令和2年10月20日 令和2年度の新規館蔵品(寄附、寄託等)について監査法人による実査調査を行った(1回目)。 <p>ウ 防犯・防災システムを定期的に点検すると共に既存設備の改修工事を実施。(3東陶改修)監視カメラ設備更新を実施した。</p> <p>エ 新規受入作品の登録を継続的に行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度寄贈件数8件(作品数27件) <p>【令和3年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度寄贈件数6件(作品数19件)について1月に収蔵品データベースに登録を行った。 		
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 常設稼働展示品を保守管理し、故障、運用停止を可能な限り少なくするよう努める。</p> <p>イ 特に重要な資料に関しては、機械警備等によるセキュリティ確保を図る。</p> <p>ウ 所蔵資料の出し入れを記録する。</p>	<p>2 (大阪市立科学館)</p> <p>ア 展示物は、故障・運用停止を少なくするように日々の点検のほか、定期的なメンテナンスを実施した。また、新型コロナウイルス感染拡大リスク回避のため9点の展示の運用を休止しているが、そのうち3点は代替展示を行っている。</p> <p>イ 重要な貴金属資料等については、機械警備、ビデオ撮影、定期的な警備員の巡回確認を实</p>	3	

	(大阪歴史博物館) ア 収蔵庫内での虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行う。 イ 出納簿によって収蔵庫からの資料の出し入れを記録する。 ウ 防犯・防災システムを適切に運用する。 エ 新規受入資料の登録を継続的に行う。	2	(大阪歴史博物館) ア 年1回の生物調査を実施した。収蔵庫前に粘着シートを設置する等靴底に付着する虫菌の侵入を防ぎ、収蔵庫・展示室の温湿度管理を恒常的に実施している。 イ 出納簿を収蔵庫前室に設置し、記録を実施している。 ウ 防犯・防災システムの点検を行い、システムの維持に努めた。 エ 前年度の新規資料は順次登録を進めた。統合データベース、登録手続き、館藏品台帳が連動する企画は継続して準備を進行中である。	3	
	(大阪中之島美術館) ア 館内での総合的虫菌害の管理(IPM)を行う。 ・収蔵作品資料及び図書の燻蒸を実施する。 イ 収蔵庫及び展示室での温湿度及び酸・アルカリ濃度の管理を継続的に行う。 ウ 防犯・防災システムを定期的に点検する。 エ 新規受入作品資料の登録を継続的に行う。	2	(大阪中之島美術館) ア 適宜、燻蒸及びIPMクリーニングを実施し、委託事業者を含む館内スタッフに対し、IPM研修を行った。 ・PFI事業者と協働し、収蔵作品資料及び図書の燻蒸を実施した。 イ 収蔵庫及び展示室での温湿度及び酸・アルカリ濃度の管理を継続的に実施した。 ウ 防犯・防災システムを定期的に点検した。 エ 新規受入作品資料の登録を継続的に行った。	3	
3 博物館等資料に関する情報及び資料の収集、整理及び提供 博物館等資料に関する図書、文献、調査資料その他必要な資料(以下「図書等」という。)を収集するとともに、博物館等資料及び図書等に関するデータベース等の作成と公開を行う。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 中：3 各館とも計画通り、図書・雑誌の収集を着実に実施した。また、館藏品のデジタル撮影や、収蔵資料の目録の発行など、データベースの作成やアーカイブ化も進めた。	3	
	(大阪市立美術館) ア 継続的に館藏品及び寄託品のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を進める。 【令和2年度実績】撮影79件、174カット(1CRS) イ 調査研究に資するため、継続的に研究図書・雑誌・展覧会図録等の資料の収集を行う。 【令和2年度実績】図書・雑誌購入139点	3	(大阪市立美術館) ア これまでの撮影データのアーカイブ化を進めた。撮影：0カット 【令和3年度実績】撮影1,972カット イ 図書等の文件資料の収集を継続的に進めた。 図書・雑誌購入：119点 【令和3年度実績】図書・雑誌購入148点	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 継続的な資料の登録・整理を進め、収蔵資料目録を発行する。 【令和2年度実績】「岸川椿蔵書目録」を発行 イ 標本資料だけでなく、自然科学関連の画像・映像資料・絵画資料の収集と整理を進める。 ウ 継続的に市民の学習に資する図書、及び研究資料となる図書の収集を行う。 【令和2年度実績】単行本1,330部、逐次刊行物6,658冊増	3	(大阪市立自然史博物館) ア 収蔵資料目録54集を発行した。 イ 継続して取り組んだ。 ウ 図書資料の購入・寄贈受け入れも順調に進めた。科研費により獲得した間接経費を投入しての自己努力により、将来の公開に向けた整備を進めた。 【令和3年度実績】単行本499部、逐次刊行物5,093冊増	3	

	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 継続的に館蔵品を撮影し、データベース化する</p> <p>とともに、オープンデータ化を進める。 【令和4年度目標】デジタル撮影作品20件 【令和2年度実績】デジタル撮影 作品81件(中国黒釉関係陶磁16件、近現代天目関係陶磁19件、青銅器1件、オープンデータ化作品20件、黒田泰蔵作品22件)</p> <p>イ 継続的に研究図書等の収集を行う。 【令和2年度実績】購入図書資256点(図書36点、雑誌34誌220点)</p> <p>ウ ホームページでの収蔵品検索・収蔵品オープンデータの公開等情報発信と合わせて各サービスの多言語化を継続的に推進する。</p> <p>エ ジャパンサーチ、グーグル・アート等各種媒体との提携による優れたコレクションの国内外への情報発信を継続的に行う。</p>	3	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 館蔵資料371件(李秉昌コレクション韓国・中国陶磁351件、日本陶磁10件、オープンデータ化作品10件)のデジタル撮影を行った。 【令和3年度実績】 館蔵資料173件(柳原睦夫作品4件、濱田庄司作39件、オープンデータ化作品20件、韓国陶磁110件)のデジタル撮影を行った。 イ 継続的に研究図書等の収集を行った。 購入図書資料197点(図書17点、雑誌34誌186点) 寄贈図書資料305点(図書253点、雑誌11誌52点) 【令和3年度実績】 購入図書資料241点(図書48点、雑誌34誌193点) 寄贈図書資料415点(図書322点、雑誌15誌93点)</p> <p>ウ ジャパンサーチ、グーグル・アート等各種媒体との連携による優れたコレクションの国内外への情報発信を継続的に行った。</p>	3	
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 現在提供している資料・展示物画像40件を引き続き有償提供する。 【令和2年度実績】8件</p> <p>イ 継続的に図書、研究図書の収集を行う。 【令和2年度実績】70点</p>	3	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 資料画像6件の有償提供を行った。 【令和3年度実績】7件</p> <p>イ 研究用図書33冊、雑誌8誌を収集した。 【令和3年度実績】研究用図書51冊、雑誌8誌</p>	3	
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 継続的に館蔵資料のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を進める。 【令和2年度実績】館蔵資料撮影 113カット、デジタル撮影 2,020カット</p> <p>イ 「なにわ歴史塾」で市民の閲覧に供し、また調査研究に資するため継続的に図書の収集を行う。 【令和2年度実績】図書4,726点</p>	3	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 館蔵資料撮影 70カット マイクロフィルム撮影なし 【令和3年度実績】 館蔵資料撮影 158カット マイクロフィルム撮影 なし</p> <p>イ 市民図書・調査研究図書等として購入図書194冊を受入れ、寄贈図書2,252冊を受け入れた。 【令和3年度実績】購入図書320冊、寄贈図書2,808冊</p>	3	

	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア アーカイブ事業の充実のため、アーカイブ資料やアーカイブ図書の整理や登録等の業務を継続して行う。</p> <p>イ アーカイブ資料やアーカイブ図書を公開する。</p> <p>ウ 大型や立体を中心に、未撮影作品や再撮影が必要な作品の撮影を実施する。</p> <p>・撮影済みの画像データを公開して、大阪中之島美術館収蔵品管理システムの充実を図る。</p>	3	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア アーカイブ事業の充実のため、アーカイブ資料やアーカイブ図書の整理や登録等の業務を継続して実施した。</p> <p>開室日：204日間</p> <p>予約閲覧利用者：71名（内キャンセル8名）</p> <p>レファレンス対応：42件</p> <p>収蔵資料（情報公開）：公開75件</p> <p>収蔵図書（OPAC）：図書登録 一般書 7,961冊</p> <p>雑誌 7,016冊（295タイトル）</p> <p>デジタルコンテンツ：公開資料数 5,180件</p> <p>イ アーカイブ資料やアーカイブ図書の整理・配架を進めた。</p> <p>ウ 作品資料の撮影。</p> <p>・美術館にて大型や立体を中心に、未撮影作品や再撮影が必要な作品の撮影を実施した。</p> <p>・撮影済みの画像データを公開して、大阪中之島美術館収蔵品管理システムの充実を図った。</p>	3	
<p>【中長期的発展を見据えて取り組む事項】</p> <p>4 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成</p> <p>法人の活動を支える専門人材を安定的に確保するため、条件を整備するとともに、成果に対する適正な評価を実施する。</p> <p>館蔵品保存管理、広報、教育、資金調達等に特化した専門人材の安定的確保と充実をめざす。</p>			<p>【機構の評価】</p> <p>美：3、自：3、陶：2、科：3、歴：3</p> <p>中：4、事：3</p> <p>学芸員について、欠員にともない自然史博物館で1名を採用し、また、市立美術館、東洋陶磁美術館において各1名、令和5年度採用予定の準備を進めた。</p> <p>また、文化庁補助金を得てインクルーシブ対応の研修会の実施、採用1～4年目の学芸員の研修など人材育成に取り組んだ。</p>	3	
	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 個々のスキルアップを図るため、調査や研修に職員を派遣して情報収集に努める。</p> <p>イ 館の人材を生かすための適切な職員配置、業務分担等を模索する。</p> <p>ウ 館の将来の運営を見据えた専門的な人材の獲得をめざす。</p>	4	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 各学芸員が学会・研究会・シンポジウム・セミナー等への参加に努めた。参加：71回</p> <p>イ 8月末に学芸員1名が退職したため、R5年4月の新規採用に向け、準備を進めた。</p> <p>ウ 再開館後に予定されている、教育普及事業の拡大に備え、専門職員の獲得をめざし、検討を進めた。</p>	3	
	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 退職・育休・産休等に伴う欠員を速やかに補充する。</p> <p>【令和2年度実績】4月に学芸員2名を採用し、11月にアルバイトを採用した。</p> <p>イ スキルアップのため、館内に博物館学関連催事をオンライン・オフラインで誘致・実施する。</p> <p>【令和2年度実績】10月より標本レスキューに関連した展示、11月に自然史標本レスキューをテーマとしたシンポジウムを実施。2月に取りまとめ成果を公表した。</p> <p>ウ 外部研究者とのネットワークづくりや研究能力の向上を目的とした、館内外で開催される学会参</p>	4	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 退職欠員の甲虫担当学芸員の補充を4月に行った。11月から2月に育休取得した学芸員の業務をアルバイトにより補充した。</p> <p>イ 文化庁事業による補助金（M3プロジェクト）でインクルーシブ対応関係の研修会を複数回（視覚障害、発達障害、やさしい日本語等）実施した。</p> <p>【令和3年度実績】文化庁助成事業を受けて視覚障害者対応の研修を行った。</p> <p>ウ 西日本自然史系博物館ネットワークの研究会、全国美術館会議教育研究会等を当館で実施した。</p>	3	

	<p>加等専門的研修への参加を進める。積極的にオンライン会議等も活用して進める。</p> <p>【令和2年度実績 イ）ウ）関連】「博物館再開のための自然史系学芸員 Zoomミーティング」、「デジタル時代の博物館における魅力発信と肖像権について考える」(12/7実施)、「COVID-19 状況下だからやってみた工夫、身につけたい技」(2/1実施)等を西日本自然史系博物館ネットワークで実施</p> <p>エ 総務系職員、案内要員を含めた、館の活動への理解を深めるための研修を実施する。</p> <p>【令和2年度実績 関連】視覚障害者対応研修等を実施、またおよびロジックモデル評価を学ぶワークショップを実施した。</p>				<p>エ 文化庁事業による補助金(M3プロジェクト)は総務課職員等も対象としており、YouTube見逃し配信等により、機構内他館の職員や他の博物館施設の職員にも研修提供を行っている。</p>
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 専門的人材の採用・育成と職務の役割を進め国際的専門美術館としての体制の充実を図る。</p> <p>【令和2年度実績】新規学芸員の採用1名、インターン受入3名</p> <p>イ 学芸員のスキルアップを図るため、国内外での研修参加を推進する。</p> <p>【令和2年度実績】会議、研修等参加のべ16名</p> <p>ウ 館の人材を生かすための適切な職員配置、業務分担等を模索する。</p>	4	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 学芸員の欠員に伴い、アルバイト(学芸員)を1名採用した。また、次年度の学芸員1名(東アジア陶磁文化史)の採用に向け公募、選考を行った。インターン1名(継続1名)を受入。</p> <p>【令和3年度実績】欠員に伴い、アルバイト(学芸員)を1名採用した。インターン受入4名。</p> <p>イ 研修実績 のべ11名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東洋陶磁学会第49回大会(6月11~12日、5名) ・令和4年度 公開承認施設担当者会議(6月15日、5名) ・日本博物館協会顕彰者1名 <p>【令和3年度実績】のべ21名</p> <p>ウ 館の人材を生かすための適切な職員配置、業務分担等を検討、実施した。</p>	2	
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 各種学会・研究会、講習等に随時参加して、専門性の向上と広範囲の情報の収集に努め、資質向上を図る。</p> <p>イ ブラネタリウム、サイエンスショーの制作時と制作後の組織内評価や、常設展示の改良評価の実施を通じて、学芸員の資質向上を図る。</p>	4	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 全国科学博物館協議会、日本プラネタリウム協議会研究会、日本科学史学会に参加した(オンライン参加を含む)。</p> <p>イ プログラム公開前には、プラネタリウム試写会、サイエンスショー検討会を実施した。公開後は実施内容を検討する事業検討会を合計4回開催し、議論を行い、事業に活用した。</p>	3	
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 職員のスキルアップを図るため、研修情報等の収集に努め、参加機会を得る。</p> <p>イ 館の人材を生かすための適切な職員配置、業務分担等を模索する。</p>	4	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 文化庁主催「公開承認施設担当者会議」及び「国宝・重要文化財(美術工芸品)防災・防犯対策研修会」に学芸員各1名がオンラインで参加した。東京文化財研究所セミナー「記録作成と情報発信・画像圧縮の利用」(9月)、奈良文化財研究所「文化財担当者研修(デジタルアーカイブ課程)」(7月)、文化財活用センター「令和4年度博物館・美術館等保存担当学芸員研修(基礎コース)」(1月)に学芸員各1名が参加した。また、10月には開催した特別</p>	3	

			企画展の広報を題材に、機構内職員を対象にインターネット広告勉強会を開催した。 イ 異動等の実施により、適切な配置をめざすとともに、新たな体制を模索中である		
	(大阪中之島美術館) 安定した運営とブランディングに資する協賛金・協力制度を構築し、人材を配置する。	4	(大阪中之島美術館) 安定した運営とブランディングに資するべく、協賛金・協力制度を構築するとともに、PFI事業者のプロパー職員の増員を行うなど、必要な人材を適宜確保・配置した。	4	
	(事務局) ア 採用されて、数年の学芸員に対して、機構、各館の運営、活動等について研修を行い、今後の現場での活動に役立つよう育成を行う。	4	(事務局経営企画課) ア 採用1～4年目の学芸員に対して、機構及び各館業務の必要性・重要性を再確認し、機構全体のガバナンスを図ると同時に資質向上を図るため、新任学芸員研修を実施した。 参加者数：12名	3	
5 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧に関する調査研究 博物館等資料に関する専門的見地からの調査・研究を実施する。 博物館等資料の展示をはじめとする公開・活用に関する調査・研究・開発を実施する。 博物館等資料の保存や修復に関する調査・研究を実施する。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 中：3、事：3 各館とも着実に調査研究を進め、館活動に大きく寄与する状況となった。特に、市立美術館では、改修に向け、各地の博物館の保存・展示設備の現地調査を実施し、また、東洋陶磁美術館では、保存・展示手法等の研修にのべ21名が参加する等、新たな知見を得ることができた。	3	
	(大阪市立美術館) ア 館蔵品や関連作品に関する基礎研究を継続的に進める。 【令和4年度予算目標】著書・論文等10件、研究発表10件、展覧会報告1件 【令和2年度実績】著書・論文等15件、研究発表12件、コレクション展報告25件 イ 資料保存、展示手法について、最新の情報の収集に努める。 改修に向けた保存・展示設備の情報収集に傾注する。(3市美改修)	5	(大阪市立美術館) ア 3月に研究紀要を発行し、館蔵品を中心とした研究活動成果を公開した。学会誌ほか様々な媒体を通じて、各学芸員が論文等で研究成果を発表した。著書・論文等11件、研究発表12件(本年度はコレクション展なし) 【令和3年度実績】著書・論文等21件、研究発表5件、展覧会・コレクション展報告14件 イ 改修に向けた保存・展示設備の情報収集を行った。大阪中之島美術館、中之島香雪美術館、東京国立博物館、大倉集古館、泉屋博古館東京分館、サントリー美術館等を訪れ、収蔵庫の設備、展示室のケースや照明等についての現地調査を行い保存・展示設備の検討に役立った。	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 館蔵資料を活用した研究、および野外での現況や生態に関する基礎研究を継続的に進める。 【令和2年度実績】査読付き論文 20本、著書5冊、その他245本を公開、学会発表も10件行った。 イ 西日本自然史系博物館ネットワークや関連学会等と連携して資料の保存科学的研究会、展示手法に関する研究会に参加または誘致開催する。 【令和2年度実績】東京文化財研究所の被災自然史標本の対応マニュアル作成協力。また南海トラフ巨大地震を想定した研究会を行った。 ウ 科学研究費補助金を活用した現在継続中の研究	5	(大阪市立自然史博物館) ア 大阪市立自然史博物館の収蔵庫利用は内外の研究者に高いレベルで活用された。館員の利用は研究発表で評価できるが、外部研究者の利用実績も非常に高いレベルである。これは保管状況の良さと高い公開性を示す数値である。 外来利用者 一般・特別収蔵庫761名、液浸収蔵庫149名(アルバイト、実習生、館員や業者を除く) 【令和3年度実績(※コロナ禍の影響のため閉鎖期間が長かった)】 一般・特別収蔵庫 外来利用者 682人日	3	

	課題を継続的に実施する。		液浸収蔵庫 外来利用者 92人日（アルバイト、実習生、館員や業者を除く） イ 西日本自然史系博物館ネットワークと協力して、保存ラベルに関する研修、デジタル化による保存と利用の両立等に関する研修を行った。 ウ 令和4年度は当館学芸員（外来研究員含む）が研究代表者となる科研費の新規採択は得られなかったが、継続課題主担15件（うち延長課題6件）、継続課題分担7件と合わせ22件を獲得し、著書・論文等も順調に公開された。民間助成7件やJST助成金1件も採択された。 【令和3年度実績】当館学芸員（外来研究員含む）が研究代表者となる科研費は新たに1件の採択にとどまったが新規分担課題4件、継続課題主担16件（うち延長課題5件）、分担6件（うち延長1件）とあわせ27件を獲得】		
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 館蔵品に関する調査研究を継続的に進める。 【令和2年度実績】著書1件、論文等8件、その他原稿26件、研究発表2件、講演会等12件、取材協力4件、科研4件 イ 保存、展示手法等に関する調査研究を進め、最新の情報の収集を行う。 【令和2年度実績】 研修、シンポジウム等参加のべ26名	5	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 館蔵品に関する調査研究を継続的に進めた。（調査実績と調査研究の成果） ・論文等4件、その他原稿4件、研究発表2件、講演会等8件、取材協力2件、科研4件 【令和3年度実績】論文等5件、その他原稿10件、研究発表7件、講演会等10件、取材協力3件、科研4件 イ 保存、展示手法等に関する調査研究を進め、最新の情報の収集に努めた。研修、シンポジウム等参加のべ21名 ・展示照明と比較実験（5月12日、7名） ・展示照明と比較実験（6月3日、6名） ・展示照明と比較実験（6月9日、7名） ・令和4年度国宝・重要文化財（美術工芸品）防災・防犯対策研修会（6月16日、1名） ・視覚障害者向けの鑑賞プログラムを開発し、ワークショップを実施した（3月5日、文化庁 Innovate MUSEUM事業） 【令和3年度実績】 研修、シンポジウム等参加のべ11名	3	
	(大阪市立科学館) ア 館蔵資料に関する基礎研究を継続的に進める。 【令和2年度実績】 著書・論文等29件、研究発表7件 イ 資料保存、展示手法に関する研修に参加するなど、最新の情報の収集に努める。 ウ サイエンスガイドリーダーから展示物等について意見徴収し、展示物等の改善・改修のための調査研究を行う。	5	(大阪市立科学館) ア 館蔵資料等に関する基礎研究を実施し、成果を公表する大阪市立科学館研究報告第32号を発行した。 【令和3年度実績】 著書・論文等33件、研究発表6件 イ 全国科学博物館協議会大会、全国理工系学芸員展示研究大会に参加した。 ウ サイエンスガイドリーダーから展示の意見を月1回程度のペースで聴取し、改善・改修の検	3	

	(大阪歴史博物館) ア 館蔵資料に関する基礎研究を継続的に進める。 【令和2年度実績】共同研究事業4本、基礎研究事業1本、著書・論文等55件、研究発表24件 イ 資料保存・展示手法について、最新の情報の収集に努める。	5	討を行った。 (大阪歴史博物館) ア 個々の学芸員による日常的な館蔵品研究を実施した。また、館の研究事業である共同研究の内1件において、公園内の5世紀代の復元倉庫の3Dデータ作成による研究を実施した。 イ 資料の公開、保存を阻害する展示ケースの有機酸については、令和3年度に実施した実験の結果に基づいて空気清浄機を導入し、その連続稼働が有機酸・アンモニアの一時的除去に極めて有効であるとの検証結果を得た。これにより、文化庁、文化財活用センターとの協議を経て、特別企画展「刀剣」に出品予定の国指定品にかかる53条公開申請を提出し許可を得た。	3	
	(大阪中之島美術館) ア 収蔵作品資料に関する調査研究を継続的に進める。 イ 作品資料保存や展示方法について、最新の情報の収集に努める。	5	(大阪中之島美術館) ア 収蔵作品資料に関する調査研究を進めるとともに、収蔵作品資料についての照会に積極的に対応した。 イ 作品資料保存や展示方法について最新の情報を収集した。	3	
	(事務局) ア 博物館の利用者等に関する調査・分析等を継続的に実施する。	5	(事務局経営企画課) ア 毎月の入館者情報の集約を行い、経営会議、理事会等での共有と対策に向けての基礎資料とした。一部の特別展に対して、来館者の満足度、実施館の取り組み等を調査・結果の分析を行い、次回以降の同種の特別展実施に向けての基礎データを作成した。	3	
6 博物館等の運営に関する調査研究及び評価等 他館の事例研究等、博物館運営に関する調査・研究を実施する。 国内外からの来館者や各種活動への参加者のニーズを把握するため、必要な調査(マーケティング)やデータ分析を行う。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 事：3 令和3年度に引き続き、従来の紙面でのアンケート調査に加え、ウェブ上でのアンケート作成を行い、積極的に入館状況等の分析に努めた。	3	
	(大阪市立美術館) ア 効果的な広報戦略を策定するため、来館者を対象とした各種アンケートを実施し、他館の結果も参照して分析を行う。	6	(大阪市立美術館) ア 「フェルメール展」等でGoogleフォームを利用したウェブアンケート、チケット購入者を対象にしたウェブアンケート等を実施、分析を行った(総回答数：1,432)。	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 自主企画展の開催時には実施目的を明確にし、その目的・計画に基づいて組織内評価を行い、効果を検証する。 【令和2年度実績】コロナ禍の影響によりアンケート評価が実施できず、組織内自己評価のみ実施した。 イ ミュージアムショップや普及行事についても適宜、アンケート調査や外部有識者によるピアレビューの実施によって、効果検証等の手法開発を	6	(大阪市立自然史博物館) ア 「日本の鳥の巢と卵427」展について館内スタッフ・関連業者合同の総括評価を行った。 イ ミュージアムショップについては、今年度各種マスコミの取材を受けたので、バイアス下での調査になることを懸念し、次年度に繰り越した。ワークショップについて参加者に対するアンケート調査を実施した。 【令和3年度実績】ミュージアムショップに関するアンケート評価を実施したほか、外部有識者	3	

	試みる。 【令和2年度実績】コロナ禍の影響により接触及び滞在時間を少なくする観点から今年度はアンケート評価をとりやめた。ショップスタッフがオンライン講演会「ミュージアムグッズサミット」で講演し、多くのコメントと評価をもらい改善の参考とした。		によるレビューを実施した。	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 入館者に対するアンケート調査（ウェブ版含む）とその効果的な情報提供や広報活動等への活用について検討する。 【令和2年度実績】特別展アンケート8回（臨時休館のため4-7月は実施できず）	6	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア アンケート実績 休館中の館に対するアンケート調査（ウェブ版）を講演会等イベントごとに実施し、その結果の分析を行い、利用者のニーズを把握して今後の事業の参考とするとともに、効果的な情報提供、広報活動、事業企画に活かした。 ・日中国交正常化50周年記念講演会 実施期間：82日（9月29日～12月19日） 回答数3（再生回数370回） ・開館40周年記念特別インタビュー「大阪市立東洋陶磁美術館の開館への道とこれから（前編・後編）」（11月7日～）回答数1（再生回数562回） ・李秉昌博士記念公開講座(15)「東アジア水中考古学の成果」（令和5年3月4日、期間限定アーカイブ配信（YouTube限定公開）3月8日～21日） 回答数24（参加者数：計178名、再生回数259回） ・「大阪市立東洋陶磁美術館収蔵品画像オープンデータ利用状況ウェブアンケート」（文化庁Innovate MUSEUM事業）実施期間8日（令和5年2月15日～2月22日） 回答者15名 ・オンラインアート授業「カラフル☆アートクラス ゆてき♡ステキ」（文化庁Innovate MUSEUM事業）実施期間：1日（令和5年2月2日） 回答数156名（児童150名、先生6名） 【令和3年度実績】 ・黒田展 実施回数：3回 実施期間：18日 回答数162（実施期間中入館者の約5.1%） ※非常事態宣言に伴う臨時休館のため、4月は実施できず。 ・柳原/古丸谷展 実施回数：7回 実施期間：42日 回答数219（実施期間中入館者の約6.3%） ・コレクション展関連テーマ展示 感想フォーム設置期間：会期中常時 回答数46	3
	(大阪市立科学館) ア アンケートにより入館者の満足度等を調査、分析、評価し、館の運営、事業内容の改善を行う。 イ 学識経験者等によって構成される「大阪市立科学館展示改装検討会」を設置し、「大阪市立科学	6	(大阪市立科学館) ア 入館者に対するアンケートをオンラインと紙媒体の両方で実施し、プラネタリウム、展示場、その他内容について10段階での評価や記述意見を収集し、それら意見を職員に回覧し、参	3

	館展示改装基本計画」策定に向け協議する。		考にしている。加えて、プラネタリウム、サイエンスショーそれぞれの観覧者アンケートも別途実施しており、これらの意見は館内の事業検討会等で参考にし、事業内容の改善に役立てた。 イ 展示改装基本計画について、外部委員を交えた検討会を4回開催し、議論を行った。また、館内で業務遂行のための体制を整え、策定支援業務委託業者を交えて会議を重ね、基本計画を策定した。		
	(大阪歴史博物館) ア 効果的な広報戦略を策定するため、来館者を対象とした各種アンケートを実施し、他館の結果も参照して分析を行う。 イ 展覧会事業を館内組織で事後検証し、効果を確認する。	6	(大阪歴史博物館) ア アンケートによる情報収集と分析 ・常設展(施設含む)に加え、特集展示4本、特別展1本、特別企画展1本のアンケートを実施し、結果を分析して事業策定の参考とした。これらは、Googleフォームを活用し、QRコード形式で実施することで集計の効率化とコロナ対策を図った。 イ 特別展・特別企画展終了後に実施する振り返りの会において、アンケート結果を参照し、検証に役立てた。	3	
	(事務局) ア 博物館の評価についての情報収集に努めるとともに、6月末までに令和3年度の自己評価を大阪市長に提出し、また上半期終了後に令和4年度の中間評価(仮評価)を実施する。	6	(事務局経営企画課) ア 令和3事業年度にかかる自己評価を遅滞なく大阪市長へ提出するとともに、上半期終了時の中間評価及び下半期終了時の評価を実施した。 ・各館における入館者状況について、入館者数と推移、属性等を可視化して把握し、各館とも共有した。 ・各館の日々の展示ごとの観覧者数等をリアルタイムで集計・分析し、他館の情報も含めた経営会議等での議論を通じて、業務改善を促した。	3	
7 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復 博物館等資料の保存・継承と、展示等による効果的な活用を図るため、必要な修復を進める。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：2 中：3 各館とも資料の状況等により必要な修復を判断し、計画的に館蔵資料の修復や展示物の改修を実施した。	3	
	(大阪市立美術館) ア 館蔵資料の中から、資料の状態を勘案して優先順位を設け、修復を行う。(3市美改修) 【令和4年度予算目標】3件 【令和2年度実績】3件	7	(大阪市立美術館) ア 中国書蹟1点、仏教絵画3点を修復し、うち1点の中国書蹟(重要文化財)は、文化庁の国庫補助金の申請を行い、費用の半額に当たる3,700千円強を獲得し、令和5年度までの2か年にわたる修理を行う。他の3点は3月までに修復を完了させた。令和3年度から継続している中国絵画(重要文化財)1点も、文化庁の助成金を獲得して3月に修復を終了した。 【令和3年度実績】3点 (うち1点は4年度までの2カ年計画)	3	

	(大阪市立自然史博物館) ア 展示資料を中心に必要に応じた修復を行う。ケース照明のLED化を計画的に進める。今年度は試験的な導入を進める。 イ 収蔵資料のうち、修復が必要な希少文献や重要標本のうち、修復が必要なものの調査と検討を行う。 【令和2年度実績】ナウマンホール地図ビューワ、第1,3展示室(映像装置、人体骨格)や第5展示室の改良を実施した。	7	(大阪市立自然史博物館) ア 第5展示室里山ステージ、どんぐりコースターの改修を実施。ネイチャーホールウォールケース、収蔵庫等一部をLED照明化した。 【令和3年度実績】 どんぐりコースター改良のための改修を行った。 イ 収蔵資料の修復については革表紙の古書籍についての修復検討を継続。	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 館蔵資料の中から、資料の状態や活用予定等を勘案して優先順位を設け、館蔵品の修復を行う。 【令和4年度目標】5件5点 【令和2年度実績】5件5点	7	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 修復作品 韓国陶磁計7件7点 【令和3年度実績】韓国陶磁計4件4点	3	
	(大阪市立科学館) ア 科学に関する展示は、情報の陳腐化や体験型展示の老朽化等が起こるため、計画的な改修・改装を実施する。 【令和2年度実績】展示物の改修・改善等14件	7	(大阪市立科学館) ア 常設展示7点の改善を行った。 【令和3年度実績】展示物の新規設置2件、改修・改善等7件	3	
	(大阪歴史博物館) ア 館蔵資料の中から、資料の状態を勘案して優先順位を設け、館蔵品の修復を行う。 【令和2年度実績】3件3点	7	(大阪歴史博物館) ア コロナ禍の影響等による館の運営状況と資料の状況に鑑み、本年度の修復を見送った。 令和4年度実績 0件0点 【令和3年度実績】1件1点	2	
	(大阪中之島美術館) ア 収蔵作品資料について、作品保護を考慮して、修復と額装を行う。	7	(大阪中之島美術館) ア 修復：8件(11点) (内訳：美術7件、デザイン1件) 保存額装：5件(8点) (内訳：美術6件、デザイン1件) 【令和3年度実績】 ・修復：油彩画18点、デザイン作品9点、日本画8点 ・額縁：製作30点、修繕19点 ・保存処置：貴重資料157点	3	
8 各館の施設の計画的な整備及び改修 博物館施設としての機能と利用者サービスの向上を目指し、次の改修等を計画的に実施する。		8	【機構の評価】 美：4、自：4、陶：4、科：4、歴：3 美術館、及び東洋陶磁美術館では、リニューアルオープンに向けて、展示ケースの改修など、博物館機能等の向上を目指した改修工事を進めることができた。また、自然史博物館では、本館改修に関する調査を開始、科学館では展示改装の基本計画を策定するなど、改修計画を進めている。	4	
(大阪市立美術館) 館の機能強化やサービス・魅力向上を目指し、教育普及活動の場の確保も念頭に、本館の大規模改修計画を策定して、2021年度からの実施を目指す。	(大阪市立美術館) ア 館の機能強化やサービス・魅力向上を目的とした本館の大規模改修を着工し、令和7年度のリニューアルオープンを目指す。(3市美改修)	8	(大阪市立美術館) ア 令和7年度のリニューアルオープンに向け、計画どおり館本体の建築工事を10月より着工することができた。また壁面ケースの入れも終了し、請負業者と協議を進めている。	4	
(大阪市立自然史博物館) 今後50年を見据え、収蔵体制や常設展示をより魅	(大阪市立自然史博物館) ア 収蔵庫の再配置、高密度化等を進めていく。ま	8	(大阪市立自然史博物館) ア 新規の標本購入は間接経費の不足で来年度	4	

<p>力的な情報提供の場とするため、将来の展示改装に向けた構想づくりに着手する。 常設展示場内の展示端末およびその運用システムの更新を検討する。</p>	<p>た、将来に向けた精査を進める。 【令和2年度実績】中長期的な方向性を館内で議論し、大規模改修について予備的な議論を行った。 イ 老朽化した建物の計画的整備として、第2展示室の天井改修に向けた検討を進め、本館の耐震補強について検討を進める。 【令和2年度実績】ネイチャーホールの天井耐震を9月から実施、3月までに本館のEV、第三展示室の屋上防水、テラーの修理を実施した。合わせてネイチャーホール、ナウマンホールの天井照明はLED化された。 ウ 研究機器等の継続的更新を進める。webサーバ、電子顕微鏡、デジタルマイクロスコープの更新手法の検討を進める。 【令和2年度実績】情報システムの更新について検討を進め、改善提言を外務専門家や市民を交えて作成した。メールサーバの変更、図鑑DBシステムの刷新検討を進めた。生物顕微鏡を一部更新した。 エ 照明のLED化の推進による照明環境の向上に努める。ケース照明、居室・収蔵庫のLED化を計画的に進め、標本に悪影響を及ぼしえる収蔵庫の残置灯の問題の解決を目指す。 【令和2年度実績】ネイチャーホール、ナウマンホール天井の水銀灯をLED化した。 オ 将来的な展示更新のための調査を進める。情報機器の刷新計画と合わせ、魅力的な展示の実現に向け外部コンサルタントも依頼し、検討を行う。</p>	<p>に延期。集密棚に燻蒸処理の後に鳥の巣標本を収蔵した。 イ 第2展示室の天井改修に伴う更新に向けての検討を進めている。また、大規模改修に関わる調査の一環として耐震診断を進めている。 【令和3年度実績】講堂改修を行った。 ウ 凍結乾燥機の管理パネルの更新修理を実施した。また、老朽化した岩石研磨機を更新。デジタルマイクロスコープの更新をめざし科研費を申請した。 エ ネイチャーホールウォールケースの基本照明のLED化を実施した。 オ 本館改修の基本計画について調査を開始した。また、ドメイン移行の準備をすすめ、WEBサーバーの更新を計画中である。 【令和3年度実績】 メールサーバシステム更新</p>		
<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) 館の機能強化のため、本館エントランスを中心とした大規模な改修計画を策定し、2020年から実施を目指す。</p>	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 本館エントランスを中心とした既存設備改修を実施する。(3東陶改修)(2万博) イ 老朽化した展示ケースはじめ展示室の改修等を実施する。(3東陶改修)(2万博) ウ 老朽化した展示ケースLED照明機器の更新準備と実施を目指す。(1CRS)(2万博)</p>	<p>8 (大阪市立東洋陶磁美術館) ア 空調や電気系統、さらに応接室等、老朽化した本館エントランスを中心とした既存設備改修を実施し、リニューアルオープンや万博に備えた。 イ 老朽化した展示ケース等改修・修繕を実施し、リニューアルオープン後の展示空間の魅力向上につなげた。 ウ 老朽化した展示ケースのLED照明機器更新を実施し、作品本来の魅力をさらに引き出す展示空間の実現を果たした。</p>	4	
<p>(大阪市立科学館) 展示情報を更新し老朽化を回避するため、計画的な改修・改装を実施する。</p>	<p>(大阪市立科学館) ア 「大阪市立科学館展示改装(第4次展示改装)基本計画」を策定する。(2万博) イ 常設展示品・展示場の老朽化対策や安全対策を計画を行う。 ウ 外壁全面検査により安全性の現状を把握する。 エ 館内防犯カメラ設置を計画する。 オ ブラネタリウムホールの客席について、座席指定のあり方を検討する。(1CRS)</p>	<p>8 (大阪市立科学館) ア 展示改装の基本計画について、館内で業務遂行のための体制を整え、策定支援業務委託業者を交えて、フロア案等の検討を進めた。併せて、外部の学識経験者等を交えた検討会を4回開催した。また、展示改装にかかる基本計画を策定した。 イ 展示物の定期的な保守を実施した。 ウ 外壁全面検査について、専門業者による調査を行い、次年度以降の対策について議論を行った。</p>	4	

			<p>エ 館内防犯カメラの設置については、引き続き検討を進める。</p> <p>オ プラネタリウムホールの客席について、座席指定のあり方をチケット販売システムの更新と関連付け検討している。</p>		
<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>常設展示場の見直しを行い、老朽化した展示ケースや備品類の新調、展示機器の更新等を実施する常設展示場内の展示端末およびその運用システムの更新を検討する。</p> <p>増加する海外からの来館者に対応するための施設整備に努める。</p>	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 老朽化した展示ケースや備品類の新調、展示端末等の展示機器の状況を把握し、適宜対応を行う。</p> <p>イ 展示改修基本計画に基づき、展示改修へ向けての準備を進める。</p> <p>ウ 展示ケースの有機酸対策について日常的に改善作業を実施するとともに必要データを集め、展示ケース改修計画を進める。</p>	8	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 展示ケースおよび展示用蛍光灯、映像機器、展示情報端末（コロナ対策により使用停止中）については経年による劣化、故障が生じており、随時、修理等の対策を実施した。展示用蛍光灯については2年分を目処とした在庫確保を行った。</p> <p>イ 5月に展示改修基本計画報告書が完成した。全体の実施は困難であるため、活動や部分的改修を再検討し、5年度も継続する。</p> <p>ウ 有機酸対策について、特別展示室の展示ケース改修については、令和4年度に設計、5年度工事の計画で、業者選定し準備を進めた。特別企画展「刀剣」については、導入した空気清浄機の連続稼働による、空気環境の一時的清浄化の効果を確認した上で、文化庁・文化財活用センターとの協議、国指定品公開にかかる53条申請・許可を経て、問題なく開催終了できた。</p>	3	
<p>9 調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲得</p> <p>科学研究費補助金をはじめ助成金等の獲得に努める。</p> <p>科学研究費補助金の新たな館での研究機関指定を目指す。</p>			<p>【機構の評価】</p> <p>美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 中：3、事：3</p> <p>科学研究費補助金については、代表研究19件・分担研究16件合計35件が進行して（内令和4年度の新規採択は、機構全体で4件）、令和4年度の研究助成費は16,750千円であった。（件数は延長を除く）また、文化庁から、「ART for the future!2」に2,254千円、「Innovate MUSEUM事業」にミュージアム活性化実行委員会、M3（Motto Minna no Museum）プロジェクトとして、7,636千円の採択を受けた。</p>	3	
	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 科学研究費補助金等の外部資金の獲得を目指す。</p> <p>【令和2年度実績】</p> <p>科学研究費：4名が獲得、1名が分担者 文化庁助成金：1名が獲得</p>	9	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 科学研究費：3名が申請し、2名が獲得</p> <p>【令和3年度実績】</p> <p>科学研究費：3名が獲得 文化庁助成金：1名が獲得 民間助成金：1名が獲得</p>	3	
	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 研究活性化のために当面取り組むべき研究課題について新規の応募を科学研究費補助金及び民間研究助成金に対して行う。</p> <p>【令和2年度実績】</p> <p>令和2年度実施は研究代表者として14件（新規課題5件、継続課題9件）が採択された（これと別に延長課題2件）。他研究機関の分担者として参加す</p>	9	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 科研費について新規申請代表者として課題12件を申請、新規代表採択課題0件、継続課題主担15件（うち延長課題6件）、継続課題分担7件とあわせ22件を獲得した。他に科学技術振興機構によるRISTEXに応募、採択された。民間助成金にも多数応募している。</p> <p>【令和3年度実績】</p>	3	

	<p>る課題も7件（新規2件、継続は5件）、その他民間助成5件（新規2件、継続3件）が採択。</p> <p>イ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に代わる博物館支援事業の募集に各館と共に応募する。</p> <p>【令和2年度実績】</p> <p>採択を受け、視覚障がい者対応および大阪自然史フェスティバル関連シンポジウムを実施。自然史フェスティバルの内容はコロナ禍の影響により一部縮小してオンラインで実施したが、オンラインシンポにより多くの視聴を得ることができた。</p> <p>ウ 科研費調査で行った自然史博物館に対する寄付支払い意思額の調査に関して分析し、寄付マーケティング動向を探り、自然史の活動に還元する。</p>		<p>新規申請代表12件 新規代表採択1件、分担課題4件、継続課題主担16件（うち延長課題5件）、分担6件（うち延長1件）とあわせ27件を獲得</p> <p>イ 後継のInnovate MUSEUM事業に応募し、採択された。他にART for the future!2に応募し、採択された。</p> <p>ウ 寄付を促進するための講演会等を行い、また、経営企画課とパイロット営業を行い合計11件の寄付を得た。</p> <p>【令和3年度実績】 11件</p>	
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 科学研究費補助金等を活用した研究課題を継続的に実施し、また新規の応募を行い研究資金の獲得に努める。</p> <p>【令和2年度実績】新規申請4名6件（研究代表者3名、研究分担者1名）、継続4件（研究代表者3名、研究分担者1名）</p> <p>イ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に代わる博物館支援事業の募集に各館と共に応募する。</p> <p>【令和4年度目標】新規申請1件（前年度に引き続き「館蔵資料オープンデータ化による国際発信（館蔵品20件）」の拡充のため）</p> <p>【令和2年度実績】採択1件（事務局と共同して文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」を申請し、採択された）</p>	9	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 科学研究費補助金等を活用した研究課題を継続的に実施し、また、新規の応募を行い研究資金の獲得に努めた。</p> <p>新規申請1名1件（研究分担者1名）、継続5件（研究代表者4名、研究分担者1名）</p> <p>【令和3年度実績】新規申請2名3件（研究代表者1名、研究分担者2名）、継続5件（研究代表者4名、研究分担者1名）</p> <p>イ 機構他館とともに文化庁Innovate MUSEUM事業（補助金）の応募を行い、採択を受けた。 2件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「コロナ禍に対応し、ポストコロナを見据えた事業モデルの開発」（4,985千円） ・「M3 (Motto Minna no Museum) プロジェクト」（2,651千円） <p>【令和3年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「館蔵資料のオープンデータ化による国際発信」によるオープンデータサイトの改修・館蔵資料の高精細デジタル画像撮影等を実施 ・文化庁の「ARTS for the future! コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業」の応募を行い、採択を受け（5,851千円）、コレクション展開連テーマ展示及び関連イベントを企画・実施。 	3
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 科学研究費補助金をはじめとした各種研究助成金を獲得するため、学芸員が新規に応募をする。</p> <p>【令和2年度実績】新規応募11件、採択1件（研究代表者）</p> <p>イ 文化庁補助金「地域と共同した博物館創造活動支援事業」に代わる博物館支援事業の募集に各館と共に応募する。</p>	9	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 科学研究費補助金を獲得するため、令和5年度に向けて8件応募した。（採択0件）</p> <p>【令和3年度実績】応募14件、採択3件</p> <p>イ 令和4年度は補助金公募の目的が変更となったため、協議の上応募を見送った。</p>	3
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 科学研究費補助金等外部資金を獲得するため、学芸員が新規応募する。</p>	9	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 令和4年度の科学研究費助成金は新規応募件数が4件で、うち2件が新規に採択された。そ</p>	3

	<p>【令和2年度実績】採択：研究代表者6件（新規1件、継続5件）、研究分担者8件（新規1件、継続7件）、他に出光文化福祉財団調査・研究助成1件</p> <p>イ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に代わる博物館支援事業の募集に各館と共に応募する。</p>		<p>の結果、前年度からの継続課題を合わせて、令和4年度の研究代表者は8件（うち、昨年度終了予定で今年度に繰り越した課題が2件）、研究分担者6件（組織内部の分担者2名を含む）となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度科学研究費助成金に新規応募（4件）し、3件が採択された。 <p>【令和4年度実績】</p> <p>研究代表者8件（継続課題6件、新規採択2件） 研究分担者6件（継続課題6件、新規採択0件） （組織内部の分担者2名を含む）</p> <p>【令和3年度実績】</p> <p>研究代表者6件（継続課題5件、新規採択1件） 研究分担者6件（継続課題7件、新規採択1件） （組織内部の分担者2名を含む）</p> <p>イ 令和4年度Innovate Museum事業（地域課題対応支援事業）に中核館として機構各館とともに応募し、8月に採択された。当館事業としては中之島美術館とともに映像フィルムの発掘・公開事業に取り組んだ。</p>		
	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>公的補助金や民間助成金の申請を視野に入れ、情報収集に努める。</p>	9	<p>(大阪中之島美術館)</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化庁による令和3年度文化芸術振興費補助金（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業）に申請し、一部採択された（採択額40,632千円）。 一般財団法人地域創造の「地域の文化・芸術活動助成事業」の助成金を獲得した。 展覧会開催に関連して、以下の団体・事業の助成・補助金を獲得した。ユニオン造形文化財団、安藤忠雄文化財団、花王芸術・科学財団、令和4年度文化庁優れた現代美術の国際発信促進事業、令和4年度地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業。 	3	
	<p>(事務局)</p> <p>ア 科学研究費補助金に応募を行い研究資金の獲得に努める。</p> <p>イ 文化庁補助金を活用した「博物館機能強化推進事業(仮)」を予定し、また次年度の応募を行って補助金獲得に努める。</p> <p>【令和2年度実績】ミュージアムと地域を活性化させる魅力発信事業 採択</p>	9	<p>(事務局経営企画課)</p> <p>ア 科学研究費補助金に応募しなかった。</p> <p>イ 機構が開催する「大阪博(仮称)」の実施にあたり、日本博2.0に応募し、約40,000千円の採択を受けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化庁補助金Innovate MUSEUM事業に応募し、採択され、積極的に外部資金の獲得に努めた。 	3	
<p>10 バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した計画的な整備及び改修</p> <p>高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化を推進する。</p> <p>さまざまな利用者を念頭に、ユニバーサルデザイン化を推進する。</p>			<p>【機構の評価】</p> <p>美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3</p> <p>市立美術館、東洋陶磁美術館については改修工事に合わせてバリアフリー化を進めることができている。また、計画を有している館については、その計画を進めた。</p>	3	
	<p>(大阪市立美術館)</p>	10	<p>(大阪市立美術館)</p>	3	

	<p>ア 大規模改修に際し、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した設計を行う。(3市美改修)</p>		<p>ア 10月から工事着工し、来館者用に正面エントランス側に2機、慶沢園側に1機のエレベーターを設置する(うち2機は新設)こととし、バリアフリー化を進めている。また、正面エントランスから中央ホールに通じるエスカレーターを新設し、来館者の利便性を高めるとともに、ユニバーサルデザイン化を含め、来館者に分かりやすい館内掲示の検討を進めている。</p>		
	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 障がい者の観覧や行事参加を補助するための支援策策定に向けプログラム検討や教育ニーズ等の情報を収集する。 【令和2年度実績】 日本ライトハウスによるアドバイスを受け、10月以降、館内研修、点字資料、墨字資料等の改善・作成を行った。</p> <p>イ 受付カウンター等でのタブレット端末を利用した翻訳や説明の支援を検討し進める。 【令和2年度実績】 独自事業による実施を一部行ったがコロナ禍の影響により接触端末利用、外国人案内の機会が殆どなかった。</p> <p>ウ ポストコロナの高齢者ニーズについて検討を進める。また、バリアフリー化の施設改修に絡めた検討を行う。 【令和2年度実績】 関連研究会を3月に予定していたがコロナ禍の影響により中止になった。</p>	10	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 文化庁Innovate MUSEUM事業M3プロジェクトにより、視覚障害者対応、発達障害等の対応について館内の注意喚起だけでなく、支援者への教育も含めて事業を行った。</p> <p>イ 今年度は、検討の結果、スタッフの口頭による対応が主となり、タブレットを必要としなかった。</p> <p>ウ 文化庁助成金による建物のバリアフリー化に関する講習会を行ったほか、大規模改修の計画検討の一環として他館事例の検討を行い、計画への反映を進めた。</p>	3	
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化及び、ユニバーサルデザイン化を推進する。(3東陶改修)</p> <p>イ 最新式の多目的トイレ、授乳室の新設等来館者ニーズを踏まえた環境整備を行う。(3東陶改修)</p>	10	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化やお客様導線の検討及び、ユニバーサルデザイン化をエントランス増築棟建築工事にて推進した。</p> <p>イ 最新式の多目的トイレ、授乳室の新設等来館者ニーズを踏まえた環境整備をエントランス増築棟建築工事にて推進した。</p>	3	
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 救護室、おむつ交換用ベビーベッド等、来館者ニーズに応じたサービスが提供できるよう、計画的に点検し、整備・改修する。</p> <p>イ 展示場のトイレ洋式化等の計画策定を進める。</p>	10	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 救護室、おむつ交換用ベビーベッド、多機能トイレを設置しているほか、車椅子とベビーカーの貸し出しを実施した。また、授乳スペース(移動式)の整備を検討中。その他、展示場については点字版ガイドおよび読み上げソフト対応のテキスト版ガイドを提供した。</p> <p>イ 展示場1～4階のトイレについては、展示改装と併せて整備が可能か検討中。</p>	3	

	(大阪歴史博物館) ア 障がい者の観覧を補助するための支援策策定に向けて情報を収集する。 イ 増加する海外からの来館者対応のため、大阪・関西万博に向けた改修計画のなかでトイレの洋式化等の調整を進める。 ウ 震災・火災等の非常時の案内について、様々な来館者館者に対応できる方策を検討する。	10	(大阪歴史博物館) ア 全館バリアフリー化、多目的トイレ設置、車椅子貸出し等対応済み。更なる改善点については情報収集を行った。 イ トイレの洋式化は、改修計画を作成済み。 ウ AED（自動体外式除細動器）を1階ならびに5階に設置。新型コロナウイルス感染症拡大防止の案内を多言語で実施している。	3	
--	--	----	---	---	--

中期目標	<p>1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」</p> <p>(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力の効果的な発信 博物館等の魅力を広く伝えるため、各館がさまざまな活動を展開するとともに、他の博物館等、学校、学会、調査研究機関その他の国内外の関係機関（以下「他の博物館等関係機関」という。）と積極的に連携する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常設展における展示替え及び自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化 ・博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧並びにそれらの調査研究に関する教育及び普及の事業を行うこと ・多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開 ・博物館等資料の貸出し及び他の博物館等関係機関の資料の借用 ・各館の枠を超えた知識及び経験等の共有並びに展示及び広報等における戦略的連携 ・ICT等を活用した博物館等資料に関する情報の有効利用及びアーカイブ化による公開の推進 ・他の博物館等関係機関との相互支援及び協働を通じた相互の資源の保全及び効果的な活用 ・各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の実施
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由 ・評価のコメント	評価
(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力の効果的な発信						
博物館等の魅力を広く伝えるため、次の通り、各館がさまざまな活動を展開するとともに、他の博物館等、学校、学会、調査研究機関その他の国内外の関係機関と積極的に連携する。						
【各館及び法人(以下、「各館等」という。)の基礎的活動の充実を目指す事項】 11 常設展における展示替え 常設展示について、次の方針のもと、展示更新をはじめその充実に努める。			【機構の評価】 美：3、自：4、陶：3、科：4、歴：3 自然史博物館、科学館、歴史博物館において、前年の入場者数や当初目標人数を大きく超えることができた。	4		
(大阪市立美術館) 最新の研究成果を基に館蔵品及び寄託品を活用し、日本と中国をはじめとする東アジアの美術・歴史・文化の理解の促進に寄与する展示を行う。	(大阪市立美術館) 改修前の期間は、特別展のみの開催のため常設展の実施はなし。	11	(大阪市立美術館) 館内での常設展は実施しないが、当館コレクションの名品を紹介する巡回展「美をつくしー大阪市立美術館コレクション」を行っている。本館の学芸員が一丸となって企画や図録執筆を行うとともに、館長が各館で講演会を行った。また、各分野の学芸員が作品点検や展示の立会を行った。東京展がサントリー美術館で9月から11月に開催された。(入館者数：29,605名。)福島展が福島県立美術館で3月21日に開幕した。R5年9月には熊本で巡回展を予	3		

<p>(大阪市立自然史博物館) 「自然と人間」をテーマにした展示を行い、自然科学研究の進展や、新たな資料やコンテンツの活用に合わせて適時の更新を進める(開館日)。常設展示室内で、小規模な企画展示を適時実施する。</p>	<p>(大阪市立自然史博物館) 人間をとりまく「自然」について、その成り立ちやしくみ、変遷や歴史を「身近な自然」「地球と生命の歴史」「生命の進化」「生き物のくらし」のテーマで展示する。 ア 常設展示室内でのテーマ展示・コーナー展示等を開催する。 ・テーマ展示「岸川椿蔵書」～4/3 ・テーマ展示「新収資料展」7/16～9/25 ・テーマ展示「自由研究展」12/11～1/30 ・ミニ展示「干支展示」1/5～30 【令和4年度予算目標】211,300人 【令和2年度実績】常設展示102,488人 ・岸川椿蔵書展：コロナ禍の影響による休館で実施できず YouTube にて公開 ・「世界一変な火山」展：コロナ禍の影響による休館で実施できず、来年度開催 ・「池田小の地下」：コロナ禍の影響による休館で実施できず、来年度開催 ・大山桂貝類学文庫：25,517人観覧 ・「陸前高田市立博物館コレクションが遺す地域の自然と文化ー自然史標本レスキューの現在地点ー」：24,329人観覧 ・「氷河時代展ポスターができるまで」展：21,607人観覧 ・「ジュニア自由研究・標本ギャラリー」14,177人観覧 イ 展示室内での子どもワークショップを継続的に実施することによって、既存の展示室の活用を活性化。感染症の蔓延等、実施できない場合には、オンラインコンテンツ等を提供する。また、適宜アンケート等による評価を強化する。 【令和2年度実績】ワークショップは継続的に実施した。4月～7月、12～2月のワークショップは閉館等により22回が中止となり、14回実施。</p>	<p>11 (大阪市立自然史博物館) ア 常設展示入館者は247,000人超となり前年の177,377人に比して大幅回復している。 ・テーマ展示「岸川椿蔵書」～4/3 ・テーマ展示「標本を未来に引き継ぐ～新収資料展2022～」7/16～9/25 ・テーマ展示「田中秀介展：絵をくぐる大阪市立自然史博物館」10/25～12/11 ・テーマ展示「ジュニア自由研究・標本ギャラリー」12/11～1/30 ・ミニ展示「卯年展」R5年1/5～1/29 ・ミニ展示「道頓堀川のニホンウナギ」1/31～4/9 ・ミニ展示「モウコガマ」2/23～(4/23) ・テーマ展示「絶滅危惧種 東南アジアの霊長類～奥田達哉写真展～」3/11～(5/12)を実施した。 ・ウクライナの文化財復興のための募金開始に際してウクライナの資料を展示 イ 展示室内での子どもワークショップを継続的に実施。</p>	<p>4</p>
<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) 独自の展示方法による魅力ある館蔵品の展示を行う。</p>	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) 安宅コレクションの中国・韓国陶磁を中心に、李秉昌(イ・ピョンチャン)コレクションの韓国陶磁や、日本陶磁等のコレクション展示のリニューアルに向けて検討する。 【令和2年度実績】32,221人 ア 安宅コレクションの中国陶磁・韓国陶磁、李秉昌コレクションの韓国陶磁、日本陶磁、沖正一郎コレクションの韓国陶磁、日本陶磁、沖正一郎コレクション鼻煙壺、近現代陶芸等の中から代表的作品を中心に約300点(特別展・企画展開催時は規模縮小)をそれぞれ陶磁史の流れに沿って展示するコレクション展示のリニューアル計画案を策定する。</p>	<p>11 (大阪市立東洋陶磁美術館) 安宅コレクションの中国・韓国陶磁を中心に、李秉昌(イ・ピョンチャン)コレクションの韓国陶磁や、日本陶磁等のコレクション展示のリニューアルに向けて検討し、計画案を策定した。 ア 安宅コレクションの中国陶磁・韓国陶磁、李秉昌コレクションの韓国陶磁、日本陶磁、沖正一郎コレクション鼻煙壺、近現代陶芸等の中から代表的作品を中心に約300点(特別展・企画展開催時は規模縮小)をそれぞれ陶磁史の流れに沿って展示するコレクション展示のリニューアル計画案を策定した。 ・国宝「油滴天目茶碗」の魅力をさらに引き出せる</p>	<p>3</p>

	イ 常設展示に変化と多様性を持たせるため寄贈作品を中心に約20~30点をテーマ・ジャンルごとに企画構成する特集展示について、リニューアル後の計画案を策定する。		<p>専用の独立ケースを導入した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来館者に分かりやすく、またコレクションや展示品の特徴を示す展示室番号や名称、展示名等の検討を行った。 ・作品本来の魅力をさらに引き出せる新たな展示照明を導入した。 ・作品解説や説明パネル等の検討を行った。 ・新たなサイン計画に向けて準備を進めた。 ・特別展・企画展の関連性をもたせる等コレクション展示の魅力を高める検討を行った。 <p>【令和3年度実績】18,655人（4月~2月） ※2月7日から 改修工事休館</p> <p>イ 常設展示に変化と多様性を持たせるため寄贈作品を中心に約20~30点をテーマ・ジャンルごとに企画構成する特集展示について、リニューアル後の計画案を策定した。</p> <p>【令和3年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「受贈記念 柳原睦夫 花喰ノ器」 8月11日~2月6日 ・「福井夫妻コレクション 古九谷」 8月11日~2月6日 <p>※常設展示（コレクション展）と関連したテーマ展示を新たに企画し、文化庁支援事業に申請して採択(5,851千円)され、実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化庁「ARTS for the future! コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業」〈大阪市立東洋陶磁美術館コレクション展テーマ展示「加彩婦女俑に魅せられて」〉9月28日~12月26日 	
(大阪市立科学館) 物理学・化学・天文学・科学史・気象・科学技術に関する資料及び実験装置、観測装置の実物資料の展示、並びに体験型展示を行う(開館日)。 展示化が困難な現象やより展示内容を掘り下げた現象について、サイエンスショーを通じて展示する。	(大阪市立科学館) 「宇宙とエネルギー」をメインテーマに、1階から4階の各フロアで模型・装置・実物等による展示を行い、またサイエンスショー等の演示を行う。 【令和4年度目標】常設展示入場者205,723人 【令和2年度実績】常設展示入場者87,405人(参考)令和元年度405,825人、平成30年度203,070人、平成29年度379,021人、平成28年度375,376人 ア 実験装置、観測装置の実物資料静展示や体験型展示を設置する。 【令和2年度実績】公開常設展示物221点 イ 展示化が困難な現象等はサイエンスショーで演示し、新プログラムを3か月に1本実施する。 【令和2年度実績】サイエンスショー演示回数354回 見学者数6,480人	11	(大阪市立科学館) 今年度の常設展示入場者は288,920人。 ア 常設展示場では、実物資料静展示や体験型展示を221点設置しているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、感染リスクの高い展示9点の公開を休止した。一方、長期休止を余儀なくされている3点については代替の展示に変更し公開した。 イ サイエンスショーの演示回数は950回。サイエンスショーで満席が続く状況に対応し、座席配置を見直すことで5月下旬から定員を64人に増やし、7月上旬からは実施を1回追加した。また、2月~3月に「大人のためのサイエンスショー」を実施したほか、サイエンスショーの動画14本をYouTubeで公開した。	4
(大阪歴史博物館) 「都市おおさかの歴史」をテーマに展示を行うとともに、時宜やテーマに即した「特集展示」を開催する(開館日)。	(大阪歴史博物館) 古代から中近世、近現代にわたる「都市大阪のあゆみ」を模型・映像や実物資料等で展示する。 【令和4年度目標】常設展示入場者77,600人 【令和2年度実績】常設展示入場者実績45,511人 ア 最新の調査研究成果に基づき、季節や時宜に応	11	(大阪歴史博物館) 令和4年度実績 131,844人 令和4年度においても、新型コロナウイルス感染症の影響から訪日外国人旅行者の減少は続いているものの国内の来館者は、持ち直してきており、対目標達率は166%となっている。	3

	<p>じた展示、話題性のあるテーマ・内容の展示をおこなうことで常設展示の更新に取り組む。</p> <p>【令和2年度実績】テーマ展示3回</p> <p>イ 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実を図る。</p> <p>ウ 館蔵資料および市内出土の考古資料を紹介するため、6本の特集展示を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪のタイル文化—日本における名称統一 100周年— 4月20日～6月27日 ・戦争と福祉・ボランティア—田中半治郎の遺品から— 6月29日～9月5日 ・新発見！なにわの考古学 2022 9月7日～11月14日 ・大阪の近郊農業—農具とわざの諸相— 11月16日～1月23日 ・銀行重役のコレクション—京・大阪の近世絵画を中心に— 1月25日～3月21日 ・新収品お披露目展 3月23日～5月15日 		<p>【令和3年度実績 65,167人】</p> <p>ア 常設展示の更新は29件を実施。10月にテーマ展示として「世界と大阪」、2月に「れきはくで探そう！～動物編」を実施した。</p> <p>イ 展示資料の内容に合わせ適宜外国語訳を付した。</p> <p>ウ 特集展示は、下記の展示を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新収品お披露目展」令和4年2月23日～4月18日 ・「タイルとおおさか—日本における「タイル」名称統一100周年—」4月20日～6月27日 ・「戦争と福祉・ボランティア—田中半治郎の遺品から—」6月29日～9月5日 ・「新発見！なにわの考古学2022」9月7日～11月14日 ・「大阪近郊の農業—農具とわざの諸相—」11月16日～1月23日 ・「銀行重役のコレクション—京・大阪の近世絵画を中心に—」1月25日～3月21日 ・「新収品お披露目展—令和元年度から3年度まで—」3月23日～5月15日（予定） 				
12 自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化	特別展等について、次の方針のもと、利用者ニーズにも配慮した魅力的な企画の実現に努める。		【機構の評価】 美：2、自：3、陶：3、科：4、歴：2、中：3 科学館においては、プラネタリウム観覧者数が目標数よりも大きく超えたものの、市立美術館や歴史博物館ではコロナ禍の影響もあり、当初の目標人数に届かなかった。	2			
(大阪市立美術館)	国内外の美術館・博物館や寺院・神社をはじめとする所蔵者と連携するとともに、新聞社・テレビ局等と協働した特別展を開催する(年3～4回程度)。なお、改修工事実施に伴い、年度により、開催回数変動することがある。	(大阪市立美術館)	ア 改修前に本館のコレクションを来館者に御覧いただくために、自主企画による特別展を開催し、購入や寄贈によって集まった日本・中国等の書画・彫刻・工芸等8,400件をこえる館蔵品から作品を選定して展示する。(3市美改修) ・「華風到来」4月16日～6月5日 開催日数45日 【令和4年度予算目標】20,000人	12	(大阪市立美術館)	ア 入場者数：11,728人 5年程かけて準備してきた「台北故宮」展が、コロナ禍のため作品輸入ができず、R4年12月になって中止を余儀なくされたため、急遽、館蔵品のみ特別展「華風到来」を企画開催した。3か月余りの準備期間で十分な広報が打てず、来館者は目標に至らなかったが、支出の削減を行い1,200千円弱の赤字に収めることができた。 イ R7年春の国宝展に向けて、読売新聞社担当者とともに順次交渉中。同年夏にはNHKと西洋絵画の大規模展を準備中。	2
(大阪市立自然史博物館)	博物館の収蔵品や学芸員の調査研究の成果の市民への還元や新たな価値の創出を目指し、主催特別展を開催する(毎年1回)。 国内外の自然史系博物館や新聞社・テレビ局等と連携して、特別展を開催する(年2～3回程度)。	(大阪市立自然史博物館)	ア 博物館の自主企画特別展 本年度4本の特別展のうち、これまでの調査研究の成果を活かし、関係機関の協力を得て、自主企画展を2本実施する(うち1本は再開催)。 ・特別展「日本の鳥の巣と卵427」展4月28日～6月26日 日本で繁殖する鳥の巣の大部分を網羅する小海途銀次郎コレクションをすべて展示する。日本の鳥の巣と卵を見渡すと同時に、日本で繁殖する鳥の変遷についても考える。	12	(大阪市立自然史博物館)	ア 博物館の自主企画特別展「日本の鳥の巣と卵427」を実施した。目標入場者数13,000人に対し、入館者数16,809名となった。昨年開催できなかった自主企画特別展「大阪アンダーグラウンドRETURNS」を実施した。目標入場者数8,810人に対し、入館者数7,140名であったが、これは学校団体の見学を得られなかったためである。 イ マスコミと共催で行う特別展として ・「植物 地球を支える仲間たち」～4/3までNHK大阪放送局、NHKプラネッツ、朝日新聞社共催R4年	3

	<p>【令和4年度目標】入場者数 13,000人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別展「大阪アンダーグラウンド Returns」展12月～2月 <p>2021年4～6月に新型コロナウイルス感染症による緊急事態に伴ってわずか8日のみの公開に終わった、あの「大阪アンダーグラウンド」展が帰ってくる。知られざる地面の下の世界を紹介する。【令和4年度目標】入場者数8,810人</p> <p>イ マスコミと共催で実施する巡回特別展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別展「植物 地球を支える仲間たち」～4/3まで NHK大阪放送局、NHKブラネッツ、朝日新聞社共催 ・特別展「大地のハンター展」7/16～9/19 テレビ大阪、日本経済新聞社共催 ・特別展「毒（仮称）」令和5年3月中旬～5月中旬 読売新聞社、関西テレビ共催 <p>【令和2年度実績】</p> <p>「かがくのとびら」展（巡回企画）コロナ禍の影響により事業目的を達成することが難しいと判断し、開催中止とした。</p> <p>ウ ミュージアムショップ利用者、ワークショップ参加者、特別展見学者アンケート分析をより深く進め、運営の改善を図る。</p>		
<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>国内外の美術館・博物館等と連携し、当館の特徴を活かした特別展や企画展を開催する(年3～4回程度)。</p> <p>なお、改修工事実施に伴い、年度により、開催回数が増えることがある。</p>	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア リニューアル後の特別展等の計画案を策定する。</p> <p>【令和2年度実績】32,221人(「天目展」24,524人、「黒田泰蔵」7,697人)</p>	<p>12</p> <p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 工事休館中のリニューアル後の特別展等の計画案を策定した。また、2025年の大阪・関西万博に向けたコレクションを活用した展覧会についても検討・基本案を策定した。</p> <p>【令和3年度入館者実績】6,766名(有料率73%)</p> <p>【令和3年度開館日数実績】51日(4/25-6/21臨時休館)</p>	<p>3</p>
<p>(大阪市立科学館)</p> <p>プラネタリウムの投影を特別展と位置づけ、定期的にテーマを変え、実施する(開館日)。</p> <p>小～中規模の企画展を開催する(年1～2回程度)。</p>	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア プラネタリウムの新プログラムを3か月に1本制作・投影するほか、特別プログラムを年1本制作する。</p> <p>【令和4年度目標】</p> <p>プラネタリウム入場者数 209,316人</p> <p>【令和2年度実績】110,410人</p> <p>(参考) 令和元年度 351,932人、平成30年度 215,558人、平成29年度 341,011人、平成28年度 356,694人</p> <p>イ 企画展「鉱物の魅力」(仮称、自主企画)、「気象の科学」(仮称、自主企画)を実施し、私たちに身近な天気・気象の科学や、多様な形や色を見せる鉱物の科学について、紹介することにより、市民の興味を喚起する。</p> <p>【令和4年度目標】</p> <p>開催期間中展示場観覧者数 35,000人</p>	<p>12</p> <p>(大阪市立科学館)</p> <p>今年度のプラネタリウム観覧者数は287,223人。</p> <p>ア 一般投影：3か月毎に2パターンずつプログラム更新し、1,351回実施した。</p> <p>ファミリータイム：幼児から小学校低学年の子どもとその家族を対象としたプログラムで、450回実施した。</p> <p>学習投影：小中学校の天文分野の学習内容に準拠した学校団体専用プログラムで、234回実施した。</p> <p>その他：学芸員の専門性を活かしたプログラム「学芸員スペシャル」を114回、小学校の夏休み自由研究向けの特別投影を3回実施した。</p> <p>イ 企画展として、「色と形のふしぎ」(令和4年2/2～5/29、4/1からの期間展示場入場者数43,501人)、「大阪管区気象台140周年記念 気象の科学展 ～天気予報ができるまで～」(6/21～9/4、期間展示場入場者数73,354人、大阪管区気象台と共催)、「鉱物の魅力」(9/15～11/27、期間展示場</p>	<p>4</p>

	<p>【令和2年度実績】</p> <p>企画展開催期間中の常設展示場観覧者数 79,679人 ウ プラネタリウムや展示等の各種事業において、学芸員の専門性を生かして、幅広い層にアピールするプログラムを開発する。</p> <p>エ 万博をテーマにした特別企画展の開催調査を進める。(2万博)</p>		
<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>国内外の博物館やコレクター、大学、新聞社・テレビ局等と連携し、自主企画や巡回展により、特別展・特別企画展を開催する(年3～4回程度)。</p>	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 本年度は下記の1本を自主企画によって実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「絶景！滑稽！なにわ百景！」4月23日～6月5日、開催日数39日 近世には名所を描いた版画、刊本、絵画が多く残されたが、その楽しまれ方はさまざまだった。近世の大坂の人びとは、日々何を眺め、何に笑い、大坂の町を歩いたのか。本展では「浪花百景」等の近世後期の版画や刊本、絵画等から、おおさかの町の楽しみ方を紹介する。 <p>【令和4年度目標】25,000人</p> <p>イ 常設展示枠内で特別展示室を活用し、特別企画展を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「和菓子と大阪(仮)」(自主企画)7月16日～9月4日、開催日数44日 江戸時代の大坂には数多くの菓子店が存在し、その伝統は現代にも受け継がれている。和菓子の文化の広がりを、大阪という地域とも含めて紹介する。 ・「古墳時代の刀剣展(仮)」(共同企画)10月8日～12月4日、開催日数50日 古墳時代(3～7世紀)における日本各地の刀剣類の展示を通じて、当時の社会構造や地域間交流、各地の特徴を明らかにしながら、日本の古代国家の形成過程について最新の研究成果を紹介する。 	<p>12</p> <p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 下記の自主企画の特別展を開催した。 「～浮世絵師たちが描く～絶景！滑稽！なにわ百景！」入館者数 14,607人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標 25,000人 ・会期 4月23日～6月5日 開催日数39日 ・SNSを活用した広報を展開し、内容を特化した図録を刊行する等好評を得た。支出を削減して収支を黒字化した。 <p>イ 3本の特別企画展を実施した。 「和菓子、いとおかしー大阪と菓子のこれまでと今ー」(自主企画)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会期：7月16日～9月4日(開催日数44日) ・大阪の和菓子文化について、鶴屋八幡の協力を得て展覧して好評を得たとともに、地域の小学校とも連携企画を実施した。 ・「刀剣～古代の武といのり～」(共催展) ・会期：10月15日～12月4日(開催日44日) ・古代歴史文化協議会と共催し、国・自治体の指定文化財を含む14県の古墳時代の刀剣類を公開して好評を博した。 ・「橋本コレクション受贈記念ー文明開化のやきもの印版手」(自主企画) ・会期：1月21日～3月21日(開催日52日) <p>橋本忠之氏の寄贈品から260点をお披露目し、デザイナーとのコラボや骨董品販売等新機軸を出した。</p>	<p>2</p>

	<p>・「橋本忠之コレクション受贈記念— 文明開化のやきもの印版手」(自主企画) 1月21日～3月21日、開催日数52日“文明開化のやきもの”として愛好家の多い印版手を30年以上にわたり体系的・網羅的に収集し、国内屈指のコレクターとして知られる橋本忠之氏より寄贈されたコレクションから厳選した作品を展示する。</p>				
<p>(大阪中之島美術館) 開館後、近代から現代にいたる美術や造形文化を中心に、国内外のさまざまなジャンルの優れた作品や動向に注目した企画展を、新聞社・テレビ局等と連携して開催する。</p>	<p>(大阪中之島美術館) ア 大阪中之島美術館コレクションの代表作と多様性を紹介する展覧会を開催する。 ・みんなのまち 大阪の肖像 絵画、写真、ポスターをはじめ、大阪中之島美術館の多岐にわたるコレクションを中心に、大阪府市内外の博物館・美術館や企業等からの出品に加え、大阪の魅力を広く掘り起こします。 [第1期] 4月9日～7月3日 [第2期] 8月6日～10月2日 ・ロートレックとミュシャ パリ時代の10年 今日ますます評価が高まるロートレックとミュシャ2人の作品を合わせて紹介すると共に、わずか10年の内に作成されたロートレックの全ポスター作品31点を一堂に展示します。 10月15日～2023年1月9日 ・大阪の日本画(仮称) 幕末から昭和に至る近代大阪の日本画に注目し、その魅力と活動実態を明らかにしようと試みるものです。上方の文学や芸能と同様、大阪ならではの特徴や視点、作品の奥に広がるさまざまな背景を浮き彫りにすることで、個々の作品の魅力、画壇の在り方を再認識する機会となることをめざします。 2023年1月21日～4月2日 ・サラ・モリス展(仮称) 2023年1月28日～4月2日</p>	12	<p>(大阪中之島美術館) ア 大阪中之島美術館コレクションの代表作と多様性を紹介する展覧会をメディア等との連携により開催し、多くの観覧者を迎えた。 ・モディリアーニ 4月9日～7月18日、開催日数88日【来場者145,766人】 ・みんなのまち 大阪の肖像 [第1期] 4月9日～7月3日、開催日数75日【来場者19,131人】 [第2期] 8月6日～10月2日、開催日数51日【来場者14,516人】 ・岡本太郎 7月23日～10月2日、開催日数63日【来場者162,534人】 ・ロートレックとミュシャ パリ時代の10年 10月15日～1月9日、開催日数74日【来場者53,796人】 ・すべて未知の世界へ — G U T A I 分化と統合 10月22日～1月9日、開催日数68日【来場者23,549人】 ・大阪の日本画 1月21日～4月2日、開催日数63日【来場者43,339人】</p>	3	
<p>13 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業 講座・講演会・シンポジウム等を通じて、活動成果の公開と普及に努める。 踏査や見学機会を通じて、実物に接する機会を提供する。 ワークショップの実施やリファレンス窓口を設置して、利用者の学習支援を行う。</p>			<p>【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3、中：3 中：3、事：3 対面、オンライン、対面・オンライン併用、動画配信など、さまざまな方法で教育・普及事業に取り組むことができた。</p>	3	

	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 展覧会等の関連事業としての講演会、ギャラリートーク等を開催する。</p> <p>【令和2年度実績】 講演会2回、オンラインミニギャラリートーク3回</p>	13	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 「華風到来」展 講演会：1回、ギャラリートーク：8回 「フェルメール」展 講演会：5回、ニコニコ美術館：1回 会期を通じて「子ども向けイベント」を実施 展覧会のほかに 新館長就任記念講演会：2回 動画撮影し編集したものを公開した。</p> <p>【令和3年度実績】（3回の特別展で） 講演会・レクチャー等：17回 舞楽講演：1回</p>	3	
	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 各種の自然観察会等多様な野外行事・講演会を継続的に実施する。 【令和2年度実績】合計173回を企画したが、コロナ禍の影響により中止となった行事110回、雨天等による中止8回、実施した行事55回 これらの結果参加者数は2,462名であった。</p> <p>イ 学芸員の専門、特別展の内容に則した「自然史オープンセミナー」を開催する。 【令和2年度実績】外来生物展に関連し、webでのオープンセミナーを計3回、その他公開の学芸員のセミナーを5回実施した。合計2,912人が視聴。</p> <p>ウ 外部の学術団体等と連携したシンポジウム・講演会等を誘致開催する。 【令和2年度実績】学団体研究会、日本菌学会との共催講演会を4、6月に予定していたが中止となった。12月に関西自然保護機構と実施した共催webシンポジウムは2,809回の再生となった。</p>	13	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 行事は人数限定等制限をしながら実施を続けた。より安全な事業実施を継続するために夏期は熱中症警戒アラートに対応して中止基準を設定したり実施形態を変更・工夫したりして開催した。野外観察会、室内実習、ワークショップ等合計168回を企画したが、雨天等で中止13回となり、結果として実施は155回。</p> <p>【令和3年度実績】 野外観察会、室内実習、ワークショップ等合計174回を企画したが、緊急事態宣言および大阪府緊急事態宣言の期間、対面行事は実施することができなかった。結果、コロナにより中止となった行事78回、オンライン形式等形式を変更して実施56回、新規にオンラインで企画33回</p> <p>イ オープンセミナーはオンライン配信による実施を続け、引き続き好調な視聴を集めている。8月まではオンラインのみの実施、9月からはハイブリッドによる対面・配信両形態での実施をしている。オンライン配信は、新規コンテンツの供給はやや減らしているがチャンネル全体での再生数が令和4年4月以降だけで9.6万回再生、総再生時間（時間）10786.9、YouTubeチャンネル登録者3790人と成長している。</p> <p>【令和3年度実績】 大阪市立自然史博物館チャンネル全体では令和3年4月から4年3月末までで10.1万回再生、1.3万時間再生、1,113名チャンネル登録者増加。</p> <p>ウ 外部団体と連携したシンポジウムとしては、学団体研究会との共催講演会等を実施。関西自然保護機構等との連携シンポジウム等を実施した。</p>	3	
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア リニューアル後の展覧会計画策定に際して、展覧会ごとに関連した講演会や講座等の計画について検討する。 【令和2年度実績】実来場2回、オンライン2回</p> <p>イ 学芸員の調査研究の成果を還元するための講演</p>	13	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア リニューアル後の展覧会計画策定に際して、展覧会ごとに関連した講演会や講座等の計画について検討した。それとともに開館40周年記念事業等オンライン配信の講演会等イベントを実施した。 ・開館40周年記念特別インタビュー「大阪市立東</p>	3	

	<p>会、講座、レクチャー等を継続的に実施する。なお、感染症予防対策及び休館中のため、オンラインによる実施に取り組む。(1 CRS)</p> <p>【令和4年度目標】5回</p> <p>【令和2年度実績】2回(オンライン)</p> <p>ウ 韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念公開講座を実施する。</p> <p>【令和4年度目標】2023年2月頃開催予定</p> <p>【令和2年度実績】李秉昌博士記念公開講座(13)「耀州窯青磁と高麗」をオンライン開催(2021年3月7日)で行った。</p>	<p>洋陶磁美術館の開館への道とこれから(前編・後編)」(11月7日～、当館公式YouTube配信)</p> <p>・日中国交正常化50周年記念講演会「大阪市立東洋陶磁美術館と中国文物展」(後援:外務省、中国駐大阪総領事館)(9月29日～、当館公式YouTube配信)オンライン配信2回</p> <p>【令和3年度実績】</p> <p>実来場1回、オンライン配信4回</p> <p>イ 学芸員の調査研究の成果を還元するための講演会、講座、レクチャー等を継続的に実施した。また、台北の国立故宮博物院への特別協力の作品貸出に伴い、記念講演会やギャラリートークを行った。なお、感染症予防対策及び休館中のため、オンラインによる実施に取り組む。(1 CRS) 実来場2回(海外)、オンライン2回</p> <p>【令和3年度実績】2回(オンライン)</p> <p>ウ 韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念公開講座(15)「東アジア水中考古学の成果」をオンライン開催(令和5年3月4日、期間限定アーカイブ配信(YouTube限定公開)3月8日～21日)。</p> <p>【令和3年度実績】</p> <p>韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念公開講座(14)「高麗陶磁と磁州窯系陶磁」をオンライン開催(令和4年3月5日)で行った。</p>	
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 学芸員による各種実験教室や研修・講座を実施する。</p> <p>【令和2年度実績】8件</p> <p>イ ボランティアによる展示ガイドやエキストラ実験ショーを実施する。</p> <p>【令和2年度実績】新型コロナウイルス感染症拡大のため実績なし</p> <p>ウ 館外に出張しプラネタリウムやサイエンスショー、講演等を実施するアウトリーチ活動を実施する。</p> <p>【令和2年度実績】4件</p> <p>エ 中之島科学研究所コロキウムの実施を通じ、学芸員の研究成果の発表を行う。</p> <p>オ 随時、来館・電話による問い合わせ対応を行う。</p> <p>カ 新型コロナウイルス感染症の感染リスク軽減のため、オンラインによる事業を実施する。(1 CRS)</p>	<p>13</p> <p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 学芸員等による各種実験教室・講座として、天体観望会を11回(うち2回はオンライン開催)、中之島科学研究所コロキウムを11回、夏休みの自由研究教室を3回開催した。会員制のジュニア科学クラブは11回開催した。</p> <p>【令和3年度実績】12件</p> <p>イ サイエンスガイドによる展示ガイドを実施した(7月下旬から9月末まで新型コロナウイルス感染拡大防止のため活用休止)。エキストラ実験ショーは、新型コロナウイルス感染拡大対応により年度当初より休止していたが、10月下旬より再開した。</p> <p>【令和3年度実績】1件</p> <p>ウ アウトリーチ事業では、8件(出張5件、受入3件)実施した。</p> <p>【令和3年度実績】7件</p> <p>エ 中之島科学研究所コロキウムを11回実施した。</p> <p>【令和3年度実績】2件</p> <p>オ 来館、電話による問い合わせ対応は随時行っている。</p> <p>カ 科学デモンストレーターによるオンライン事業「オンライン科学実験・工作教室 身近な科学、再発見!おうちの科学を探して遊ぼう!」を11回実施した。また、オンラインによる天体観望会を2回</p>	<p>3</p>

			実施したほか、学芸員による連続オンライン講座を実施した。	
	(大阪歴史博物館) ア 学芸員が各自の専門の最新の研究成果にもとづき、連携をはかりつつ「なにわ歴博講座」やテーマをもった連続講座を実施する。 【令和2年度実績】なにわ歴博講座 3回 イ 展覧会等の関連事業としてのシンポジウム等を開催する。 ウ 時宜に叶ったテーマで館長講演会を開催する。 エ 学習情報センターなにわ歴史塾を窓口に、学芸員が利用者の質問等に応える。	13	(大阪歴史博物館) ア なにわ歴博講座は6月から毎月実施し、11回開催し、784名の参加者があった。 【令和3年度実績】6回(371名) 感染症対策としてガイドレシーバーを利用した考古学入門講座「考古学散歩」を2回実施し、38名の参加者があった。 【令和3年度実績】3回38名 イ 特別展「絶景!滑稽!なにわ百景!」 ・講演会 117名 特別企画展「和菓子、いとおかし」 ・対談 126名 ・スライドトーク 2回:計162名 特集展示「新発見!なにわの考古学2022」 ・講演会 79名 ウ 館長による友の会講演会を1回実施し、「なにわ歴博講座」を10月に開催した。 エ 日常的に利用者の質問に回答している。	3
	(大阪中之島美術館) ア 大阪市内を中心に学校と連携して学校向けのプログラムを企画・提供を行う。	13	(大阪中之島美術館) ア 学校と連携し、学校団体観覧対応やミニレクチャー等学校向けのプログラムの企画・提供を行った。団体観覧:54件、ミニレクチャー:13件	3
	(事務局経営企画課) ア 各館の学芸員等が連携して行う連続講座を16講演程度開催する。 【令和2年度実績】学芸員連続講座「TALK & THINK」を15回実施 イ 大阪公立大学等と連携して、各館の学芸員が講演するミュージアム連続講座を1シリーズ(6講演)、歴史に関する連続講座を1回、シンポジウムを1回、理系の講演会を1回程度、それぞれ開催する。状況に応じてオンライン配信の取り組みを行う。 【令和2年度実績】大阪市立大学との連携で6講演実施 徳川大坂城400年シンポジウム実施 ウ 博物館に興味を持つ市民団体等のために「出前講座」を実施する。	13	(事務局経営企画課) ア 各館の学芸員による連続講座「TALK&THINK」を1、2月に15回実施した。 イ 大阪公立大学等と連携して以下の事業を実施した。 理系講演会「全国同時七夕講演会」:7月31日 歴史に関する連続講座「豊臣秀吉の大坂城と城下町~最近の研究から~」:11月(4講演) 「ミュージアム連続講座」:3月に1シリーズ(6講演) 博学連携講演会「すみよし南部の10万年ー大阪平野の形成から大学誕生までー」:3月18日 【令和3年度実績】1件 ウ 10月に1件実施した。	3
14 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開 図録・紀要等印刷物の発行によって調査研究その他の活動の成果を公表する。			【機構の評価】 美:3、自:3、陶:3、科:3、歴:3、中:3 各館とも、展覧会ごとに図録を発行し、シリーズ・定期刊行物を発行する等堅実に取り組み、調査研究	3

<p>収蔵資料や図書等に関する情報をインターネットを介して公開する。 講演会や学会発表映像、収蔵標本データ観察記録等のアーカイブ化と公開を促進する。</p>			
	<p>(大阪市立美術館) ア 研究紀要を刊行し、HP上で公開する。 【令和4年度予算目標】1冊 【令和2年度実績】1冊 イ 特別展の図録を作成・販売する。 【令和4年度予算目標】1冊(共同作成1冊) 【令和2年度実績】2冊(うち独自作成1冊、共同作成1冊) ウ 広報誌『美をつくし』を発行する。 【令和4年度予算目標】2回 【令和2年度実績】2回</p>	<p>14</p> <p>(大阪市立美術館) ア 研究紀要を1冊刊行し、HP上で公開した。(3月に刊行) イ 「フェルメール展」(作成協力)、「美をつくし(大阪市立美術館巡回展)」(独自制作)の作成・販売を行った。 ウ 広報誌『美をつくし』を改修後に向けた内容でR5年度に発行することとし、改修期間中の状況を伝える情報を集約している。</p>	<p>3</p>
	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 研究報告、自然史研究の発行とホームページ上での公開を進める。 【令和2年度実績】大阪市立自然史博物館研究報告75号、自然史研究4巻4号を発行・公開した。 イ 収蔵資料目録・ミニガイド等を継続的に発行する。 【令和2年度実績】収蔵資料目録52集「岸川椿蔵書目録」・ミニガイドNo.33「大阪地下のクジラ」を編集発行した。 ウ 特別展「日本の鳥の巣と卵427」展の解説書を発行する。 【令和2年度実績】令和3年度に開催する「大阪アンダーグラウンド」の解説書の執筆編集を行った。発行・販売は令和3年度となった。(令和2年度の特別展「知るからはじめる外来生物」解説書は昨年度刊行済み) エ 友の会発行の月刊誌 Nature Studyを12冊監修、編集する。 【令和2年度実績】監修・編集し発行された オ 出版社と連携した学術書の発行を検討する。 【令和2年度実績】ジダイ社から「発信する博物館」が発行されたほか、学芸員関わった各種学術書が発行された。 カ SNS (Facebook, Twitter) やYouTube、ブログ、HPを活用した学術情報や研究過程の発信を行う。 【令和2年度実績】HPでの新着情報46件、Twitter111件、Facebook50件を投稿 オフィシャルアカウントはTwitterを9,500人がフォロー、Facebook2,350人がフォローしている。この他、各学芸員がそれぞれ自然関連情報や館の活動を発信している。</p>	<p>14</p> <p>(大阪市立自然史博物館) ア 大阪市立自然史博物館研究報告77号を発行した。また、自然史研究4(6)を発行した。 イ ミニガイド「大阪のハナバチ」を発行した。 ウ 特別展解説書として「日本と鳥の巣と卵427」を発行した。 エ 収蔵資料目録54集を発行した。 オ 放送大学「博物館経営論」「学術的大阪ガイド」「古生物学の事典」等が当館学芸員の執筆で刊行された。 カ HP115件、Twitter304件、Facebook250件を投稿。オフィシャルアカウントはTwitter12,408人(3月31日現在)、Facebook 2,786人、Instagram 2,170人がフォローしている。今年度は植物展、大地のハンター一点のアカウントも運用し、一部情報を連携させた。YouTubeコンテンツも新規に合計70コンテンツ以上(限定公開を含む)追加し令和4年4月以降だけで9.6万回再生、総再生時間(時間)10786.9、YouTubeチャンネル登録者3,790人と成長している。</p>	<p>3</p>
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 調査研究の成果を反映した展覧会図録や館蔵品</p>	<p>14</p> <p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 調査研究の成果を反映した展覧会図録や館蔵品</p>	<p>3</p>

	<p>に関する書籍・図録の制作、監修、発行及びその準備を行う。</p> <p>【令和4年度目標】 館藏品図録・特別展図録発行物の準備2件</p> <p>【令和2年度実績】 編集発行3件、編集2件、再版1件</p> <p>イ 李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告を発行する。</p> <p>【令和4年度目標】2023年2月頃発行予定</p> <p>【令和2年度実績】李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告について、オンライン開催用PDF版を発行した（李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告(13)「耀州窯青磁と高麗」PDF版）。</p>		<p>に関する書籍・図録の制作、監修、発行、販売等の準備を行った。編集発行準備1件、編著1件</p> <p>・館藏品図録『李秉昌コレクション（仮）』のデザイン制作（編集発行準備）</p> <p>・泉屋博古館東京展覧会図録『大阪市立東洋陶磁美術館 安宅コレクション名品選101』（編著、一般書籍）</p> <p>【令和3年度実績】編集発行2件、編集2件</p> <p>イ 李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告について、報告書『李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告(15)「東アジア水中考古学の成果」』を印刷・発行。あわせて、同報告書のオンライン開催用カラーPDF版を作成・配布した。</p> <p>【令和3年度実績】報告書『李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告(14)「高麗陶磁と磁州窯系陶磁」』を印刷・発行。あわせて、同報告書のオンライン開催用カラーPDF版を作成・配布した。</p>	
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 学芸員の調査研究成果等を、研究報告の出版や学会発表、HPを通じて公開する。</p> <p>イ 月刊誌「うちゅう」を発行し、各種活動や所蔵資料を広く紹介する。</p> <p>【令和2年度実績】12冊発行</p> <p>ウ 3か月ごとに「科学館だより」を発行し、各種活動や所蔵資料を広く紹介する。</p> <p>エ 展示解説の動画配信やSNSツールを利用した情報発信を行う。（1CRS）</p> <p>オ 学芸員の執筆によるミニブックを発行する。</p> <p>カ 学芸員の専門性を生かしたHPを作成する。</p>	14	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 大阪市立科学館研究報告誌や月刊「うちゅう」等の発行物をHP上で公開し、成果を広く公開している。また、学芸員による研究成果の学会・研究会発表（口頭、論文を含む）を2件行った。</p> <p>イ 月刊「うちゅう」4月～3月号の計12冊を発行した。</p> <p>【令和3年度実績】12冊発行</p> <p>ウ 「科学館だより」を4号発行した。</p> <p>【令和3年度実績】2号発行</p> <p>エ HP上で展示解説動画「学芸員の展示場ガイド」108件を配信した。またTwitterでは、「大阪市立科学館広報」、「学芸員@大阪市立科学館」、「館長の散歩@科学館」の3つのアカウントを開設し、情報発信を行った。</p> <p>オ ミニブックは16冊を販売している。今年度新たに新刊の刊行を1冊、増刷を2冊実施した。また、「こよみハンドブック2022-2024」を発行・販売している。</p> <p>【令和3年度実績】12冊発行。</p> <p>カ HP上においては、月刊「うちゅう」や研究報告誌等のオンライン配信を通じて、学芸員の活動を積極的に発信した。</p>	3
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 年1号の研究紀要を継続的に発行し、HP上で公開する。</p> <p>【令和2年度実績】「大阪歴史博物館研究紀要」第19号</p> <p>イ 共同研究報告書、館蔵資料集等を継続的に発行する。</p> <p>【令和2年度実績】「共同研究報告書」第15号、「大阪歴史博物館館蔵資料集」第17号</p>	14	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 研究紀要第21号を発行した。データは総合学術電子ジャーナルサイト「J-STAGE」で公開予定である。</p> <p>【令和3年度実績】研究紀要 第20号</p> <p>イ 共同研究報告書はコロナ禍による活動制限の影響により、館蔵資料集は館の運営状況を鑑み作成を見送った。</p> <p>【令和3年度実績】共同研究報告書16、館蔵資料集</p>	3

	<p>ウ 年報の作成およびHP上での公開を通じ、館の活動を公開する。</p> <p>エ 特別展の図録を作成する。 【令和2年度実績】 2本の巡回の特別展（1本は開催中止）において企画参画し作成。</p> <p>オ 特集展示リーフレットを継続的に作成する。 【令和2年度実績】 5本の特集展示において作成（ただし1本は臨時休館により中止）</p>		<p>18「田中半次郎関係資料」を発行</p> <p>ウ 令和3年度年報を発行、HPに掲載した。 【令和3年度実績】「大阪歴史博物館年報」令和2年度</p> <p>エ 特別展「絶景！滑稽！なにわ百景！」では、滑稽浪花名所に特化した図録を作成・販売して好評を得た。 【令和3年度実績】1本の特別展で図録作成した。</p> <p>オ 開催した6本の特集展示で作成・配布し、印刷・配布方法の見直しを行い、HPでのPDF公開も実施した。 【令和3年度実績】開催した6本の特集展示において作成・配布した。</p>		
	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア 大阪中之島美術館公式ウェブサイト等を通じて公開する。</p> <p>イ 特別展の図録を作成・販売する。</p>	14	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア ウェブサイトにて調査研究成果を発信するとともに、大阪中之島美術館YouTubeチャンネルや外部機関によるYouTubeチャンネルによりトークイベントのアーカイブ配信をした。</p> <p>イ 5本の特別展において図録を作成・販売した。</p>	3	
<p>15 博物館等資料の貸出し及び他の博物館等関係機関の資料の借用</p> <p>博物館等資料の公開と認知度の向上を図るため、他館への貸し出し等を行う。</p> <p>博物館等資料の館外研究者への特別研究や、図書等の貸出しの対応を行う。</p> <p>他の施設に対して、展覧会企画やプラネタリウム番組の配給を行う。</p> <p>企画展や特別展等の充実のため、他館資料を借用し、有効活用する。</p>			<p>【機構の評価】</p> <p>美：4、自：3、陶：4、科：3、歴：3、中：3 各館と計画通りに博物館等資料の貸し出し等を実施した。特に、市立美術館では2件201点、東洋陶磁美術館では、3回約144件を貸し出し、収蔵資料の公開に務めた。</p>	4	
	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 本年度以降令和7年度までは改修期間となるため、通常の作品の貸借は原則として行わないが、館蔵作品の活用の観点から、本年度から来年度にかけて国内3会場を巡回する展覧会を開催する。（3市美改修）</p> <p>・「大阪市立美術館名品展（仮称）」 於サントリー美術館 9月14日～11月13日 福島県立美術館 令和5年春 熊本県立美術館 令和5年秋 【貸出予定作品数】 約150件 【令和2年度実績】 貸出107件、借用181件</p>	15	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 貸出：2件201点 借用：「フェルメール」展：73点 当館コレクションの名品を紹介する巡回展「美をつくしー大阪市立美術館コレクション」を行うため、貸出を行った。 【令和3年度実績】 貸出：95点、借用：460点</p>	4	
	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 資料の保存状況、展覧会趣旨等を鑑みながら、要望に応じて収蔵資料の貸借を行い、当館の館蔵品の魅力や研究成果の発信と当館の展示の充実に努める。 【令和2年度実績】 貸し出し：例年より少ないが、きしわだ自然資料館を始め展示目的の貸し出しを行っている、借り</p>	15	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 咲くやこの花館の展示会「スパイス展」京都府立植物園での「きのこ展」に展示協力したほか、民間ギャラリーでの展示にも協力を行った。当館他の所蔵資料を用いた昆虫巡回展を読売新聞社、ひらかたパーク等と協力して開催した。その他研究目的の貸し出しを多数実施している。大阪アンダーグラウンド展リターンズには、大阪市文化財</p>	3	

	受け：外来生物展には京都大学および琵琶湖博物館等から、また、テーマ展のために陸前高田市立博物館や遠野文化センターから貸し出しを受けた。		協会、和歌山県自然博物館から貸し出しを受けた。 【令和3年度実績】 国立科学博物館で開催された「植物」展等に多数の貸し出しを実施した。その他、研究目的の貸し出し多数を実施した。また、大阪アンダーグラウンド展には京都大学阿武山地震観測所や和歌山県立自然博物館等から貸し出しを受けた。		
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 作品の保存状況、展覧会趣旨等を鑑みながら、継続して国内外の美術館・博物館等への作品貸し出しを行い、当館の館蔵品の魅力の発信に努める。 イ 特別展等の開催に際して、必要不可欠な国内外の美術館・博物館等の所蔵品の借用を行う。	15	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 海外の著名美術館とのこれまでの深い友好・信頼関係を基礎に、国宝・重要文化財なども含めた重要な作品を特別協力の展覧会へ出品し、海外の人々に当館コレクションの魅力を大きくアピールすることができた。また、泉屋博古館東京においては、安宅コレクションの特別展を実現し、東京を中心に当館とそのコレクションのすばらしさをアピールすることができた。 ・貸出件数3回、貸出作品数計約144件（うち海外分2回43件） ・台湾・国立故宮博物院、「閑情四事—挿花・焚香・掛画・喫茶」（特別協力）21件 ・韓国Leeum美術館、「朝鮮の白磁、君子志向」（特別協力）22件 ・泉屋博古館東京、特別展「大阪市立東洋陶磁美術館 安宅コレクション名品選101」（共催）101件 【令和3年度実績】貸出件数6回、貸出作品数計151件 イ リニューアルオープン後の特別展等の開催に際して、必要不可欠な国内外の美術館・博物館等の所蔵品の借用について準備を行った。 【令和3年度実績】 ・柳原睦夫展：国内個人コレクター等所蔵作品 ・古丸谷展：国内個人コレクター所蔵作品	4	
	(大阪市立科学館) ア 資料の保存状況、展覧会趣旨等を鑑みながら、継続して各館への資料、展示物の貸し出しおよび借用を行い、当館の館蔵品の魅力の発信と当館の展示の充実に努める。 【令和2年度実績】展示物貸し出し1件 資料貸し出し1件 イ 他の科学館等に対してプラネタリウム番組を配給する。 【令和2年度実績】32件 ウ 企画展において他の博物館の館蔵資料を借用する。	15	(大阪市立科学館) ア 展示物貸出実績は1件、資料貸出は1件。 【令和3年度実績】3件 イ プラネタリウム番組は、26件に配給した。 【令和3年度実績】8件配給 ウ 企画展「色と形のふしぎ」、「気象の科学展」、「鉱物の魅力」、「小型月着陸実証機『SLIM』展」において、大阪管区気象台、大阪大学総合学術博物館、天王寺動物園、JAXAをはじめとした機関、博物館、企業、個人等から資料の貸し出しを受けた。 【令和3年度実績】借用資料点数46件	3	
	(大阪歴史博物館) ア 資料の保存状況、展覧会趣旨等を鑑みながら、継続して各館への資料の貸し出しおよび借用を行い、当館の館蔵品の魅力の発信と当館の展示の充実に努める。	15	(大阪歴史博物館) ア 他館から展覧会のため借用申請を受けた資料については17件101点を許可した。 【令和3年度実績】貸出21件114点 ・国指定重要文化財長原古墳群の出土資料等、常設	3	

	<p>【令和2年度実績】貸出8件45点</p> <p>イ 特別展・特別企画展の開催に際して、必要不可欠な国内外の博物館等の所蔵品の借用を行う。</p>		<p>展示に活用できる考古資料については、文化庁や大阪市教育委員会等から年間借用を実施し、展示の充実を図った。</p> <p>イ 特別企画展「刀剣」では、共催の古代歴史文化協会と連携し、国指定品を含む234点の文化財を借用し、展示の充実を図った。</p>	
	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>企画展のために外部から作品資料を借用する。</p>	15	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>企画展の充実のために、積極的に外部から作品資料を借用した。</p>	3
<p>16 各館の枠を超えた知識及び経験の共有並びに展示及び広報等における戦略的連携</p> <p>法人の複数館が連携・協働した企画展・特別展を開催する。</p> <p>定期的な刊行物を通じて、法人各館の情報を一元的に発信する。</p> <p>法人の複数館が共同して外部資金等の獲得し、総合的な調査研究を実施する。</p>			<p>【機構の評価】</p> <p>美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3、中：3、事：3</p> <p>各館とも機構内の博物館の資料の貸し借りや、事業の共同実施、共同で研修を行う等、連携を図り、それぞれの強みを生かしながら、より良い事業を実施することができた。</p> <p>また、複数館が共同し、文化庁 Innovate MUSEUM 事業（補助金）を獲得し、共同事業を実施できた。</p>	3
	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 改修期間中、館蔵品の一部を大阪中之島美術館に保管するとともに、同館学芸員との共同作品調査や、同館開催の展覧会での活用をめざす。(3市美改修)</p> <p>【令和2年度実績】</p> <p>・特別展「天平礼賛」において大阪歴史博物館学芸員の協力を得て調査が進められ、同館および大阪市文化財協会保管の作品を借用</p>	16	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 大阪中之島美術館で248点の館蔵品を保管するとともに、R5年度の展覧会で、島成園「無題」等を出陳予定。</p>	3
	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 資料の保存状況、展覧会趣旨等を鑑みながら、要望に応じて収蔵資料の貸借を行い、当館の館蔵品の魅力や研究成果の発信と当館の展示の充実に努める。</p> <p>イ 将来の特別展示等の企画、及び常設展示の更新につながる共同研究を模索する。大阪歴史博物館学芸員等と共同研究員の科学研究費課題を申請中である。</p> <p>ウ 機構内の他館への展示協力 科学館で実施する企画展「色と形のふしぎ」に標本等各種資料を提供する。</p> <p>エ 科学研究費に関連して、職員向け研修を機構内に公開して実施。</p> <p>【令和2年度実績】倫理研修「論文のオーサーシップの基本的な考え方」を実施した。</p> <p>オ 市民向け共同事業の開催 大阪市立科学館と協力して「ジオ・カーニバル」を実施する。</p> <p>【令和2年度実績】実行委員会に参画したが中止。</p>	16	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 機構外各博物館との展示は数多く行った一方、機構内各館からの出展要望は科学館で実施した企画展「色と形のふしぎ」にとどまった。</p> <p>イ 文化庁助成事業によるインクルーシブな展示対応、展示や案内の配慮点等に関し、研修等を通じて共有した。RISTEX事業による展示活動へのSDGs取り組みについても他館への将来の展開を検討している。</p> <p>ウ 大阪市立科学館で実施した企画展「色と形のふしぎ」に当館所蔵資料を出展した。</p> <p>【令和3年度実績】科学館と「アインシュタイン展」を共催した。</p> <p>エ 研究倫理研修として「自然史系博物館のためのICOM博物館倫理規定の行間を読む」を実施、海外との共同調査、海外資料の調査に伴う様々なトラブルに関する研修を実施し、機構内に公開した。</p> <p>【令和3年度実績】「研究不正について」村松秀氏に講演をいただき機構内に共有した。</p> <p>オ 機構事務局と協力してTALK&THINK等共同事業に参加。また、大阪公立大学との連携講座で学芸員が出講、発表を行った。その他ジオ・カーニバル2023を科学館の協力のもと開催した。</p>	3

	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 大阪中之島美術館や科学館とともに「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に参加し、国立国際美術館やこども本の森 中之島等中之島にある文化施設のクリエイティブコンテンツの開発・創出の連携事業や広報協力を行う。</p> <p>イ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に代わる博物館支援事業の募集に各館と共に応募する。(再掲)</p> <p>ウ 機構の万博PT会議に参加し、万博に向けた取り組みの検討と計画案を策定する。(2万博)</p>	16	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 大阪中之島美術館や科学館とともに「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に参加し、中之島にある文化施設のクリエイティブコンテンツの開発・創出の連携事業や広報協力を行った。</p> <p>イ 文化庁 Innovate MUSEUM 事業(補助金)に機構他館とともに応募を行い採択された。(再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域課題対応支援事業(M3(Motto Minna no Museum)プロジェクト)(大阪市立自然史博物館、大阪市立東洋陶磁美術館等) ・「コロナ禍に対応し、ポストコロナを見据えた事業モデルの開発」(大阪歴史博物館、大阪中之島美術館、大阪市立東洋陶磁美術館等) <p>ウ 機構の万博PT会議に参加し、万博に向けた取り組みの検討と計画案を策定した。(2万博)</p>	3	
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 自然史博物館と協力して、こどものためのジオ・カーニバルの実施に協力する。</p> <p>イ 東洋陶磁美術館や大阪中之島美術館とともに「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に参加し、連携したイベントや広報に協力、実施する。</p> <p>ウ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に代わる博物館支援事業の募集に各館と共に応募する。(再掲)</p>	16	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 11月5～6日に自然史博物館で開催した「こどものためのジオ・カーニバル」の実施に協力した。</p> <p>イ クリエイティブアイランド中之島では、実行委員会や企画チーム会議に参加しているほか、同プロジェクトのホームページに随時情報を提供している。また、連携イベントを3件実施・協力した。</p> <p>ウ R4年度分は協議の上応募を見送った。</p>	3	
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 美術館と共同で、あべのハルカス近鉄本店内に特別展等のポスターを掲出する。</p> <p>イ 機構内各館と連携した展示や共同研究の企画を模索する。</p> <p>ウ 文化庁補助金「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に代わる博物館支援事業の募集に各館と共に応募する。</p>	16	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア あべのハルカスの掲示スペースに美術館と共同で広報を実施した。</p> <p>イ 10月に機構内でインターネット広告勉強会を実施し、事務局・各館から参加者があった。</p> <p>ウ 中之島美術館と共同で、文化庁補助金(令和4年度 Innovate Museum事業(地域課題対応支援事業))を活用して大阪フィルムアーカイブ計画に取り組み、3月に上映会、オンライン・シンポジウムを開催し、公開用映像パッケージを制作した。</p>	3	
	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア 他館の学芸員と協力して調査・研究を進め、展覧会でその成果を広く公開する。</p>	16	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア 大阪歴史博物館、大阪市立美術館、大阪市立科学館の所蔵品を調査・借用し、大阪をテーマとした展覧会でその成果を公開した。</p>	3	

	<p>(事務局)</p> <p>ア 展示・収蔵環境、オンライン発信の整備等の各館に共通する課題について、情報・意見交換の場、研修を主催し、課題の改善に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示・収蔵環境部会等の開催 ・情報化ネットワークに関する検討会 等 <p>イ 収蔵資料貸借による展示の充実、共同研究、地域イベントへの参画等連携・協業を通じて、事業内容の向上に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然史博物館と大阪歴史博物館学芸員等による「教員のための博物館の日」の実施。 ・自然史博物館「自然史フェスティバル」において、科学館と連携し「ジオ・カーニバル」の実施。 ・東洋陶磁美術館、科学館、大阪中之島美術館の「クリエイティブアイランド中之島」への参画による、クリエイティブコンテンツの開発・創出。 <p>ウ 共同広報、連続講座、講演会の開催を主催し、各館、機構のPRに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットのポータルサイト「OSAKA MUSEUMS」を多言語で開設・運営し、展覧会情報等を掲載する。 ・TwitterやFacebookといったSNSによる展覧会情報等の広報を日常的に行う。 ・各館の事業やコレクション、学芸員等を紹介する広報誌「OSAKA MUSEUMS」を4回発行する。 <p>【令和2年度実績】「OSAKA MUSEUMS」4回発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各館の概要を案内する「総合案内パンフレット」(多言語)の内容変更等を検討する。 ・各館の学芸員等が連携して行う連続講座を16講座程度開催する(再掲)。 ・大阪公立大学等と連携して、各館の学芸員が講演するミュージアム連続講座を1シリーズ(6講演)、歴史に関する連続講座を1回、シンポジウムを1回、理系の講演会を1回、それぞれ開催する。状況に応じて、オンライン配信の取り組みを行う。(再掲) 	16	<p>(事務局経営企画課)</p> <p>ア 実施なし。</p> <p>イ 自然史博物館(8/3)と大阪歴史博物館(8/5)において、学芸員等による「教員のための博物館の日」を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然史博物館において、科学館と連携し、「ジオ・カーニバル」を実施した。 <p>ウ ポータルサイト「OSAKA MUSEUMS」を多言語で運営し、継続的に展覧会情報等を掲載した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TwitterやFacebookといったSNSによる展覧会情報等、6館一体となった情報を発信した。 ・各館の事業やコレクション、学芸員等を紹介する広報誌「OSAKA MUSEUMS」を4回発行した。 ・大阪公立大学等と連携して以下の事業を実施した。理系講演会「全国同時七夕講演会」：7月31日、歴史に関する連続講座「豊臣秀吉の大坂城と城下町～最近の研究から～」：11月(4講演)「ミュージアム連続講座」：3月に1シリーズ(6講演)、博学連携講演会「すみよし南部の10万年—大阪平野の形成から大学誕生まで—」：3月18日 	3	
<p>【中長期的発展を見据えて取り組む事項】</p> <p>17 ICT等を活用した博物館等資料に関する情報の有効利用及びアーカイブ化による公開の推進</p> <p>博物館等資料や図書等のデータベース化を図る。博物館等資料のアーカイブ化とその公開と活用方法を検討する。</p>			<p>【機構の評価】</p> <p>美：3、自：4、陶：3、科：3、歴：3、中：3</p> <p>各館とも計画通りに館蔵資料の3Dモデルなどのデジタル化、アーカイブ化を進めた。特に自然史博物館では、YouTubeにより44本の動画配信を行い、文化庁補助金Innovate MUSEUM事業を受けてデジタル画像化のためのスタジオを設置するなど、博物館資料のアーカイブ化と公開に向けての体制を整えることができた。</p>	3	

	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 再開館時を目指してアーカイブ化を図るために、本年度はその基本情報を集約して来年度以降の計画を立てる。(3市美改修)</p>	17	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>美術館休館中の教育普及を主眼に置いた情報発信のプラットフォームとして、外部ウェブサービス「ミュージアムプラットフォームMU」と連携してワークショップ動画等を掲載し、情報発信を実施した。</p>	3	
	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 標本資料、自然科学関連の画像・映像資料、絵画資料について科学研究費等を活用したデジタル化を進め、アーカイブの形成を図る。デジタル化のさらなる加速に向けて検討を行う。講演やシンポジウムもYouTube等を活用してアーカイブ化、公開する。</p> <p>【令和2年度実績】科学研究費「動画を博物館の「標本」として収集・収蔵・利用公開するための課題解決と環境整備」の成果として、映像(動画資料)を中心に進展。著作権等の契約も進めている。静止画のコンテンツ登録もシステムの改良を次年度に向けて検討中。</p> <p>イ 標本情報について、Science-Museum Net, GBIF等を通じた継続的な公開を進める。</p> <p>【令和2年度実績】計3,000点の情報を提供、公開。</p> <p>ウ 図書情報について、市立中央図書館等との共有による活用促進に向けた準備を進める。</p> <p>【令和2年度実績】図書館情報展等に所蔵図書状況等を公開。</p> <p>エ 研究報告等の研究成果をリポジトリによりインターネット公開を進める。</p> <p>【令和2年度実績】87件の論文・レポートを登録、公開した。</p>	17	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア デジタルコンテンツの追加は順調に行っている。特に今年度は、整備された講堂の設備を活用して「教員のための博物館の日」やオープンセミナーを始め、現地参加とオンライン参加の両方を可能にするハイブリッド活用を実施している。ライブ配信44本を公開した。(限定公開を含む)</p> <p>また、Innovate MUSEUM事業を受けて標本撮影によるデジタル画像化のためのスタジオを設置した。</p> <p>イ Science-Museum Netを通じてGBIFに6,181件のデータ提供を行った。</p> <p>【令和3年度実績】6,400点の情報を提供した。(件数は国立科学博物館側事情による)</p> <p>ウ 館内の図書情報について引き続き整備を進めている。</p> <p>エ リポジトリに65件の資料情報を搭載した。</p> <p>【令和3年度実績】112件</p>	4	
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 新規資料撮影に加え、既存の資料のアーカイブ化を進める。</p> <p>【令和4年度目標】韓国陶磁の新撮画像の既存データベースへの追加登録約200件</p> <p>【令和2年度実績】119件(中国陶磁13件、韓国陶磁4件、日本陶磁38件、近現代陶芸55件、その他工芸2件、その他資料2件、絵画5件)</p> <p>イ 館蔵品のデジタル画像データのオープンデータ化を進める。(「大阪市立東洋陶磁美術館収蔵品画像オープンデータ」サイトを活用し継続的に公開を行う)。</p> <p>【令和4年度目標】20件</p> <p>【令和2年度実績】23件 オープンデータ化のために規程の変更や利用規約の新規制定、新規規約の英語、中国語(簡・繁)、韓国語への翻訳を行い、HPでのデジタル画像のアップや容量の調整を行った。</p>	17	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 新規資料撮影については、収蔵品データベースへのアーカイブ化を進めている。既存撮画像については収蔵品データベースに登録を行った。</p> <p>412件(韓国陶磁410件、その他工芸2件)</p> <p>【令和3年度実績】20件(中国陶磁9件、日本陶磁9件、絵画1件、その他資料1件)</p> <p>イ 館蔵品のデジタル画像10件を追加撮影し、オープンデータサイトで公開した。オープンデータの拡充に伴い、画像利用規約の見直しと翻訳を行った。</p> <p>【令和3年度実績】館蔵品のデジタル画像20件を追加撮影し、オープンデータサイトで公開した。</p> <p>ウ 開館40周年に際して館史関連資料のアーカイブ化を目的にデータ化を進めた。</p>	3	

	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 館蔵品のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を行うとともに、広報や画像提供サービスに利用する。</p> <p>イ 科学館天文台等から星空や天体の様子のリアルタイム画像配信を行う。(1 CRS)</p> <p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 統合データベースへの登録を推進するため、新規資料撮影に加え、既存の資料のアーカイブ化を進める。</p>	17	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 科学館所蔵の家電製品等のデジタル写真を、広報や画像提供サービスに利用した。</p> <p>イ 科学館天文台等から星空や天体の様子のリアルタイム画像配信を行う「リアルタイム天体観望会」を2回実施した。</p> <p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 新規に館蔵資料撮影を実施した(No. 3に記載)。新規撮影の画像データは、統合データベースへの登録作業を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3次元データから作成した考古資料・民俗資料の3Dモデルを外部の閲覧サイト(Sketchfab)で公開している(25点)。 ・新規寄贈・購入の図書(No. 3に記載)についても、図書データベースへの登録作業を行った。 	3	
	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア アーカイブ事業の充実のため、アーカイブ資料やアーカイブ図書の整理や登録等の業務を行う。</p> <p>イ アーカイブズ情報室を開設し、アーカイブ資料やアーカイブ図書を公開する。</p> <p>ウ 作品資料の撮影を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館建物引渡しの後、大型や立体を中心に、未撮影作品や再撮影が必要な作品の撮影を実施する。(再掲) ・撮影済みの画像データを公開して、大阪中之島美術館収蔵品管理システムの充実を図る。(再掲) 	17	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア アーカイブ資料やアーカイブ図書の整理・登録等の業務を進め、公開した。</p> <p>収蔵資料(情報公開): 公開75件 収蔵図書(OPAC): 図書登録 一般書 7,961冊、雑誌 7,016冊(295タイトル) デジタルコンテンツ: 公開資料数 5180件(再掲)</p> <p>イ アーカイブズ情報室を開設し、アーカイブ資料やアーカイブ図書を公開した。</p> <p>ウ 作品資料の撮影を行うとともに、撮影済みの画像データの登録を進め、収蔵品管理システムの充実を図った。(再掲)</p>	3	
<p>18 他の博物館等関係機関との支援及び協働を通じた資源の保全及び効果的な活用</p> <p>災害時において関係館との連携を図り、博物館等資料の保全に努める。</p> <p>他館の博物館等資料に関する情報の共有と相互利用を推進する。</p>			<p>【機構の評価】</p> <p>美: 3、自: 3、陶: 3、科: 3、歴: 3、事: 3 コロナ禍ではあったが、各館とも計画通りに、国内や海外の博物館等と協力・連携を図り、情報の共有を推進した。東洋陶磁美術館では、国内外の博物館への館蔵品の貸し出しと、学術交流を行った。</p>	3	
	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 今年度以降は改修期間となるため、通常の作品の貸借は原則として行わないが、館蔵作品の活用の観点から、本年度から来年度にかけて国内3会場を巡回する展覧会を開催する。(再掲)(3市美改修)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大阪市立美術館名品展(仮称)」 於サントリー美術館 9月14日~11月13日 福島県立美術館 令和5年春 熊本県立美術館 令和5年秋 <p>【貸出予定作品数】 約150件</p> <p>イ 改修期間中、館蔵品の一部を大阪中之島美術館および京都国立博物館において保全を図るとともに、同館学芸員との共同作品調査や、同館開催の展覧会での活用をめざす。寄託品の一部を大阪歴史博物館において保全を図る。(3市美改修)</p>	18	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 作品調査: 2回 貸出: 2件、201点(うち巡回展180点) 【令和3年度実績】調査82件、貸出107件</p> <p>イ 大阪中之島美術館で248点の館蔵品を保管するとともに、R5年度の展覧会で、島成園「無題」等を出陳予定。京都国立博物館で218点の館蔵品を保管。11月から開催のシンシナティ美術館の展覧会に1点を貸し出した。京都国立博物館では1月からの平常展で1点、2月からの平常展で2点を出陳。</p>	3	

	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 大阪市立中央図書館、及び各区の図書館等での巡回展示等を実施する。</p> <p>【令和2年度実績】「大阪府立図書館(1月)『大阪アンダーグラウンド展』、『大阪市立中央図書館(3月)出張!自然史博物館展』」を実施した、このほか各区の図書館で展示する資料キットを提供した。</p> <p>イ 資料の保存状況や目的や手法を鑑みながら、研究目的での資料の相互貸借を行い、資料の研究を進め、学術的な価値の向上に努める。(再掲)</p> <p>ウ 大阪市理科系博物館連携クラスターに基づいた大阪大学との研究交流を進める。</p> <p>【令和2年度実績】今年度の実施はなかった。</p> <p>エ 西日本自然史系博物館ネットワークとの協働、文化遺産防災ネットワークとの資料保全のための協働を進める。</p> <p>【令和2年度実績】令和2年7月豪雨に伴う水害被災植物標本のレスキューに協力した。</p>	18	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 昨年度3月4日から4月13日まで大阪市立中央図書館にて「出張!自然史博物館「日本の鳥の巣と卵」」を実施。各区の地域図書館で「大阪アンダーグラウンド」の巡回展示の継続をした他、一部外来生物展示も実施した。また、当館学芸員が出演した図書館との協働番組「鳥の巣展関連絵本解説」を再配信した。</p> <p>イ 自然史博物館収蔵標本を元に「標本に基づく大阪湾初記録のアオハタ」を始め、各分野で多くの論文が公表されている。記載が進むことにより資料価値が上昇している。</p> <p>ウ 特に事業の進展はない。(先方都合)</p> <p>エ 全科協ニュースに南海地震時の津波被害に関するレポートを掲載。また令和2年7月豪雨被災標本の修復を進め、被災地との今後の資料活用についての協議を行った。(再掲)</p>	3	
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 国内外の美術館・博物館等との協力により、休館中の館蔵品の効果的な活用を図る。</p> <p>イ 相互協力提携のある台北・國立故宮博物院をはじめ、国内外の関連機関との共同研究や学術交流等を通して館蔵品の保全及び効果的な活用を図る。</p> <p>【令和2年度実績】3件 (台北故宮1件、韓国2件)</p>	18	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 当館所蔵の国宝や重要文化財をはじめとした主要作品を国内外の美術館・博物館へ、共催や特別協力の展覧会へ出品し、効果的な活用を図ることができた。また、作品の保全については各館と十分な協議と対策を行い、安全に実施することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・泉屋博古館東京との共催の特別展「大阪市立東洋陶磁美術館 安宅コレクション名品選101」を開催し、安宅コレクション101点を展示した。 ・相互協力(姉妹館)提携のある台北・國立故宮博物院の特別展「閑情四事—挿花・焚香・掛画・喫茶」に特別協力として、国宝2点をはじめとした館蔵の中国・韓国陶磁21件を出品し、展示や講演、関連普及事業等に協力した。 ・韓国Leeum美術館と朝鮮白磁について学術交流を行い、「朝鮮の白磁、君子志向」展(2023年2月28日～5月28日)に館蔵品22件を出品した。 ・九州国立博物館での館蔵品88件を出品する共催の特別展「憧れの東洋陶磁—大阪市立東洋陶磁美術館の至宝」(2023年7月11日～9月3日)の開催に向け準備を進めた。 <p>イ 相互協力提携関係(姉妹館)にある台北・國立故宮博物院をはじめ、国内外の関連機関との共同研究や学術交流等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台北 國立故宮博物院での美術品の取り扱いに関する研修に当館の学芸員が講師として参加し、陶磁器の取り扱いに関する講義をするとともに、参集の専門家、職員らとの意見交換、学術交流を行った。 	3	

	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 大阪大学、大阪公立大学等近隣大学、各種研究機関と調査研究、講演会等各種事業の連携を行う。</p> <p>イ 気象台や電気協会等、関連他業種と連携した実験教室、講演会等各種事業を開催する。</p> <p>ウ 第13回展示研究大会開催に協力し、他の科学系博物館と情報共有と協働を行う。</p> <p>エ 中之島科学研究所事業やその人脈を通じて、調査研究や事業の質の向上を図る。</p> <p>オ 日本プラネタリウム協議会をはじめとする各種協議会・会議等へ参画する。</p>	18	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 大阪公立大学と共催で講演会を1件実施した。また、大阪大学と連携し、常設展示場の博学連携コーナーで展示を行った。</p> <p>イ 大阪管区気象台との連携による「夏休みミニ気象台」は展示事業に変更して実施し、また共催の企画展に関連した講座を2回実施した。そのほか日本気象予報士会関西支部、電気学会関西支部ほかと連携した講座・教室を4件実施した。</p> <p>ウ 1月に開催した第13回展示研究大会の開催に協力した。</p> <p>エ 中之島科学研究所コロキウムを11回実施し、外部の研究者と研究交流や議論を行った。</p> <p>オ 日本プラネタリウム協議会が実施する研究大会と研修会の開催、プラネタリウム100周年事業の実施を支援した。</p>	3	
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 共同研究における外部研究者との研究を行う。 【令和2年度実績】共同研究4本</p> <p>イ 大阪市文化財協会が調査した埋蔵文化財資料の展示や速報性を重視した年2～3回のパネル展を実施する。</p> <p>ウ 東京都江戸東京博物館との共同研究を継続実施する。</p> <p>エ 韓国・大邱博物館との学術交流協定にもとづいた研究交流を実施する。</p>	18	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 共同研究は令和4年度に2件を実施し、外部研究者との研究会や調査等実施した。共同研究の内1本は大阪市文化財協会と連携している。 【令和3年度実績】共同研究2件</p> <p>イ 大阪市文化財協会の調査成果を紹介するポスター展を2回実施した。また、共催で特集展示「新発見！なにわの考古学2022」を開催し、常設展示10階では特設コーナー展示を行った。</p> <p>ウ 東京都江戸東京博物館と連携した基礎研究は、コロナ禍のため活動を休止している。</p> <p>エ 韓国・国立大邱博物館とはコロナ禍で交流できない状況である。今後、新たに韓国・漢城百済博物館と交流を行う予定である。</p> <p>オ 全国歴史民俗系博物館協議会に加盟し、幹事館を務めるとともに、各種情報交換を行い、また、被災文化財レスキューへの協力体制に参画した。</p> <p>カ 日本博物館協会の被災博物館復興支援事業の担当者登録により、文化財レスキュー情報を収集した。</p>	3	
	<p>(事務局)</p> <p>ア 大阪公立大学と包括連携協定を結び、共同の調査・研究、キャンパスメンバーズ制度や博物館・実習の援助等の学生支援、講座開催等の社会貢献を行う。 【令和2年度実績】大阪市立大学博物館学講座において「保存論」「展示論」「経営論」の3講座をオンライン形式で実施</p> <p>イ 大阪市文化財協会との包括連携協定に基づき、共同の調査・研究、展示、普及事業等を実施する。</p>	18	<p>(事務局経営企画課)</p> <p>ア 令和3年度に引き続き協定を締結し、キャンパスメンバーズ制度への継続加入、博物館学講座(保存論、展示論、経営論の3授業)への出講を行った。また、シンポジウム、ミュージアム連続講座等、共同開催を実施した。</p> <p>イ 大阪市文化財協会と連携し、以下の共同の調査、研究、展示、普及事業等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史に関する連続講座「豊臣秀吉の大坂城と城下町～最近の研究から～」：11月4回 ・シンポジウム「すみよし南部の10万年」：3月18日 	3	
19 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した			【機構の評価】		

<p>幅広い事業の実施 各館の活用と魅力の発信に向けたユニークベニュー等を計画・実施する。 文化財指定された建物等の有効活用を促進する。</p>		<p>美：3、自：4、科：3、歴：3、中：5 各館の建物や付帯施設を活用し、幅広い事業を行った。特に中之島美術館ではPFI事業者がユニークベニューを積極的に推進し、自然史博物館では、今後の活用モデルとなるポーチの利用、絵画の展示など魅力発信の新規事業にも取り組んだ。</p>	4	
	<p>(大阪市立美術館) －</p>	<p>19 (大阪市立美術館) ・生きた建築ミュージアム フェスティバル（イケフェス大阪2022）と協力して10月にガイドツアーを実施した。 ・大阪産業局等との連携により「デジタル美術部」の取組みの一環として10月に「アートプログラミングワークショップ」を実施した。</p>	3	
	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 大阪市との調整が完了次第、学術関連催事を中心に、ポーチ（クジラ展示下）及びナウマンホール等を活用したユニークベニュー事業に取り組む。 【令和2年度実績】 コロナ禍の影響により実施できない状況になかった。</p>	<p>19 (大阪市立自然史博物館) ア 大阪市環境局による環境フェスティバルを当館で実施、トヨタ自動車の協力により、環境対応車の展示を当館ポーチで行った。今後の活用のモデルケースの1つとなる。これらを含め、改修した講堂を活用して数多くの事業を実施した。また、第2展示室を絵画の展示スペースとして活用した「絵をくぐる 田中秀介展」を実施し、従来とは異なる手法で魅力を向上させる活用を試行した。 【令和3年度実績】 講堂の改修を進めた。</p>	4	
	<p>(大阪市立科学館) ア プラネタリウムやアトリウムを活用したイベントを実施することにより、需要創出を図る。</p>	<p>19 (大阪市立科学館) ア 夜間にプラネタリウムを利用した事業「スペシャルナイト」を3回実施した。また、「大阪来てな！キャンペーン」の一環としてプライスレス体験の実施に協力した。</p>	3	
	<p>(大阪歴史博物館) ア アトリウム地下にある難波宮の遺構や、博物館南側の史跡指定地内に復元された5世紀の倉庫のガイドツアー等の実施。 【令和2年度実績】 難波宮遺跡探訪0人、復元倉庫公開0人</p>	<p>19 (大阪歴史博物館) ア コロナ禍で休止していた 難波宮遺跡探訪を5月より再開した。ただし、感染対策のため1日1回・定員減とし、復元倉庫公開は中止とした。また、例年5月と11月に実施していたNHK放送局地下にある難波宮石組み溝の公開は中止している。 令和4年度実績 難波宮遺跡探訪参加者 663人(5/11～3/31) 【令和3年度実績】 難波宮遺跡探訪参加者0人（感染対策のため中止） イ 令和3年度より、リアル謎解きゲーム「時をさまよう皇子と失われた都」を開催し、好評を得て増刷を含めて総数2,500セットを完売した。また、第2弾の「五代友厚と歩く幕末・明治の大阪」は累計404セットを販売した。</p>	3	

	(大阪中之島美術館) ア PFI事業者と協働し、トークイベント、シンポジウム等、イベントを実施する。	19	(大阪中之島美術館) ア PFI事業者が主導し、ユニークベニュー事業を積極的に推進・実施した。 【利用実績】計82件 【主な利用実績】 6/8-6/10 ヒロココシノインターナショナル(株) (2F多目的/ファッションショー) 10/4-10/10 GUCCI (2F多目的他/クローズブランド展示商談会) 2/9-2/12 (株)やまと (1Fホール/着物展示会)	5	
--	---	----	--	---	--

中期目標	<p>1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」</p> <p>(3) 戦略的広報の展開 時機及びニーズを捉えた戦略的な広報活動を展開することを通じて、大阪における文化資源の蓄積及び各館の活動の成果の素晴らしさを国内外に向けて効果的に発信する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報の対象及び時機並びに媒体の特徴を捉えた迅速で柔軟な情報発信 ・ マスメディア等への積極的な情報発信 ・ 各館の枠を超えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定 ・ 生涯学習に関する施設その他の博物館等に関連する施設及びその事業者との連携及び協働を通じた広報活動の展開 ・ 各館の職員の専門的な知識及び技能を活かした効果的な広報活動の展開
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由 ・ 評価のコメント	評価
(3) 戦略的広報の展開						
大阪における文化資源の蓄積及び成果の素晴らしさを国内外に向けて効果的に発信するため、次の通り、時宜やニーズを捉えた戦略的な広報の展開を目指す。						
<p>【各館等の基礎的活動の充実を目指す事項】</p> <p>20 広報の対象及び時機並びに媒体の特徴を捉えた迅速で柔軟な情報発信 紙・マスメディア・SNS等各種媒体の特徴を生かした情報発信を行う。 最適な時期や場所を逃さない情報発信を行う。 外国人観光客の動向に応じた情報発信を行う。</p>			<p>【機構の評価】</p> <p>美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 中：4、事：3</p> <p>各館とも紙媒体・SNS等各種媒体の特性を生かし、情報発信を計画通りに進めた。特に中之島美術館においては開館後も引き続き多くのフォロワーを獲得した。</p>	3		
	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア HP等での情報発信を行う。 【令和2年度実績】1,797,686pv/月平均 149,807pv</p> <p>イ SNSでの情報発信を行う。 【令和2年度実績】Twitter フォロワー数：</p>	20	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア ウェブサイト (2023.3.31時点) 2,840,605pv/月平均236,717pv</p> <p>イ SNS Twitterフォロワー数：4,382 Instagramフォロワー数：4,066</p>	3		

	<p>1,298 Instagram フォロワー数：654</p> <p>ウ 広報誌『美をつくし』を発行する。(再掲)</p> <p>エ 美術館のリニューアルにあわせて、HPのリニューアルを行うにあたり、専門家によるコンサルティングを行うことで情報発信の精度と効率を高めていく。</p>		<p>ウ 広報誌『美をつくし』を改修後にに向けた内容でR5年度に発行することとし、改修期間中の状況を伝える情報を集約している。</p> <p>エ コンсалティングの内容を踏まえて、R5年度実施予定のプロポーザルに向けてコンテンツ案等の検討を行った。</p>	
	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア ホームページ、Facebook、Twitter等での情報発信を継続して行う。特にYouTube、おうちミュージアム等と連携した取り組みの発信を強化する。</p> <p>【令和2年度実績】HPでの新着情報46件、Twitter111件、Facebook50件を投稿、オフィシャルアカウントはTwitterを9,500人がフォロー、Facebookを2,350人がフォローしている。</p> <p>この他、各学芸員がそれぞれ自然関連情報や館の活動を発信している。</p> <p>イ インターネット広告、学校向け案内等多様な手段を用いて広報を実施する。</p> <p>【令和2年度実績】車内放送や学校向け案内を実施している。ポストカードはコロナ禍の影響により実施せず。</p> <p>ウ 特別展等において、テーマに相応しいイラストレーターやデザイナーの起用した魅力的なチラシ・ポスターの作成に努める。同時に、Webやグッズ等への展開による効果的な特別展イメージ訴求に努める。</p> <p>【令和2年度実績】外来生物展の広報は写真を基調としたものになり、今回、イラストレーターは採用しなかったが、製作者と学芸員の検討によりクイズ形式の訴求力のあるポスターとすることができた。「氷河時代展のポスターができるまで」をミニ展示として実施した。</p>	20	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア HP115件、Twitter 304件、Facebook250件を投稿。オフィシャルアカウントはTwitterフォロワー数12,408人(3月31日現在)、Facebook 2,786人、Instagram 2,170人がフォローしている。今年度は植物展、大地のハンター点のアカウントも運用し、一部情報を連携させた。YouTubeコンテンツも新規に合計70コンテンツ以上(限定公開を含む)追加し令和4年4月以降だけで9.6万回再生、総再生時間(時間)10,789.9、YouTubeチャンネル登録者3,790人と成長している。</p> <p>【令和3年度実績】HP新着情報60件、Twitter628件、Facebook180件、Twitterフォロワー数10,670人、Facebookフォロワー数2,680人(Twitterの件数が多いのは特別展混雑情報等を試験的に流したため)</p> <p>イ 車内放送、ポストカードは実施せず、鳥の巣展、田中秀介展、大阪アンダーグラウンド展でSNSを用いた広告を試みた。媒体ごとの特性もあるが、ターゲティングによる絞り込みの効果は既存媒体と大きく異なることから、新たな利用者の獲得につながるか試行実施を続けている。</p> <p>ウ 大阪アンダーグラウンド展リターンズは令和3年度に起用したイラストレーターに前年度の作品を修正してもらいチラシを作成、イメージの一貫性を保った。</p> <p>【令和3年度実績】地学現象に造詣の深いイラストレーターを起用、好評を得た。</p>	3
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア HP(4か国語対応)、館案内パンフレット(5ヶ国語)、ポスター・チラシ、国内外の関連雑誌、Instagram、YouTube等により情報発信を継続して行う。</p> <p>【令和2年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイト「ARTことはじめ」ブログに学芸員が8件を寄稿し、他媒体との提携を行った。 ・収蔵品画像オープンデータサイトの公開 ・Instagram 投稿回数96件 <p>イ ジャパンサーチ、グーグル・アート等各種媒体との提携による優れたコレクションの国内外への情報発信を継続的に行う。(再掲)</p>	20	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア HP(展覧会概要を含む4ヶ国語スマホ対応)、館案内パンフレット(5ヶ国語)、年間展示予定表、ポスター・チラシ、国内外の関連雑誌、Instagram、YouTube等により情報発信を継続して行った。また、展覧会会期中には関連イベントの動画コンテンツの収録と公開を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Instagram投稿回数50件(4月-3月)フォロワー5,532人(4月1日より1,070人増) ・収蔵品画像オープンデータサイトのコンテンツ拡充 10件 <p>【令和3年度実績】Instagram投稿回数109件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収蔵品画像オープンデータサイトのコンテンツ拡充 	3

			<ul style="list-style-type: none"> ・YouTube動画コンテンツの充実 ・テーマ展デジタル冊子発行・プレス資料用冊子 <p>イ ジャパンサーチやグーグル・アート等各種媒体との提携による優れたコレクションの国内外への情報発信を継続的に行った。(再掲)</p> <p>ウ 海外出版の刊行物への作品画像提供協力を通じ外国人観光客に対して魅力を発信した。 香港 1件、『美の猟犬 安宅コレクション余聞』 翻訳出版(中国) 1件 【令和3年度実績】 5件</p>		
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア HP、Twitter、YouTube、チラシ等を利用した情報発信を行う。 【令和2年度実績】 ツイート数 680件、YouTube動画公開数117件</p> <p>イ 3カ月ごとに広報紙「科学館だより」を発行する。</p> <p>ウ 月刊誌「うちゅう」を発行し、各種活動や所蔵資料を広く紹介する。(再掲)</p>	20	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア HPでは、各種情報のほか、月刊「うちゅう」や研究報告誌等出版物や研究成果のオンライン発信、学芸員のページの設置を通じ、積極的な情報発信をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・YouTube上で展示解説動画「学芸員の展示場ガイド」108件を配信した他、科学実験動画、天文学習用動画、サイエンスショーや金曜星空トークの見逃し配信等も行った。またサイエンスショーのライブ配信も実施した。 ・SNSでは、InstagramとTwitterで情報発信している。Twitterでは、「大阪市立科学館広報」、「学芸員@大阪市立科学館」、「館長の散歩@科学館」の3つのアカウントを開設し、情報発信を行った。 <p>イ 「科学館だより」を4回発行した。</p> <p>ウ 月刊「うちゅう」4～3月号を計12冊発行した。</p>	3	
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア HP、Twitterでの情報発信を継続して行う。 【令和2年度実績】 ツイート数682件</p> <p>イ 事業に応じて特設のランディングページ(LP)を設け、発信力を高める。</p> <p>ウ 紙媒体として「歴博カレンダー」を継続的に発行する(年4回)。 【令和2年度実績】 3回作成</p> <p>エ 谷町四丁目駅での電照広告や掲示板の効果的な活用を図る。</p>	20	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア ツイッターでも「きょうは何の日？」や特別展・特別企画展・特集展示や常設展示の紹介を積極的に行った(ツイート数825件)。フォロワー数は9,771名となった。なお、謎解きゲームは別アカウントによりツイートした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公式YouTubeチャンネルには、展示紹介動画やアンバサダーであるサクヤコノハナとのコラボ動画等34本をアップした。 ・広報強化のため、4月からInstagramを新規開設した。 <p>【令和3年度実績】 ツイート数 919件</p> <p>イ 和菓子展や謎解きゲームでは、特設ランディングページ(LP)を設けて情報発信した。</p> <p>ウ 歴博カレンダー 4回発行 【令和3年度実績】 4回発行</p> <p>エ 谷町四丁目駅において、ホームの電照広告で常設展および特別展等の広報を行い、構内の掲示板で特別展をはじめとする各種広報を実施した。</p>	3	

	(大阪中之島美術館) ア 大阪中之島美術館公式ウェブサイトや SNS 等を継続的かつ効果的に更新する。(再掲) イ 国内外のメディア、ネットワークに発信する枠組み・体制構築に向けた検討を行う。	20	(大阪中之島美術館) ア 引き続き、Twitter、Facebook、Instagramアカウント、YouTubeチャンネルにて、継続的に情報発信を行った。 イ 美術専門誌、電波、新聞、交通広告、バナー等ターゲットごとにきめ細かく広告を掲出した。また、約250件を超える取材に対応し、多くのメディアに取り上げられたことで、効果的な広報が実施できた。 【参考】令和4年度実績 Twitter 投稿数：301、フォロワー：5,063 Instagram 投稿数：88、フォロワー：9,561 YouTube 総再生回数：7,073回、登録者数：186人 Facebook いいね：10,311、フォロワー：1,818人	4	
	(事務局) ア インターネットのポータルサイト「OSAKA MUSEUMS」を多言語で運営し、展覧会情報等を掲載する。(再掲) イ TwitterやFacebookといったSNSによる展覧会情報等の広報を日常的に行う。(再掲) ウ 各館の事業やコレクション、学芸員等を紹介する広報誌「OSAKA MUSEUMS」を4回発行する。(再掲)	20	(事務局経営企画課) ア インターネットのポータルサイト「OSAKA MUSEUMS」を多言語で運営し、展覧会情報等を掲載した。 イ TwitterやFacebookといったSNSによる展覧会情報等の広報を日常的に実施した。また、特別展等において、発信頻度を増やした。(フォロワー数等記載) ウ 4回発行した。	3	
21 マスメディア等への積極的な情報発信 プレスリリースや内覧会等、マスメディア向けの情報発信を行う。			【機構の評価】 美：3 自：3、陶：3、科：3、歴：3、中：4 各種事業の開催、コンテンツ制作、研究発表等について、適宜情報発信を行った。	3	
	(大阪市立美術館) ア マスメディアをはじめとする各種広報媒体に対し、展覧会や各種企画ごとにプレスリリース等の情報発信を行う。	21	(大阪市立美術館) ア 展覧会では「華風到来」、「フェルメール展」でプレスリリースを実施した他、「てんしばエリアでの謎解きゲーム」、「大阪産品を扱ったミュージアムグッズ」等でもリリース配信を行った。	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア マスメディアをはじめとする各種広報媒体に対し、展覧会や各種企画ごとにプレスリリース等の情報発信を行う。	21	(大阪市立自然史博物館) ア 展覧会やイベント、研究成果の発表など積極的なリリース等を実施した。特別展では、開催セレモニーは実施できなくともプレス内覧会を実施する等工夫を試みている。	3	

	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア マスメディア等へのプレスリリースを実施する。 【令和2年度実績】5件	21	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア マスメディアに対してイベント事業等のプレスリリースを送信した。5件 ・日中国交正常化50周年記念講演会(2回) ・NHKエンタープライズとの共同による3Dシミュレーション映像コンテンツ制作 ・大阪市立東洋陶磁美術館開館40周年記念特別インタビュー ・第15回 李秉昌博士記念公開講座 【令和3年度実績】9件 イ プレス関係者への魅力的な発信媒体の検討を行った。HPでプレス資料を自由にDL、またはメディアに送る添付資料のビジュアル化の検討戦略的な広報の展開を試みた。	3	
	(大阪市立科学館) ア 適宜マスコミに対してメールマガジンの配信、プレスリリースを実施する。	21	(大阪市立科学館) ア メールマガジンの配信及びプレスリリースを計8件発行したほか、318件の記事・広告掲載があった。 【令和3年度実績】記事・広告掲載 261件	3	
	(大阪歴史博物館) ア マスメディアをはじめとする各種広報媒体に対し、展覧会や各種企画ごとにプレスリリース等の情報発信を行う。 イ 民間企業との協働事業の開始にあたっては、記者発表会等の開催を積極的に企画していく。	21	(大阪歴史博物館) ア 特別展・特別企画展・特集展示について、マスコミ等にプレスリリースを行った。特別展・特別企画展については記者内覧会を開催した。 イ 大阪の老舗菓子店・鶴屋八幡から特別協力を得て開催した特別企画展「和菓子、いとおかし」では、記者内覧会において展示内容を発表した。古代歴史文化協議会と共催した特別企画展「刀剣」では協議会会長(代理)を始め構成する14県代表と博物館による開会式を開催し、内覧会で展示内容をマスコミに発表した。	3	
	(大阪中之島美術館) ア 新聞、雑誌、テレビ等マスメディアに加え、各種オンラインメディアに対し、定期的にプレスリリース等による情報発信を行う。 イ 外部専門家の協力のもと、情報の配信・送付先やリリースの形態、文言、タイミング等を常に精査し、プレスリリース効果の最適化を図る。	21	(大阪中之島美術館) ア 新聞、雑誌、テレビ等マスメディアに加え、各種オンラインメディアに対し、定期的にプレスリリース等による情報発信を行い、様々な受賞を受ける等、認知度の向上に繋がった。 【主な実績】2022年ヒット商品ベスト30<第29位> 主催/日経トレンドィ、大阪活力グランプリ2022 <グランプリ> 主催/大阪商工会議所、第20回関西元氣文化圏賞 <大賞> 主催/関西元氣文化圏推進委員会、関西財界セミナー賞2023 <特別賞> 主催/一般社団法人 関西経済同友会・公益社団法人 関西経済連合会 イ 外部専門家の協力のもと、情報の配信・送付先やリリースの形態、文言、タイミング等を常に精査し、プレスリリース効果の最適化を図った。	4	
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 22 各館の枠を超えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定 国内外からの来館者や各種活動への参加者のニー			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：2、事：3 各館とも計画通り事業を行った。市立美術館、東洋陶磁美術館では価格受容度調査の結果、科学館で	3	

<p>ズを把握するため、必要な調査(マーケティング)やデータ分析を行う(再掲)。 各種活動への参加者に対するアンケート等を実施し、ニーズの把握に努める。 広報専門職員や外国人スタッフの確保等、外国人観光客や海外に情報発信するための体制整備や戦略立案に努める。</p>		<p>は、観覧者動向の調査・分析の結果を用いて、企業連携の新規企画、割引サービスを実施するなど、広報戦略を策定し、実行に移すことができた。</p>		
	<p>(大阪市立美術館) ア 事務局で実施した価格受容度調査のレポートや分析したデータをもとに広報やプロモーション施策に反映させる。 イ 大阪観光局や JTB、周辺宿泊施設等観光関連団体・企業との相互協力体制をベースに、文化観光の観点での情報発信、誘客計画を進める。</p>	<p>22 (大阪市立美術館) ア 価格調査のレポートをもとに館内でリニューアル後の価格設定について検討し、方向性を確定した。 イ 「てんしばエリアでの謎解きゲーム」等の企画実施及び情報発信(近鉄不動産等)を行った。JTBとはフェルメール展での「夜間貸切開館」を実施した(コロナ禍のため200名のみ)。</p>	3	
	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 経営企画課から提出される他館のマーケティング調査レポートを参考に、次年度以降実施予定のマーケティング調査について検討する。 イ これまでに実施した外国人を含む利用者動向調査の成果等を生かし、やさしい日本語を含め、多言語での情報発信の見直しを進める。 【令和2年度実績】ホームページの見直し等を進めた。外部有識者を含めた見直し検討を行った。</p>	<p>22 (大阪市立自然史博物館) ア 自然史に応用できるマーケティングレポートがないが、YouTubeの利用者分析等をすすめプロファイルを行った。同時に、基本計画策定のためのインターネット調査を行っている(結果は次年度)。また、オンラインチケットの導入したことにより、購入者層の分析が可能になる予定である。これらと並行してSNSのターゲット広告の成果分析を進めている。 イ やさしい日本語への取り組みを、文化庁事業を含め実施した。</p>	3	
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 事務局で実施した価格受容度調査のレポートや分析したデータをもとに広報やプロモーション施策に反映させる。 イ これまでに実施したアンケート調査や外国人動向調査の成果等を生かし、多言語での情報発信の充実に努める。 【令和2年度実績】 ・事務局経営企画課が主催する機構広報WGに参加し、各館情報の共有と、機構としての広報活動(「OSAKA MUSEUMS」、「Exploring Osaka's Museums」、「Osaka Museums Card」等の刊行)に参画した。 ・館のアンケート結果について報告し、機構の広報戦略策定に貢献した。</p>	<p>22 (大阪市立東洋陶磁美術館) ア 事務局で実施した価格受容度調査のレポートや分析したデータをもとに広報やプロモーション施策に反映させ、リニューアルに向けた検討を行った。 イ これまでに実施したアンケート調査や外国人動向調査の成果等を生かし、多言語での情報発信の充実に努めた。 ・事務局経営企画課が主催する機構広報WGに参加し、各館情報の共有と、機構としての広報活動(「OSAKA MUSEUMS」の刊行)に参画した。 【令和3年度実績】 ・事務局経営企画課が主催する機構広報WGに参加し、各館情報の共有と、機構としての広報活動(「OSAKA MUSEUMS」、「Exploring Osaka's Museums」、「Osaka Museums Card」等の刊行)に参画した。 ・館のアンケート結果について報告し、機構の広報戦略策定に貢献した</p>	3	
	<p>(大阪市立科学館) ア 事務局で実施した価格受容度調査のレポートや分析したデータをもとに広報やプロモーション施策に反映させる。 イ チケット発券システム等により、来館者属性や</p>	<p>22 (大阪市立科学館) ア 観覧者の動向を分析し、9~10月の平日にプラネタリウムの観覧料を割引く「オータム・プラズ1」キャンペーンを実施した。また、2~3月にバレンタインデー&ホワイトデー企画「2人で遊</p>	3	

	来館動向を調査分析し、データに基づいた効果的なマーケティング、プロモーション、広報活動を実施する。		べば2倍楽しい」を実施し、天体写真展、大人のためのサイエンスショー、プラネタリウム・ペア席提供等の事業を実施した。 イ 観覧者の動向分析・調査から、上記「オータム・プラス1」キャンペーン、バレンタインデー&ホワイトデー企画、大人のためのサイエンスショーを新規で実施を実施しているほか、8月には来館者2,000万人の記念セレモニーを実施した。		
	(大阪歴史博物館) ア 事務局で実施した価格受容度調査のレポートや分析したデータをもとに広報やプロモーション施策に反映させる。 イ 機構の広報誌「OSAKA MUSEUMS」に参画し、それを配布して当館および機構各館の広報を行う。	22	(大阪歴史博物館) ア 大規模展示改修の基本計画に合わせて、広報や料金設定の検討を予定していたが、展示改修計画を凍結したため実行に至らなかった。 イ 機構の広報誌「OSAKA MUSEUMS」の編集に参画し、館内で配布した。	2	
	(事務局) ア カスタマーリレーションシップマネジメント(顧客DBを構築して分析を行い、関心層を育成する)を行う。 イ 各館の持つ市場規模や入館料における価格受容度を調査し、その結果を全館に共有した上で広報やプロモーション施策に反映させる。	22	(事務局経営企画課) ア 引き続きCRMシステムを活用している。市立美術館においては、メールマーケティングを継続的に実施。歴史博物館については、CRMソフトのアカウントを振り出し、活用に向けて準備中。 イ 大阪中之島美術館オープンにかかり実施した情報発信事業の結果を用いて各館横断的な研修会を実施し、SNS等の広報施策に活用した。	3	
23 生涯学習に関する施設等及びその事業者との連携及び協働を通じた広報活動の展開 市立の生涯学習施設等を利用した講座等の事業展開や、施設との広報連携を進める。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 中：3、事：3 各館ともに生涯学習施設等と連携した展示や広報を展開した。	3	
	(大阪市立美術館) ア 生涯学習情報誌月刊「いちよう並木」に展覧会等情報を提供する。	23	(大阪市立美術館) ア いちよう並木掲載 年間2回(ミュージアムトピックス1、おすすめコレクション1) 情報提供を行った。	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 長居植物園、セレッソ大阪等と連携した情報発信に努める。 【令和2年度実績】情報センター工事に対応し、協力して導線確保に務めた。コロナ対応でも連携を行った。 イ 咲くやこの花館・動物園等大阪周辺の生物多様性関連施設との連携した広報に努める。 【令和2年度実績】咲くやこの花館や動物園と資料の収集やイベントへの協力を試みたが令和2年度のイベントは中止に。来年度以降の協力を模索した。 ウ 生涯学習情報誌月刊「いちよう並木」に展覧会等情報を提供する。	23	(大阪市立自然史博物館) ア 特別展に合わせた掲出、案内看板更新、共同での公園入口へのビジョン設置等を行った。 イ 「大地のハンター」展にて天王寺動物園とタイアップ展示を実施。咲くやこの花館でのスパイス展に出品する等実施している。これら催事の関連告知や講演会での連携等共同でのプロモーションを行っている。 ウ 年間2回(ミュージアムトピックス1、おすすめコレクション1)の記事協力等を実施している。	3	

	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 生涯学習情報誌月刊「いちよう並木」に展覧会等情報を提供する。(年間2回)</p> <p>イ 中央公会堂をはじめ中之島エリアの中之島図書館、国際会議場等との広報協力について検討する。</p> <p>【令和2年度実績】2件</p>	23	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 生涯学習情報誌月刊「いちよう並木」に展覧会等情報を提供した。(年間2回)</p> <p>イ 中央公会堂をはじめ中之島エリアの中之島図書館、国際会議場等との広報協力について検討した。</p> <p>・「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」への参加により、島こども本の森中之島をはじめ中之島エリアの生涯学習に関する施設等との連携事業や広報協力を実施した。</p> <p>【令和3年度実績】</p> <p>・大阪中之島美術館、国立国際美術館、中之島香雪美術館とのチラシの相互設置等広報相互協力を継続して実施した。</p> <p>・「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」への参加により、中之島エリアの各種機関との連携事業や広報協力を実施した。</p> <p>・中央公会堂をはじめ中之島エリアの中之島図書館、国際会議場等との広報協力を実施した。</p>	3	
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 生涯学習情報誌月刊「いちよう並木」に展覧会等情報を提供する。</p> <p>イ クリエイティブアイランド中之島の設置するHPへの情報提供を行う。</p> <p>ウ Osaka Metro、京阪電鉄、近隣図書館、動物園、近隣ホテル等の各種施設にチラシ・リーフレット等を設置する。</p>	23	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 「いちよう並木」への情報提供を11回提供した。</p> <p>イ 「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に参加し、実行委員会が開設したホームページに当館のイベント情報を掲載し、また館内に専用のチラシスタンドを設置して共同広報を行っている。加えて中之島エリアの各種機関と広報協力について検討した。</p> <p>ウ Osaka Metro、京阪電鉄、近隣図書館、動物園、近隣ホテル等の各種施設にチラシ・リーフレット等を設置した。</p>	3	
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 生涯学習情報誌月刊「いちよう並木」に展覧会等情報を提供する。</p> <p>イ NPO法人まち・すまいづくりと協働して、あべのハルカス近鉄本店内でポスター掲出を行い、同上本町店のデジタルサイネージで特別展広報を行う。</p> <p>ウ 当館が事業協力するシニアシティカレッジ、大阪高齢者大学校等と連携して当館事業の広報を行う。</p>	23	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 「いちよう並木」に、年間2回(ミュージアムトビックス1、おすすめコレクション1)掲載した。</p> <p>イ NPO法人まち・すまいづくりと協働して、近鉄百貨店(あべのハルカス、上本町)で特別展ポスター掲出やデジタルサイネージ広報を実施した。</p> <p>ウ シニアcityカレッジや大阪府高齢者大学校と連携して、展覧会の広報を行った。また、歴史街道倶楽部や南大江郷塾と展覧会を広報する講演会・見学会を実施した。</p>	3	
	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア 来館者や地域コミュニティに向けたプログラム等の企画を進める。</p>	23	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア 来館者や地域コミュニティに向けたプログラム等の企画を進めた。</p> <p>また、採択された令和5年度文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業に基づき、運営委員会等により協議を進めた。</p>	3	

	(事務局経営企画課) ア 生涯学習情報誌月刊「いちよう並木」に展覧会等情報を提供する。	23	(事務局経営企画課) ア 生涯学習情報誌「いちよう並木」の原稿執筆に関して各館への割り振り執筆依頼を実施した。また、通常原稿に加え、「うちのイチ押し」コーナーにおいて各館のオンラインコンテンツを紹介した。	3	
24 各館の職員の専門的な知識及び技能を活かした効果的な広報活動の展開 地域の広報誌や新聞誌上への寄稿等を通じて、専門情報の平易な発信に努める。 テレビ等メディアへの出演機会を捉え、効果的発信を行う。			【機構の評価】 美：3 自：3、陶：3、科：3、歴：3 各館とも順調に実施した。科学館では、時期に合わせた情報発信を行い、48件の取材対応を行った。また、東洋陶磁は海外で発信力を持つ美術雑誌に協力するなど、各館ともに学芸員の専門知識を活かし、多方面で広報を行った。	3	
	(大阪市立美術館) ア 新聞・テレビ等のメディアへの寄稿を通じた情報発信を行う。	24	(大阪市立美術館) ア 下記、特別展を中心に、担当学芸員による展覧会紹介や作品紹介等をテレビや新聞等のメディアを通じて情報発信を行った。 ・華風到来 ・フェルメール展 ・館長 日曜美術館「唐招提寺」「美をつくし」展 講演会(東京・福島)	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 近隣の自然関連団体への学術的指導や学芸員による講演等を通じた広報活動を行う。 【令和2年度実績】 大阪自然環境保全協会、近畿植物同好会、関西菌類談話会、日本野鳥の会、日本自然保護協会をはじめ、多くの自然関連団体への指導や講演を行っている。一部はコロナ禍の影響により中止。 イ 外部の普及誌・学術誌の執筆を行う。 【令和2年度実績】査読付き論文 20本、著書5冊、その他245本を公開、学会発表も10件行った。	24	(大阪市立自然史博物館) ア 大阪自然環境保全協会、近畿植物同好会、関西菌類談話会、日本野鳥の会、環境事業協会、日本自然保護協会をはじめ、多くの自然関連団体への指導や講演を行っている。 イ 査読付き論文、査読なし論文および雑誌記事、書籍等も執筆を続けている。 【令和3年度実績】 査読付き論文29本、査読なし論文・雑誌記事114本、書籍等7本、学会発表29件	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 国内外の関連雑誌等と提携して館藏品に関する研究成果等を発信する。 【令和2年度実績】9件 イ テレビ等メディアでの紹介や取材協力により館藏品に関する研究成果等を発信する。 【令和2年度実績】4件	24	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 国内外の関連雑誌等と提携して館藏品に関する研究成果等を発信した。計3件 ・国内雑誌での論文掲載1件 ・海外の出版社等に対し作品画像の提供を行った。2件 【令和3年度実績】11件 イ テレビ等メディアでの紹介や取材協力により館藏品に関する研究成果や展覧会情報等を発信した。3件 ・国立故宮博物院Podcast ・台湾雑誌Lavie ・NHK謎解き！ヒミツの至宝さん「国宝 油滴天目茶碗」 【令和3年度実績】3件	3	

	<p>(大阪市立科学館) ア 情報誌・新聞・テレビ・ラジオ等様々なメディアに学芸員が寄稿・出演することにより、研究成果や事業情報を発信する。</p>	24	<p>(大阪市立科学館) ア 今年度のマスコミによる取材対応件数は、48件あり、特に来館者2,000万人達成、秋の「オータム・プラサ1」キャンペーン、バレンタインデー&ホワイトデー企画、大人のためのサイエンスショー、カールツアイスII型プラネタリウムの日本天文遺産認定をはじめ、企画展、夏休みシーズンの自由研究、その時期に応じた科学情報を提供することができた。</p>	3	
	<p>(大阪歴史博物館) ア さまざまなメディアに学芸員が執筆・出演することにより研究成果を紹介する。 【令和2年度実績】「朝鮮通信使と大阪」オンラインフィールドワーク動画（駐大阪韓国文化院HP）、NHKテレビ「歴史秘話ヒストリア」、MBSラジオ「中村喜太郎のうえほんまち夜カフェ」、日本経済新聞「関西タイムライン とことん調査隊」（10月20日夕刊）</p>	24	<p>(大阪歴史博物館) ア NHKテレビ「先人たちの底力 知恵泉」「関西認定バラエティー ちゃうんちゃう」「ほっと関西（なんでやねん）」「ぐるっと関西おひるまえ」、関西テレビ「報道ランナー（兵動大樹の今昔さんぽ）」、朝日放送「ニュースおかえり」、J:COM「LIVEニュース」、NHKラジオ「関西ラジオワイド（関西 時の人）」、MBSラジオ「茶屋町怪談」出演等、テレビ・ラジオ等を通して、学芸員の活動成果を紹介し、館の存在を知ってもらう機会となった。また、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞、産経新聞、共同通信等の各紙に学芸員が歴史・文化に関するコメント等を寄せた。 【令和3年度実績】 NHKテレビ「ファミリーヒストリー」、TBSラジオ「ラジオで語る昭和のはなし」等出演 ・日本経済新聞「関西のミカタ」「関西タイムライン とことん調査隊」をはじめ朝日・読売・産経等の各紙に掲載</p>	3	

大項目 I-②	I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 2 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」 (1) ソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備 (2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携 (3) 民間企業等との協働等
------------	--

中期目標	2 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」 法人は、各館が都市に立地するという特徴を活かし、国内外から幅広い利用者を獲得するとともに、各館の周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携を図ることにより、大阪の活性化及び発展に貢献する。 (1) ソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備 ・マスメディア等と連携した特別展及び企画展の誘致 ・多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実 ・芸術文化に係る団体への成果発表の機会の提供及び当該団体の活動の奨励 ・さまざまな事業者等と連携した観光客の獲得
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由 ・評価のコメント	評価
(1) ソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備						
各館の立地の優位性を活かし、幅広い利用者を獲得するため、次の通り、展覧会又は展示物に係るソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備を図る。						
【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】 25 マスメディア等と連携した特別展及び企画展の誘致			【機構の評価】 美：2、自：2、陶：3、科：3、歴：3、中：4 コロナ禍の影響を受け、目標人数に未達の展覧会が複数あったが、予定通り実施した。また、休館中の東洋陶磁美術館では、リニューアルオープンに向けて、特別展の企画に取り組んだ。	3		
(大阪市立美術館) 国内外の美術館・博物館や寺院・神社をはじめとする所蔵者と連携するとともに、新聞社・テレビ局等と協働した特別展を開催する(年3~4回程度)。なお、改修工事実施に伴い、年度により、開催回数が変動することがある。	(大阪市立美術館) ア 本年度2本の特別展について新聞社・テレビ局等と協働し、実施する。(再掲) ・「華風到来」読売新聞社 4月16日~6月5日 開催日数 45日 【令和4年度予算目標】20,000人 ・「ドレスデン美術館展」産経新聞社、関西テレビ 7月16日~9月25日 開催日数 62日間 【令和4年度予算目標】200,000人	25	(大阪市立美術館) ア 特別展について、作品紹介等をテレビや新聞等のメディアを協働し、情報発信を行った。 ・「華風到来」11,708人 ・「ドレスデン美術館展」192,277人	2		
(大阪市立自然史博物館) 博物館の収蔵品や学芸員の調査研究の成果の市民への還元や新たな価値の創出を目指し、主催特別展を開催する(毎年1回)。国内外の自然史系博物館やマスメディア等と連携して、特別展を開催する(年2~3回程度)。	(大阪市立自然史博物館) ア 前年度に引き続き NHK大阪放送局・朝日新聞社と連携した「植物 地球を支える仲間たち」を実施する。また、夏にテレビ大阪・日本経済新聞社と共催の「大地のハンター展」を実施、来年度にかけて読売新聞社との共催による「毒」展(仮称)、以降の企画に向け各社と準備を進める。	25	(大阪市立自然史博物館) ア 前年度に引き続きNHK大阪放送局・朝日新聞社と連携した「植物 地球を支える仲間たち」を実施した(目標値69,400人に対して入場者数R3年度43,179人、R4年度6,120人)。夏には、テレビ大阪・日本経済新聞社と共催の「大地のハンター展」を実施した(目標入場者数75,330人に対して	2		

	<p>・「植物 地球を支える仲間たち」展（巡回企画） 令和4年1月14日～4月3日 光合成という、太陽エネルギーから有機物を作り出す能力を手に入れたことで、地球上の生命存在にとって必須の働きをしている植物は、人間と同じ祖先から出発し、今や地球上で最も成功している生物群である。食糧生産から環境維持まで、人類の生存にとってなくてはならない存在として、最先端科学で明らかにされつつある植物という生命の実体をリアルに伝える。地球上で人類が共に生きる存在としての植物の重要性に新たな視点をもたらし、SDGs的な観点の重要性を伝える。 【令和3年度目標】 入場者数 87,381人 【令和2年度実績】 巡回特別展実施せず</p> <p>・「大地のハンター」展（巡回企画）7月17日～10月10日 生命活動の礎とも言えるエネルギーを得るための活動である「捕食」に焦点を当て、様々な生物の顎と歯の進化、そして捕食の技の多様化を追いながら、自然の素晴らしさと地球環境保全の重要性を伝える科学展覧会。 【令和4年度目標】 入場者数 75,330人 【令和2年度実績】 巡回特別展実施せず</p> <p>・「毒」展（仮称）3月～来年度予定 内容については調整中。</p>		<p>入場者数55,516人であった。）。年度末からR5年度にかけて読売新聞社・関西テレビとの共催による「毒」展を開催している（目標入場者数は80,000人 R4年度28,257人、R5年度開催中）。植物展、ハンター展はそれぞれコロナ第6波、第7波の影響を強く受けたと見られ、入場者数は目標値を下回る結果となったが、毒展は会期2割弱の時点ではあるが、来場者数はかなり上回る見込みとなっている。 【令和3年度実績】 上記植物展のほかアインシュタイン展46,100人</p>		
<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) 国内外の美術館・博物館等と連携し、当館の特徴を活かした特別展や企画展を開催する(年3～4回程度)。 なお、改修工事実施に伴い、年度により、開催回数が変動することがある。</p>	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア リニューアルオープンに向けてマスメディア等と連携した展覧会を検討・準備する。(3東陶改修)</p>	25	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア リニューアルオープンに向けてマスメディア等と連携した展覧会を検討・準備した。(3東陶改修) ・自主企画展の企画・準備とマスメディアとの連携、協力の検討</p>	3	
	<p>(大阪市立科学館) ア 読売新聞社が主催で参画する「青少年のための科学の祭典」を実施する。</p>	25	<p>(大阪市立科学館) ア 読売新聞社が主催する青少年のための科学の祭典に参画し、8月に実施した。 【令和3年度実績】新型コロナウイルス感染症拡大のためオンライン実施</p>	3	
<p>(大阪歴史博物館) 国内外の博物館やコレクター、大学や企業等と連携し、巡回展や共催展等の特別展を開催する(年3～4回程度)。</p>	<p>(大阪歴史博物館) 在阪の新聞社・放送局等と平素より展覧会企画に関する情報交換を行い、誘致に努めている。現在、リニューアル後に向けて、福岡黒田家の重宝や尾張徳川家の名宝、近世の浮世絵、大相撲（日本相撲協会百周年）等の大型展企画について新聞社より打診を受け、誘致の検討を行っている。</p>	25	<p>(大阪歴史博物館) ア 特別展示室の改修後に向けて、大名家の名宝、近世の浮世絵、相撲等に関する大型展企画について在阪の新聞社より打診を受け、誘致の検討を行った。</p>	3	
<p>(大阪中之島美術館) 開館後、近代から現代にいたる美術や造形文化を中心に、国内外のさまざまなジャンルの優れた作品や動向に注目した企画展を開催する。</p>	<p>(大阪中之島美術館) ア テレビ局等と協働して、大阪中之島美術館コレクションの代表作と多様性を紹介する特別展を開催する。</p>	25	<p>(大阪中之島美術館) ア メディア等と連携し、大阪中之島美術館コレクションの代表作と多様性を紹介する特別展を開催した。</p>	4	

	<ul style="list-style-type: none"> ・モディリアーニ ―愛と創作に捧げた35年― 国内外の美術館やコレクターが愛蔵するモディリアーニ作品とともに、盟友たちがパリで繰り広げた多彩な芸術の動向を紹介し、1910年代のパリを舞台に開花したモディリアーニの世界を堪能していただきます。 4月9日～7月18日 ・岡本太郎（仮称） 1970年日本万国博覧会のテーマ館《太陽の塔》で知られ、今日でも幅広い世代の人々を魅了する芸術家・岡本太郎（1911 - 1996）。この度、作家の芸術人生を振り返る、大回顧展を開催します。 7月23日～10月2日 ・すべて未知の世界へ―GUTAI分化と統合 1954年に結成された具体美術協会（具体）の活動拠点「グタイピナコテカ」が建設された地、大阪・中之島で開催される初の大規模な具体展です。2022年2月に開館する大阪中之島美術館と、道路一本を隔てて隣り合う国立国際美術館。開館して50年の節目となる2022年、2館同時開催という類い稀な形式で開催される本展覧会は、「分化と統合」というテーマを掲げ、新しい具体像の構築をめざします。 10月22日～2023年1月9日 	<ul style="list-style-type: none"> ・モディリアーニ 4月9日～7月18日、開催日数88日【来場者145,766人】 ・みんなのまち 大阪の肖像 [第1期] 4月9日～7月3日、開催日数75日【来場者19,131人】 [第2期] 8月6日～10月2日、開催日数51日【来場者14,516人】 ・岡本太郎 7月23日～10月2日、開催日数63日【来場者162,534人】 ・ロートレックとミュシャ パリ時代の10年 10月15日～1月9日、開催日数74日【来場者53,796人】 ・すべて未知の世界へ ― G U T A I 分化と統合 10月22日～1月9日、開催日数68日【来場者23,549人】 ・大阪の日本画 1月21日～4月2日、開催日数63日【来場者43,339人】 		
<p>26 <u>さまざまな利用者の受入れ体制の充実(中期目標にはないが、計画で追加)</u> 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化を推進する(再掲)。 わかりやすいサインの掲出や安全な導線確保に努める。</p>		<p>【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3、中：3 施設の大規模改修等によりバリアフリー化を計画するとともに、自然史博物館では文化庁から補助金を受け、視覚障がい者向け対応研修やプログラム開発を行った。科学館では、施設案内の一部多言語化や非常階段の表示をわかりやすく改善した。</p>	3	
	<p>(大阪市立美術館) ア 大規模改修を行うにあたり、こども、高齢者、障がい者、外国人等、多様な来館者に対応できるような工夫を行う。(3市美改修)</p>	<p>26 (大阪市立美術館) ア 10月から工事着工し、中央ホールの無料化、多目的ホールや教育普及のための施設の設置等の外、移動の利便性のため、中央ホールのエスカレーターの新設、エレベーターの増設を設計に盛り込むとともに、展示ケースや館内掲示等について検討を進めている。</p>	3	
	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 障がい者の観覧や行事参加を補助するための支援策策定に向けプログラム検討や教育ニーズ等の情報を収集する。(再掲) イ 受付カウンター等でのタブレット端末を利用した翻訳や説明の支援を検討し進める。 ウ 高齢者の参加ニーズ等に関する検討を進める。(再掲) エ 授乳場所等、来館者ニーズに応じたサービス提供を進める。</p>	<p>26 (大阪市立自然史博物館) ア 文化庁事業(M3プロジェクト)をうけ、障がい者関連団体等のヒアリングを行いながら、ニーズと実態把握を行い、障がい者向けのプログラム開発や、対応講習等を行った。 イ 受付スタッフにタブレット端末を配備しているが、検討の結果、直接口頭での対応として実施している。外国人案内の機会がほとんど無かった。 ウ 博物館の使命及び中期計画、更には大規模改修に向けた新たなサービスを検討する中で対応を模</p>	3	

			<p>索している。</p> <p>エ コロナ禍の状況を鑑み、救護室と授乳室を別に確保し、運用した。</p>		
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化及び、ユニバーサルデザイン化を推進する。(3東陶改修) (再掲)</p> <p>イ 最新式の多目的トイレ、授乳室の新設等来館者ニーズを踏まえた環境整備を行う。(3東陶改修) (再掲)</p> <p>ウ 新型コロナウイルスの収束後に増加する海外からの来館者の対応として、施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化やビクトグラム化の検討を進める。</p> <p>エ 館内 FreeWi - Fiの提供を継続して行う。</p> <p>オ 年間パス販売等によるリピーターの確保に努める。</p> <p>【令和2年度実績】販売件数146枚</p>	26	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化及び、ユニバーサルデザイン化を推進した。(3東陶改修) (再掲)</p> <p>イ 最新式の多目的トイレ、授乳室の新設等来館者ニーズを踏まえた環境整備を行った。(3東陶改修) (再掲)</p> <p>ウ 新型コロナウイルスの収束後に増加する海外からの来館者の対応として、施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化やビクトグラム化を含む新たなロゴ・サイン計画の検討・準備を進めた。</p> <p>エ 館内Free Wi - Fiの提供を継続して行った。</p> <p>オ 年間パス販売等によるリピーターの確保に努めた。</p> <p>【令和3年度実績】販売件数 65枚</p>	3	
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化の検討を進める。</p> <p>イ 大活字ならびに点字、音声版による、科学館見学ガイドを利用に供する。</p> <p>ウ 救護室、おむつ交換用ベビーベッド等、来館者ニーズに応じたサービスを提供する。(再掲)</p> <p>エ 展示場のトイレ洋式化等の計画策定を進める。(再掲)</p>	26	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 施設案内の英語、中国語等多言語化を一部実施した。加えて非常階段内の表示をわかりやすく認識しやすいものに変更した。</p> <p>イ 科学館の見学ガイドの大活字版、点字版、音声版の解説を装備し、利用に供している。</p> <p>ウ 救護室のほか、地下1階には多機能トイレを設置し、オストメイト、多機能シート(成人用おむつ替えベッド)を装備している。また、車椅子とベビーカーの貸し出しを実施した。現在、授乳スペースの整備を検討中。</p> <p>エ 展示場1～4階のトイレについては、展示改装と併せて整備が可能か検討中</p>	3	
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 障がい者の観覧を補助するための支援策策定に向けて情報を収集する(再掲)。</p> <p>イ 増加する海外からの来館者対応のため、トイレ洋式化等の計画策定を進める(再掲)。</p> <p>ウ 来館者状況を注視しつつ施設案内等の多言語化について見直しを進め、展示更新計画と合わせて新たなあり方を検討する。(再掲)</p> <p>エ 震災・火災等の非常時の案内について、様々な来館者に対応できる方策を検討する。(再掲)</p>	26	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 全館バリアフリー化、多目的トイレ設置、車椅子貸出し等対応済み。更なる改善点については情報収集を行った。(再掲)</p> <p>イ トイレの洋式化は、改修計画を作成済み。(再掲)</p> <p>ウ AED(自動体外式除細動器)を1階ならびに5階に設置した。新型コロナウイルス感染症拡大防止の案内を多言語で実施した。(再掲)</p> <p>エ AED(自動体外式除細動器)を1階ならびに5階に設置した。新型コロナウイルス感染症拡大防止の案内を多言語で実施した。(再掲)</p>	3	
	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア 来館者状況を注視しつつ施設案内等(非常時の案内を含む)の見直しを進める。</p>	26	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア 非常時の案内も含めた施設案内等の見直しを行い、誘導サイン等の変更・補強を実施した。</p>	3	
27 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実 デジタル機器(情報端末)等を活用した多言語対応			<p>【機構の評価】</p> <p>美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3、中：3</p>		

を進める。 パンフレット、展示解説文等の多言語化や、サインの充実を図る。		これまでの多言語対応を継続し、リニューアルを見据え、多言語化の調査・検討を進めた。	3	
	(大阪市立美術館) ア 改修後の運用を見据え、施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化の見直しを進める。(3市美改修)	27 (大阪市立美術館) ア ウェブサイトリニューアルに関連するコンサルティングの中で、多言語化対応についても検討を進めた。また、大阪観光局の「留学生コンソーシアム」との連携による取組みについても検討を進めた。	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア これまでに実施した外国人を含む利用者動向調査の成果等を生かし、やさしい日本語を含め、多言語での情報発信の見直しを進める。(再掲) イ 常設展示場内における外国語表記についてQRコードを利用した解説等多様な手法を用いる検討を行う。 ウ 館内表示や非常放送の多言語対応等について検証と検討を進める。 【令和2年度実績】英語による非常放送等は実現しているが、スタッフによる対応等さらなる改善手法について検討した。	27 (大阪市立自然史博物館) ア 大規模改修に向けミッションや展示計画の見直しの中で他館事例等を精査している。大規模改修に向けた調査の中で調査対応を検討している。 イ 博物館webサイトのドメイン移行をにらみ、移行後の改善について検討を続けている。 ウ 英語による非常放送等は実現しているが、スタッフによる対応の向上等さらなる改善手法について検討を続ける。	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア コレクション展示における主要館蔵品61件の多言語対応解説アプリ(「ポケット学芸員」)の提供とその充実を図る。 【令和2年度実績】平常展示における主要館蔵品61件の作品解説の多言語対応 イ 作品解説やパネル、出版物等の多言語化に努める。 ウ 新型コロナウイルスの収束後に増加する海外からの来館者の対応として、施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化やビクトグラム化の検討を進める。(2万博)(再掲)	27 (大阪市立東洋陶磁美術館) ア リニューアルオープンに向けて、コレクション展示における主要館蔵品61件の無料作品解説アプリ(「ポケット学芸員」)の提供を継続しながら、作品動画等のコンテンツや多言語化の充実に向けての準備を行った。 【令和3年度実績】平常展示における主要館蔵品61件の無料作品解説アプリ(ポケット学芸員)の提供を継続しながら多言語対応として中国語(簡・繁)、韓国語を追加した。 イ 出版物等の多言語化に努めた。 ・館蔵品図録『李秉昌コレクション(仮)』における英文併記。 ・館蔵品のデジタル画像データの海外向け利用推進のため「収蔵品画像利用規約」の中国語(簡・繁)、韓国語への翻訳を行った。 【令和3年度実績】作品解説やパネル、出版物等の多言語化に努めた。 ・常設展示の作品解説やパネルの英文併記 ・新館蔵品図録、展覧会図録等における英文併記 ・館蔵品のデジタル画像データの海外向け利用推進のため「写真利用規約」等の英語、中国語(簡・繁)、韓国語への翻訳を行った。 ・館蔵品情報の研究成果を反映して解説の改訂を行い、それに伴い多言語への反映を行った。 ウ 新型コロナウイルスの収束後に増加する海外からの来館者の対応として、施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化やビクトグラム化を含む新たなロゴ・サイン計画の検討・準備を進めた。	3	

	(大阪市立科学館) ア HP、リーフレットの英語・中国語・韓国語対応を行う。 イ オンラインを利用した展示場解説文の多言語化、展示解説ビデオの英語テロップ表記を行う。 ウ 解説・説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者増加を図る。 エ 施設案内等（非常時の案内を含む）の多言語化の検討を進める。（再掲）	27	(2万博) (再掲) (大阪市立科学館) ア HPにおける各国語への誘導ページの作成や三つ折りリーフレットにて英語・中国語・韓国語の対応を実施した。 イ 常設展示物の解説文をスマートフォンアプリで取得できるシステム「ポケット学芸員」において、英語、中国語、韓国語で運用した。また、YouTubeで公開中の展示解説動画「学芸員の展示場ガイド」の一部に英語字幕を入れて公開した。 ウ 常設展示物に、スマートフォンアプリ「ポケット学芸員」にアクセスできるQRコードを設置したほか、YouTubeの展示紹介ビデオの紹介を設置する等、来館者が情報を得られる工夫を多言語で展開し、国内外からの来館者増に寄与。 エ 施設案内の英語、中国語等多言語化を一部実施した。加えて非常階段内の表示をわかりやすく認識しやすいものに変更した。	3	
	(大阪歴史博物館) ア 来館者状況を注視しつつ施設案内等の多言語化について見直しを進め、展示更新計画と合わせて新たなあり方を検討する。 イ 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実を図る（再掲）。	27	(大阪歴史博物館) ア 平常は7種の外国語パンフレット配布数を分析し、国別の来館者動向の把握に努めた。4年度もインバウンドが極めて少ない状態であったが、後半は回復傾向にある。展示改修計画については一部再検討を予定しているが、音声ガイドについては多言語対応を検討中である。 イ 展示資料の内容に合わせ適宜外国語訳を付した。（再掲）	3	
	(大阪中之島美術館) ア 施設案内や券売等の他言語化を推進し、外国人の受入れ体制の充実に努める。	27	(大阪中之島美術館) ア 公式HP、オンラインチケット販売システム等の他言語化を推進し、外国人の受入れ体制の充実に努めた。	3	
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 28 芸術文化に係る団体への成果発表の機会の提供及び当該団体の活動の奨励 美術団体等へ施設を貸出し、市民による成果発信を支援する。 施設のエントランス等を利用し、関係団体による成果展示を支援する。 市民参加のフェスティバル等を開催し、活動成果発表の場を提供する。			【機構の評価】 美：3、自：3、科：3、歴：3 自然史博物館では自然史フェスティバル、科学館と共催のジオ・カーニバルを実施するなど、関係団体の成果発表を支援した。美術館では、リニューアル後を見据え、関係団体へのアンケート結果を生かし、サービス向上策へ反映させた。	3	
	(大阪市立美術館) ア 美術館休館中の代替会場となりうる候補リストを各団体に提供する。	28	(大阪市立美術館) ア 会場リストについて各団体に提供した。リニューアル後を見据え、2023年2月に団体向けアンケートを実施した。 リニューアルを機にしたサービス向上等についてのヒアリングを実施し、リニューアル後のサービス向上策に反映させることに役立てた。	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 市民の自然に関わる文化活動の発表の場としてこどものためのジオ・カーニバル（10月）大阪自	28	(大阪市立自然史博物館) ア ジオ・カーニバル（参加588人）・自然史フェスティバル（参加者17,600人）も規模を縮小しな	3	

	<p>然史フェスティバル（11月）を開催する。 【令和2年度実績】 コロナ禍の影響により中止、11月3日にwebシンポを実施した。視聴者数1,483回。</p> <p>イ 博物館と連携して活動する市民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行う。 【令和2年度実績】 大阪自然史センター、大阪自然環境保全協会、（財）大阪みどりのトラストを始め、多くの団体に指導、支援を実施。</p> <p>ウ アーティストによる標本活用等、芸術分野とのコラボレーションを継続して模索する。 【令和2年度実績】 コロナ禍の影響、ネイチャーホール工事により今年度は実施できなかった。</p> <p>エ 関連学会と連携した市民科学の発表機会を誘致する。 【令和2年度実績】 3月に地域自然史と保全大会をオンラインにて実施延べ559人参加。</p> <p>オ 大阪府高等学校生徒生物研究発表会や自由研究展等生徒・児童の発表機会の確保に努める。 【令和2年度実績】 11/23に大阪府高等学校生徒生物研究発表会を会場とオンラインのハイブリッド参加方式で実施した。会場参加70人オンライン参加21枝。</p>			
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア サイエンスガイドによる展示ガイド等のボランティア活動を支援する。</p> <p>イ 科学デモンストレーターによるエキストラ実験ショーをはじめとしたボランティア活動を支援する。</p> <p>ウ こどものためのジオ・カーニバル企画委員会、青少年のための科学の祭典大阪大会実行委員会等の活動を支援する。</p> <p>エ 友の会有志による、「青少年のための科学の祭典」への出展を支援する。</p> <p>オ 科学館大好きクラブによる展示解説を支援する。</p> <p>カ ボランティアの科学デモンストレーター有志による万博共創チャレンジへの参加とその活動を支援する。(2万博)</p>	<p>28 (大阪市立科学館)</p> <p>ア サイエンスガイドによるボランティア活動を支援し、展示場ガイドやワークショップ「サイエンスガイドとあそぼう」「サイエンスガイドの日・カガクの体験マルシェ」を実施した。(7月下旬から9月末までは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止)</p> <p>イ 科学デモンストレーターによる活動として、エキストラ実験ショーを実施した(4月～10月下旬までは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休止)。また、5月より月1回、オンライン事業「おうちで科学とものづくり！オンライン教室」を実施した。加えて、2025年の大阪万博に向けてデモンストレーター有志による「SCIENCE de DOYA (サイエンスでどや！)」が行う活動に対して館として支援し、7月には「サイエンスてんこもり！」を実施した。</p> <p>ウ 「こどものためのジオ・カーニバル」は11月の開催に向け企画委員会に協力しているほか、「青少年のための科学の祭典大阪大会実行委員会」の活動を支援し、大会を8月に開催した。</p> <p>エ 今年度は友の会有志による出展はなかったが、継続的な協力を行っている。</p> <p>オ 科学館大好きクラブは、新型コロナウイルス感染拡大が長引いているため、当面休止の申し入れ</p>	<p>3</p>	

			があり、今後の再開にむけて継続的に協力を行っている。 カ ボランティアの科学デモンストレーター有志による万博共創チャレンジの活動として、7月に「サイエンスてんこもり」を実施したほか、活動を支援している。（2万博）		
	(大阪歴史博物館) ア 館の活動に関係する学術団体等と連携し、発表の場を設ける。 【令和2年度実績】 第36回歴史学入門講座（同講座実行委員会）開催中止	28	(大阪歴史博物館) ア 昨年度は休止した「歴史学入門講座」を同講座実行委員会と連携して7月に開催した（参加者36名）。11月に科研費「中世後期から近世初頭における武家拠点形成の研究」及び「NPO法人旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会」と共催のシンポジウムを開催した（参加者 武家拠点約100名、真田山76名）。 【令和3年度実績】 歴史学入門講座（同講座実行委員会）オンライン開催のため共催なし。	3	
29 さまざまな事業者等と連携した観光客の獲得 鉄道事業者や旅行社、宿泊施設等と連携した広報やチケット販売等を実施する。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：4、中：3 歴史博物館ではクラブツーリズムと共同でのツアーや、民間事業者との食事をセットとし企画・販売、市立美術館ではJTBとの「夜間貸切開館」、自然史でも宿泊施設への企画協力など、さまざまな事業者等と連携した広報・チケット販売等を実施した。	3	
	(大阪市立美術館) ア 大阪観光局や JTB、周辺宿泊施設等観光関連団体・企業との相互協力体制をベースに、文化観光の観点での情報発信、誘客計画を進める。（再掲） イ 天王寺駅・新今宮駅周辺の施設（てんしば、あべちか、あべのキューズモール、あべのハルカス、アポロビル等）との共同広報展開を継続する。	29	(大阪市立美術館) ア JTBとはフェルメール展での「夜間貸切開館」を実施（コロナ禍のため200名のみ）した。 イ 「てんしばエリアでの謎解きゲーム」等の企画実施及び情報発信（近鉄不動産等）を行った。「フェルメール展」での相互割引等を多数実施した。	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 連携のための情報収集を行う。商業施設等との連携展示を実施するとともに、キャッシュレス利用と連動した広報活動について連携を検討する。 【令和2年度実績】 イオンモール大阪ドームシティで外来生物展の連携展示を実施。 イ 広報につながるコラボ事業を積極的に開拓する。館の所蔵する画像等のコンテンツの共同展開や商品への活用等を含め検討する。	29	(大阪市立自然史博物館) ア Osaka Metroエリアイノベーション事業の一環でサイト「NAGAI DAYS」に協力。長居ユースホテルでのイベント「飛び込め！絵本の世界」に企画協力を行った。 【令和3年度実績】 イオンモール大阪ドームシティでの展示実施。 イ 毒展等特別展に合わせて周辺の飲食店と協賛ドリンク等商品の展開を行い、SNS等でのプロモーションを促進した。	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア JR、京阪電車はじめ関連鉄道事業者等との連携による交通広告等の充実に向けて検討する。 イ 周辺ホテル、観光施設等との連携による広報活動を検討する。 【令和2年度実績】	29	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア JR、京阪電車はじめ関連鉄道事業者等との連携による交通広告等の充実に向けて検討した。 イ 周辺ホテル、観光施設等との連携による広報活動を検討した。 ・京阪電車ミュージアム・インフォメーション当館	3	

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阪急・阪神駅構内ポスター掲出 ・ 大阪駅デジタルサイネージ（天目展） ・ 地下鉄中吊り広告（天目展・黒田展各6回） ・ 地下鉄駅構内ポスター掲出（黒田展3回） ・ 京阪沿線2駅の広告板「ミュージアムインフォメーション」における各展覧会の告知 ・ 各展覧会のポスター・チラシ発送及び掲出依頼 		<p>枠へのポスターの通年掲出。</p>		
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 個人でのインターネットによる展示場やプラネタリウム予約・決済システム等を活用する。</p> <p>イ クリエイティブアイランド中之島の活動と連携し、チラシ配布等を行う。</p>	29	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア インターネットを通じて展示場とプラネタリウムのチケット購入ができるようシステムを構築し、運用している。</p> <p>イ クリエイティブアイランド中之島の活動と連携し、チラシ配布や、同プロジェクトのホームページに情報を掲載している。また、「大阪いらっしやいキャンペーン」（全国旅行支援）に参画した他、「大阪来てな！キャンペーン」の一環としてプライスレス体験の実施に協力した。</p>	3	
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 旅行事業者（クラブツーリズム等）や大阪観光局との連携を深め、誘客を促進する。</p> <p>イ 新たな連携のための情報収集を行う。</p>	29	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア クラブツーリズムと共同で、村上海賊をテーマにした「海賊たちの戦国時代」を企画・販売した（計4回。内、3回を令和4年度に実施済）。</p> <p>また、「歩いてめぐる南都七大寺の仏像」を企画・販売した（計7回。内、5回を令和4年度に実施済）。</p> <p>イ 大阪迎賓館（大阪城西の丸庭園内）を運営するバリューマネジメント社とナイトミュージアムとディナーをセットにした企画を策定し、11月17日に実施した。また、5年度に継続する企画打診を受けている。</p>	4	
	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア 大阪観光局等と協力し、観光広報媒体に情報を提供する。</p>	29	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア 大阪観光局等と連携し、観光広報媒体に情報を提供した。また、周辺の施設や宿泊施設とのタイアップ（半券提示による割引等）を実施し、他企業との連携による集客に努めた。</p>	3	

中期目標	<p>2 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」</p> <p>(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携</p> <p>各館の周辺エリアの魅力向上のため、近隣の施設及び周辺エリアで活動するさまざまな事業者等と積極的に連携する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各館の近隣の施設及び周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携による広報及び誘客 ・ 各館の近隣の施設及び周辺エリアで活動するさまざまな事業者等と協働して行うイベントの企画及び実施
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由	評価
(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携						
各館の周辺エリアの魅力向上のため、次の通り、近隣の施設及び周辺エリアで活動するさまざまな事						

業者等と積極的に連携する。				
<p>【各館等の基礎的活動の充実を目指す事項】 30 各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等との連携による広報及び誘客 最寄り駅や近隣の商業施設との連携を図る。 近隣の集客施設や関連施設との相互連携による誘客を目指す。 周辺エリアの広報誌や地域情報誌等広報手段を積極的に活用する。</p>		<p>【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 中：3、事：3 令和3年度に引き続き、コロナ禍ではあったが、来館者に対する感染対策を施したことにより、近隣の事業者等との協力関係を堅実に維持することができ、市民への来館機運を高めることを行った。</p>	3	
	<p>(大阪市立美術館) ア あべのハルカス美術館等との相互割引等を行い、新規来館者の増加を図る。 イ Osaka Metroが事業として展開している「sonoligo (ソノリゴノイベントのサブスクリプションサービス)」事業との連携を通じて集客を図る。 ウ 天王寺駅・新今宮駅周辺の施設(てんしば、あべちか、あべのキューズモール、あべのハルカス、アポロビル等)との共同広報展開を継続する。(再掲) エ 美術館の休館にあたり、美術以外のコンテンツと連携したクローズングイベントを開催することで美術ファン以外の来館および認知向上につなげていく。</p>	30	3	<p>(大阪市立美術館) ア 「華風到来」、「フェルメール展」での相互割引等を多数実施した。 イ sonoligoとの連携について、試験的に実施した。 ウ 「てんしばエリアでの謎解きゲーム」等の企画実施及び情報発信(近鉄不動産等)を行った。「フェルメール展」での相互割引等を多数実施した。 エ 「イケフェス大阪2022」と連携したガイドツアーを実施した。リニューアル後の教育普及コンテンツとして「文化財修復ワークショップ」や「デジタルアートワークショップ」等も実施した。</p>
	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 長居植物園、セレッソ大阪、駐車場事業者等と連携した情報発信に努める。(再掲) イ 最寄のOsaka Metro車内での放送やポスター掲出、Osaka Metroの事業への協力等を通じての広報を推進する。 【令和2年度実績】放送やポスター掲出は実施、Osaka Metroの「キッズ・サマーパス」等に協力し、観覧者呼び込んでいる。 ウ 商業施設との連携・商店街との連携等による広報及び誘客を進める。</p>	30	3	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 特別展に際して「のぼり旗」の駐車場や公園内への掲出のほか、臨時休館等のアナウンス、等で協力した。また、「長居植物園案内」は春以降、時間短縮や熱中症予防をしながら実施した。 イ ポスター掲出を実施した(再掲)。 ウ 毒展では「さくら珈琲」や長居ユースホステル等と連携した商品企画を実施し、東住吉区の伝統工芸品である「大阪錫器」と連携し、SNSでの話題拡散を景気とした誘客に努めている。(再掲)</p>
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア リニューアル後の国立国際美術館をはじめ、近隣及び中之島エリアの関連施設との広報協力や相互割引について検討する。 イ 「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」への参加により中之島エリアの他の参加施設との共同広報を行う。</p>	30	3	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館) ア リニューアル後の国立国際美術館や大阪中之島美術館をはじめ、近隣及び中之島エリアの関連施設との広報協力や相互割引について検討した。 イ 「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」への参加により中之島エリアの他の参加施設との共同広報を行った。</p>
	<p>(大阪市立科学館) ア Osaka Metro、京阪電鉄、JR等の交通機関にポスターを掲示する。 イ Osaka Metro、京阪電鉄、近隣図書館、動物園、近隣ホテル等の各種施設にチラシ・リーフレット等を設置する。(再掲) ウ Osaka Metroの「キッズ・サマーパス」等に協</p>	30	3	<p>(大阪市立科学館) ア Osaka Metro、京阪電鉄等の交通機関にポスターをプログラム更新に合わせて掲示した。 イ Osaka Metro、京阪電鉄、近隣図書館、動物園、近隣ホテル等の各種施設にチラシ・リーフレット等を設置した。 ウ Osaka Metroの「おでかけKID's PASS(旧名</p>

	<p>かし、観覧者の誘致を図る。</p>		<p>称：キッズ・サマーパス）」については割引対象に入っていないため参画しなかったが、他のOsaka Metro発行各種乗車券に対して提示割引を実施し、観覧者の誘致を図った。その他、大阪府下の旅行気運を高めるために大阪観光局が主催する「大阪いらっしやいキャンペーン」に事業者として登録し参画した。併せて大阪府の「感染防止宣言ステッカー」を取得した。</p>		
	<p>(大阪歴史博物館) ア 大阪城天守閣との共通券の発行を継続し、新規来館者の増加に努める。 イ 最寄のOsaka Metro駅構内でのポスター掲示の継続や、Osaka Metroの事業への協力等を通じての広報を推進する。 ウ 博物館周辺の商業施設（もりのみやキューズモールBASE等）との共同広報展開を継続する。</p>	30	<p>(大阪歴史博物館) ア 共通券の発行を継続して相互の連携を維持した。 イ Osaka Metro谷町四丁目駅での電照広告や館案内ポスターの掲出や谷町線車内音声案内を継続した。特別展ポスターの車内吊り・駅の市政広報板への掲出による広報活動を展開した。 ・京阪電車各駅への特別展等のポスター掲出を実施した。 ウ 大阪迎賓館において特別企画展「和菓子、いとおかし」コラボランチメニューを販売した。 ・リアル歴史巡礼クイズ「五代友厚と歩く幕末・明治の大阪」を大阪商工会議所、大阪観光局の後援を得て実施した。 ・もりのみやキューズモールBASEとの連携はコロナ禍により停止中。上町台地エリアとして、あべのハルカス近鉄本店と連携して店内に展覧会ポスター・チラシを設置し、また近鉄百貨店上本町店でもデジタルサイネージによる展覧会広報を行った。</p>	3	
	<p>(大阪中之島美術館) ア クリエイティブアイランド中之島実行委員会や中之島ウエスト・エリアプロモーション等と連携し、事業や広報の展開を図る。</p>	30	<p>(大阪中之島美術館) クリエイティブアイランド中之島実行委員会や中之島ウエスト・エリアプロモーション等と連携し、事業と広報の展開を実施した。</p>	3	
	<p>(事務局経営企画課) ア Osaka Metro、阪神高速等の交通機関、銀行等の商業施設に広報誌「OSAKA MUSEUMS」を設置し、広報を行う。 イ Osaka Metroの「キッズ・サマーパス」等に協力し、観覧者の誘致を図る。</p>	30	<p>(事務局経営企画課) ア Osaka Metro、阪神高速等の交通機関、銀行等の商業施設に広報誌「OSAKA MUSEUMS」を設置し、広報を実施した。 イ Osaka Metroの「おでかけKID's PASS」、「大阪周遊バス」等に協力し、観覧者の誘致を図った。</p>	3	
<p>【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 31 各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者等と協働して行うイベントの企画及び実施 周辺エリアの博物館・美術館と連携した事業を展開する。 近隣の公共施設や商店街等と連携したイベントへ参加する。</p>			<p>【機構の評価】 自：3、陶：3、科：3、歴：3 計画通りに、近隣事業者等と共同事業に参加し、企画・実施を行った。</p>	3	
	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 大阪市環境局等の開催する環境イベントほかに協力する。</p>	31	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 大阪市環境局の「夏休みこども環境教室～ゼロカーボンってなんやのん～」を博物館内にて実施</p>	3	

	<p>【令和2年度実績】予定していた環境局イベントが中止となった。</p> <p>イ 長居植物園、セレッソ大阪、駐車場事業者等の連携に努める。(再掲)</p>		<p>し、また、大阪府「おおさか生物多様性フォーラム」も当館講堂で実施する等、どちらもハイブリッド開催で実施した。</p> <p>イ 特別展に際して「のぼり旗」の駐車場や公園内への掲出のほか、臨時休館等のアナウンス、等で協力した。また、大地のハンター展ではセレッソ大阪のホームゲームに際し、告知映像掲出やチラシ配布等のプロモーション協力を行った。また、長居植物園の里山活動に関連して要請により学術的な協力をしている。</p>		
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」への参加や水都大阪、中之島まつり、光のルネサンス等中之島エリアの活性化につながるイベントへの協力を継続して行う。</p> <p>イ 「こども本の森 中之島」との連携について検討する。</p>	31	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」への参加や水都大阪、中之島まつり、光のルネサンス等中之島エリアの活性化につながるイベントへの協力を継続して行った。</p> <p>【令和3年度実績】光のルネサンスでは、当館壁面にプロフェクションマッピングの投影等イベント協力を行った。</p> <p>イ 「こども本の森 中之島」との連携について検討した。</p> <p>ウ 「クリエイティブアイランド中之島」エクステンジブプログラムの企画・実施に参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エクステンジブプログラムVo.2サイエンスアゴラ in 大阪2022「まげて、こえて、つくりだそう～学び続けられる社会へ～」クリエイティブアイランド中之島2022エクステンジブプログラムVol.2サイエンスアゴラ in 大阪ラウンドテーブル「まげて、こえて、つくりだそう～学び続けられる社会へ」への登壇 	3	
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 中之島地域の各組織が連携したクリエイティブアイランド中之島実行委員会に参加し、連携したイベントに協力、実施する。</p> <p>イ 中之島地域のエリアネットワーク(アートエリアB1、中之島ウエストエリアプロモーション等)と連携したイベントに協力、実施する。</p>	31	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 中之島地域のエリアネットワーク「クリエイティブアイランド中之島」の実行委員会、企画チームに参画し、共同広報を実施したほか、連携事業3件の実施・協力を行った。</p> <p>イ こども本の森中之島、大阪市中央公会堂との連携事業2件を実施したほか、中之島ウエストの地域共同事業に参画した。また、電気倶楽部と共催で「電気記念日スペシャルイベント」を開催した。</p>	3	
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 隣接するNHK大阪放送局との共同企画を立案・推進するとともに、同局イベントへの参参画を継続し、NHK大阪BKワンダーランドにあわせた企画を実施する。</p> <p>イ 書店や図書館等が実施するまちライブラリーブックフェスタに参画する。</p>	31	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア BKワンダーランド(秋季のみ開催)で展示会の広報を実施した。</p> <p>イ 「まちライブラリーブックフェスタ・ジャパン2022」に参加した。</p> <p>ウ 次の企画にも参画・協力した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史街道推進協議会に協力して、歴史見学会および歴史セミナーの企画・解説を実施した(9回)。 ・シニアcityカレッジに協力して、歴史講座「大阪人物誌」を企画立案し、館長・学芸員を講師派遣 	3	

			した(12回)。		
--	--	--	----------	--	--

中期目標	<p>2 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」</p> <p>(3) 民間企業等との協働等 地域経済及び産業の活性化のため、民間企業等との協働及び相互支援を推進する</p> <ul style="list-style-type: none"> 各館の売店等における民間企業等と連携したサービスの充実 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発 博物館等資料及び関連情報を活用した民間企業等の活動の支援
------	---

中期計画	年度計画	小項 目No.	法人の自己評価	市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由 ・評価のコメント
(3) 民間企業等との協働等					
地域経済及び産業の活性化のため、次の通り、民間企業等との協働及び相互支援を推進する。					
<p>【各館等の基礎的活動の充実を目指す事項】</p> <p>32 各館の売店等における民間企業等と連携したサービスの充実</p> <p>ミュージアムショップやレストランについて、民間事業者の協力を得て、機能の維持と魅力向上を図る。</p> <p>図書やミュージアムグッズを扱う「オンラインショップ」の開設を目指す。</p>			<p>【機構の評価】</p> <p>美：3、自：4、陶：3、科：3、歴：4</p> <p>自然史博物館では、ミュージアムグッズが雑誌・テレビなどで取り上げられ、売上は令和3年度対比で2倍に増加した。歴史博物館は、特別企画展「和菓子、いとおかし」のオリジナルグッズおよび、和菓子を販売し、文部科学省委託事業として、収益事業への官民連携導入に関する検討を終えるなど、民間企業等との連携したサービスの充実に努めた。</p>	4	
	(大阪市立美術館)	32	(大阪市立美術館)	3	
	(大阪市立自然史博物館)	32	(大阪市立自然史博物館)	4	
	<p>ア ミュージアムショップサービスを間断なく提供できるように努め、常設展や特別展と連携した商品展開のための情報提供等、魅力の向上に努める。</p> <p>【令和2年度実績】</p> <p>ミュージアムショップサービスも休館により4/1～6/2まで休止を余儀なくされたが、ネットショップにより活動を継続。アンケートは見合わせた。</p> <p>イ 自動販売機設置等アメニティを間断なく提供できるように努める。</p> <p>【令和2年度実績】</p> <p>アンダーグラウンド展に向けて商品開発を行っている。</p>		<p>「大阪産品を扱ったミュージアムグッズ」のオンライン販売を実施した。また、リニューアルオープン後のショップ運営に関して、民間事業者4社にヒアリングを実施し、検討準備を進めた。</p>		
			<p>順調に営業を継続している。「日本の鳥の巣と卵427」展に際してもトートバッグを始めとする各種の新品を開発し、関連書籍も充実させた。他の特別展に関しても連携した商品展開を行っている。また、同ショップの活動は『BRUTUS』『博物館研究』等にも取り上げられたほか、テレビ番組「マツコの知らない世界」にも大きく取り上げられ反響を呼んだ。利用料金を通じて館の収入にも貢献している。令和3年度実績は最低限度の利用料金であったが、令和4年度は2倍となった。</p> <p>イ ポーチに自動販売機を新設し、来館者のサービスを向上させた。</p>		

	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 民間事業者による魅力あるカフェ・ミュージアムショップの運営委託について検討する。(3東陶改修) イ 来館者サービスの充実のため、ミュージアムショップ等のリニューアルやオリジナルグッズ作成を検討する。(3東陶改修)	32	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア カフェ、ミュージアムショップ共にプロポーザルで委託業者を選定する準備を行った。 イ ミュージアムショップ等のリニューアルが出来る様にエンタランス工事に反映した。	3	
	(大阪市立科学館) ア 民間企業と連携したオリジナル商品の開発、販売を行う。 イ 科学館ネットショップを継続して運用し、充実を図る。	32	(大阪市立科学館) ア 民間企業と連携してオリジナルデザインのボールペンや防水メモ帳、星座早見盤等を開発した。現在もミュージアムショップやオンラインショップで引き続き販売をしている。また、企画展「色と形のふしぎ」やミニブック「自由研究のたね」に関連した実験キット等の商品を販売し、科学館とショップの魅力向上に貢献した。 イ 大阪市立科学館ネットショップを運用し、科学館オリジナルの各種雑貨や出版物等を販売している。	3	
	(大阪歴史博物館) ア ミュージアムショップの魅力向上に努める。 イ レストランの機能維持に努め、実施している相互割引等に加えて魅力向上にも努める。	32	(大阪歴史博物館) ア 特別展「絶景！滑稽！なにわ百景！」でオリジナルグッズを作成し、ミュージアムショップで販売した。特別企画展「和菓子、いとおかし」ではオリジナルグッズの製作・販売を実施するとともに開催期間中に同展特別協力先である鶴屋八幡社製和菓子4アイテムを販売した。 また、ミュージアムショップ運営事業者の公募を行い、令和5年度より新たな運営事業者と契約締結を行う予定である。 イ 特別企画展「和菓子、いとおかし」の開催期間中、コラボメニューの販売ならびに生菓子セットの販売を行った。 ウ 公式オンラインショップによる図録・館蔵資料集・オリジナルグッズ等の販売を継続中。 エ 文部科学省委託事業「文教施設における多様なPPP/PFIの先導的開発事業」に応募し、採択され、今年度、当館の付加価値の向上と来館者層の拡大に向けたミュージアムショップやレストランを含む館運営について、収益事業への官民連携導入に関する検討を終えた。	4	
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 33 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発 民間事業者等と連携したミュージアムグッズの企画と商品化を図る。 民間事業者等と協働し、ICT技術を活用した仮想展示や解説端末等の研究・開発を進める。 大阪にゆかりの深い企業の協力による資料の寄贈やデジタルアーカイブの構築・公開を目指す。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：4、科：3、歴：3、中：3 各館とも民間事業者との協働を進めた。市立美術館、自然史博物館、歴史博物館では、特別展に際し、新しいミュージアムグッズの製品化を行った。また、東洋陶磁美術館では、民間事業者と協働した画像のオープンデータ化による図書や商品開発、プログラム開発を行った。	3	
	(大阪市立美術館) ア 特別展開催にともなうグッズ等の商品開発を行	33	(大阪市立美術館) ア 「フェルメール展」でグッズを制作し、販売を	3	

	<p>う。</p> <p>イ 館蔵品を中心とした作品や美術館の建物をモチーフにしたグッズを、商品力やデザイン力に定評のある地元企業とのコラボレーションで定期的に展開し、美術館のオンラインショップや企業が有するチャンネルで販売していく。</p>		<p>行った。</p> <p>イ 「大阪産品を扱ったミュージアムグッズ」を展開した。</p>		
	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア ミュージアムショップ運営会社のグッズ開発に協力し、ショップの魅力向上に努める。</p> <p>イ 特別展等に合わせた新規グッズの開発に協力し、特別展の認知向上にも努める。</p> <p>【令和2年度実績】 外来生物展に際し、Tシャツやエコバック等を開発、販売した。外来生物展に向けてもTシャツ等を開発。</p>	33	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 様々な柄のヘアアクセサリ（シュシュ）等による常設展関連商品のオリジナルグッズ開発を行った。同時に既存商品もカラーバリエーション等の再開発を行った。前掲のように注目度も高い。</p> <p>イ 「日本の鳥の巣と卵427」展での新規Tシャツやトートバッグ、バッチ等、アンダーグラウンド展に関連したマグカップの提供等を行い、時宜に応じた新商品開発を行っている。</p> <p>【令和3年度実績】 大阪アンダーグラウンド展関連グッズ、植物展関連グッズを開発</p>	3	
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 民間事業者との協働や画像データのオープンデータ化による館蔵品関連の図書や商品の開発を促進する。</p>	33	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 民間事業者との協働や画像データのオープンデータ化による館蔵品関連の図書や商品の開発を促進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館蔵品画像のオープンデータの商用利用を含む利用促進に向け、ジャパンサーチとの連携を行った。 ・民間事業者との提携による最新技術による館蔵品の画像データ化とそれを活用したコンテンツを開発、公開（NHKエンタープライズと共同制作「Future Museum」～体感！国宝 油滴天目茶碗）、番組化への展開（NHKBS8K「謎解き！ヒミツの至宝さん「国宝 油滴天目茶碗」）。 	4	
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 企業の協力による展示の充実を行う。</p>	33	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア ミニ企画展「小型月着陸実証機『SLIM』展」において、企業から資料を借用した。その他、近隣の企業と展示への協力に関する打ち合わせを行った。また、大阪大学、東京大学の協力により常設展示を公開している。</p>	3	
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 民間企業と協働で展覧会およびイベントを企画し実行する。（1 CRS）</p> <p>イ ミュージアムグッズの企画開発、販売を民間事業者と連携して促進する。</p>	33	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 特別企画展「和菓子、いとおかし」の開催にあたって、鶴屋八幡の特別協力を仰ぎ、同社所蔵の資料の展示を行った。また、同社と共同で大阪市立中大江小学校における大阪と和菓子の歴史をテーマとした「総合的な学習の時間」のカリキュラムの提供を行った。</p> <p>イ 昨年度開発した古代フロア関連グッズを引き続きフェリシモのチャンネルも用いて販売している。また特別展「絶景！滑稽！なにわ百景！」、特別企画展「和菓子、いとおかし」でオリジナルグッズを開発し販売した。</p>	3	

			・グッズ販売では、BASEを利用してネット販売を行っている。BASE社のサイト「BASE U」に当館グッズ記事が掲載された（10月）。		
	(大阪中之島美術館) ア 特別展開催に伴い、グッズ等の商品開発を行う。	33	(大阪中之島美術館) ア 開催したすべての特別展において、民間事業者等と連携してミュージアムグッズの企画と商品化を行った。	3	
34 博物館等資料及び関連情報を活用した民間企業等の活動の支援 研修等を通じて、民間事業者の地元への理解促進や知識習得を支援する。 専門的知識に基づく助言等で、市民活動を行う団体等を支援する。 民間事業者による博物館等資料を使った出版活動や商品開発を支援する。			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：2、歴：3 自然史博物館では、大阪府内の市町村を中心に、環境行政の協力を積極的に進めた。その他の館は計画通りに実施し、民間事業者による出版活動や商品開発等の活動を支援することができた。	3	
	(大阪市立美術館) －	34	(大阪市立美術館) 「ミュージアムプラットフォーム/MU」のプラットフォームを利用して館蔵品データの公開や講演動画の紹介等を実施した。	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 学芸員の知見を求める自治体等の自然環境行政や企業等の環境保全活動の要請にこたえる。 【令和2年度実績】大阪市、大阪府、堺市、吹田市、岸和田市、京都府等の環境行政に委員等として協力を行っている（行政委員25件）。 イ 館蔵資料やその情報を活用した自然環境保全等、自然環境行政、環境活動に協力する。 【令和2年度実績】「堺市レッドリスト・堺市外来種アラートリスト」の改訂に協力で、十津川村の村史にデータ提供中等、事例多数。 ウ 人材育成を目的として講座や見学会への講師派遣等、友の会への連携を継続する。 【令和2年度実績】月例ハイク、合宿等を含め連携を継続 エ 学芸員の学術的知見を必要とする民間団体、市民団体の活動に協力する。 【令和2年度実績】業務内、兼業を含め講師派遣を多数行っている。	34	(大阪市立自然史博物館) ア 大阪府、堺市、吹田市、岸和田市、京都府等の環境行政に委員等として協力を行っている。 【令和3年度実績】大阪市、大阪府、堺市、吹田市、岸和田市、京都府、文化庁、環境等行政委員24件 イ 能勢町の保護上重要な生き物の作成に協力している。大阪府の生物多様性地域戦略検討委員等、事例多数 ウ 月例ハイク等での連携を継続。合宿観察会は新型コロナウイルスの影響では中止となった。 エ 業務内、兼業を含め講師派遣を多数行っている。 【令和3年度実績】 大学非常勤等14件 その他14件	3	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 館蔵資料の画像データ提供及び、問い合わせ対	34	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア 館蔵資料の画像データ提供、問い合わせ対応等	3	

	<p>応等を通じて、企業、自治体活動の要請に応える。</p>		<p>を通じて、企業、自治体活動の要請に応えた。 写真貸出12件(国内9件、国外3件：有料4件、免除8件) 【令和3年度実績】写真貸出34件、取材協力1件</p>		
	<p>(大阪市立科学館) ア 館蔵資料や展示物の画像データの提供、問い合わせ対応等を通じて、企業、自治体活動の要請に応える。</p>	34	<p>(大阪市立科学館) ア 館蔵資料画像の書籍掲載による依頼対応等、有償による画像提供を6件実施した。 【令和3年度実績】7件</p>	2	
	<p>(大阪歴史博物館) ア 館蔵資料の写真利用、問い合わせ対応等を通じて、企業、自治体、市民団体の要請に応える。 【令和2年度実績】213件 イ 企業の研修等に協力し、地元への理解・愛着の促進を支援する。</p>	34	<p>(大阪歴史博物館) ア 写真利用の申請に対し、合計212件(有料126件、免除86件)に対応した。問い合わせ対応は随時実施した。 【令和3年度実績】222件(有料130件、免除92件) ・市民からの希望が多かったメールでの利用申請を行えるよう申請者押印欄を廃止した。また複雑だった料金体系も簡潔化した。 ・市民団体「喜連村史の会」に引き続き講師を派遣、活動の支援を行った。 イ 歴史街道推進協議会の歴史ウォーク・セミナーへの企画・実施協力を通して、関係企業の事業に寄与している。 ・大阪シティ信用金庫の機関誌「せんだぎ」の歴史記事について、企画・編集に協力した。</p>	3	

大項目 I-③	I 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」 (1) 子ども及び教員等への支援 (2) 幅広い利用者への支援 (3) 参画機会の提供
------------	---

中期目標	3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」 法人は、各館を人々が探究心を抱き、感受性及び創造性を育むことができ、多様な学習ニーズに応えるものとするにより、市民力の向上に貢献する。 (1) 子ども及び教員等への支援 ・子ども向けワークシートの作成及びワークショップ等の実施 ・教員等を対象とした研修及び教材の開発に係る支援の実施
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由 ・評価のコメント	評価
(1) 子ども及び教員等への支援						
こどものリテラシーの向上及び教員等のスキルの向上のため、各館の活動における支援メニューの充実に取り組む。						
【各館等の基礎的活動の充実を目指す事項】 35 子ども向けワークシートの作成及びワークショップ等の実施 子ども・親子向け展示プログラムや体験型イベントを実施する。 学校利用向けのワークシートの作成や教材の開発・貸出しを行う。 団体鑑賞学習の受入れや来館時のオーダーメイド講演へ対応する。 職場体験の受け入れを実施する。			【機構の評価】 美：3、自：3、科：3、歴：3、中：3 コロナ禍の影響があり、一部実施を見合わせた事業もあったが、実施形態等を工夫し、継続して実施した。	3		
	(大阪市立美術館) ア 改修にあたり、3階に教育普及に使用する部屋を作り、ワークショップ等の子ども向けの事業を行うことを可能にする。(3市美改修) イ 天王寺区との連携による「天王寺区ジュニアクラブ」の活動に参画することでリニューアル後のプログラム展開につなげていく。 ウ NPO法人関西演芸推進協議会等との連携による小学校での特別授業等のプログラムを展開する。	35	(大阪市立美術館) ア 教育普及エリアの設計を実施した。 イ 8月に「天王寺区ジュニアクラブ」の活動の一環で美術館を公開し、40名が参加した。10月にも「文化財修理ワークショップ」を実施した。(14名参加) ウ 大阪産業局等との連携により「デジタル美術部」の一環として「アートプログラミングワークショップ」を実施した。(13名参加)	3		
	(大阪市立自然史博物館) ア 展示室内での子どもワークショップを継続的に実施することによって、既存の展示室の活用を活性化させる。参加者アンケート等の取り組みを強化する。 【令和2年度実績】 子どもワークショップを38回分企画したが、4-7月、12-2月実施分はコロナ禍の影響等により中止。代替プログラムをデジタルコンテンツにより	35	(大阪市立自然史博物館) ア ワorkshopは開催形態等を工夫して継続して実施している。 イ 継続的にワークシート、貸出資料を提供中、新規のキット等も積極的にYouTubeやホームページに提供、「おうちミュージアム」に整理、再編、積極的に行った。 ウ 「日本の鳥の巣と卵427」展に向けた「キッズマップ」及び「キッズパネル」を開発・公開し	3		

	<p>提供した。</p> <p>イ 常設展での小学生・中学生向けワークシート、学習用貸出資料の開発と提供を継続的に行う。 【令和2年度実績】継続的にワークシート、貸出資料を提供中、新規のキット等も積極的にYouTubeやHPに提供、「おうちミュージアム」として休館中の対応を積極的に行った。</p> <p>ウ 特別展での見学用「ワークシート」、「キッズマップ」、「キッズパネル」の開発と提供を行う。 【令和2年度実績】「外来生物展」に向けた「キッズマップ」及び「キッズパネル」、ワークシートを開発・公開した。</p> <p>エ 学校団体を対象とした遠足下見、説明会、相談対応を実施する。 【令和2年度実績】随時実施</p> <p>オ 事前の要請に応じた博物館内での学芸員による特別授業を実施する。 【令和2年度実績】コロナ禍の影響により秋以降の再開となったため合計7校と少なかった。</p> <p>カ 中学生、高校生、大学生への職業体験、インターンに対応する。 【令和2年度実績】 コロナ禍の影響により中止した学校が多く、利用はなかった。</p> <p>キ 常設展での自己学習型シート「たんけんクイズ」の配布を継続する。 【令和2年度実績】8月以降に再開、実施した。</p>		
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 学習指導要領に対応した展示場ワークシートの作成とその利用促進を図る。</p> <p>イ 学校団体向けプラネタリウム学習投影を実施し、児童生徒の天体の運行等に関する学習理解の手助けとなる学習用資料を作成する。 【令和2年度実績】108回</p> <p>ウ 幼児～小学校低学年を対象とした展示コーナーを常設するとともに、プラネタリウムに関しても「ファミリータイム」を実施する。 【令和2年度実績】305回</p> <p>エ 小学校5・6年生を対象としたジュニア科学クラブを実施する。</p> <p>オ 小学校向けの出張サイエンスショーを実施する。 【令和2年度実績】10校10件</p>	<p>35 (大阪市立科学館)</p> <p>ア 小学生向けの展示場ワークシート「たんけんラリー」5種類を科学館HP上で公開し、利用に供した。</p> <p>イ 学習投影の投影実績は234回。観覧者には、学習用のパンフレット「学習のしおり」を無料配布した。 【令和3年度実績】19回</p> <p>ウ 「ファミリータイム」の投影実績は450回。また展示場2階において「おやこでかがく」をテーマとした常設展示を行った。 【令和3年度実績】ファミリータイム実施202回</p> <p>エ ジュニア科学クラブは4～3月に11回実施したほか、月刊「うちゅう」での各種情報紹介等を実施した。会員数：50名</p> <p>オ 大阪市立小学校向けの出張サイエンスショーは、市教委との連携のもと10～12月の期間に10件実施した。 【令和3年度実績】計30校30件実施</p>	<p>3</p>
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 地元の小中学校への郷土史学習コンテンツやイベントを企画し、参画・利用を働きかける。</p>	<p>35 (大阪歴史博物館)</p> <p>ア 大阪市立中大江小学校に対して、特別企画展「和菓子、いとおかし」の関連行事について企画</p>	<p>3</p>

	<p>イ 常設展示場内でのスタンプラリー実施や8階「歴史を掘る」コーナーでのワークシートの配布。</p> <p>ウ 「わくわく子ども教室」「考古学体験教室」等のこども向け事業を実施する。</p> <p>【令和2年度実績】 コロナ禍の影響のためすべて中止</p> <p>エ 小中学校向け展示ガイドブックやワークシートを当館HPにアップし、教員への周知を図る。</p> <p>オ 中学生向け職業体験を実施する。</p> <p>【令和2年度実績】 職場訪問・出前授業2校</p>		
	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア 外部専門家と連携して、こどもを対象としたワークショップ等を実施する。</p>	<p>35</p> <p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア 外部専門家と連携して、こどもを対象としたワークショップ等を実施した。 ・キッズプラザ大阪等との協働による子どものためのラーニングプログラムを実施した。</p>	<p>3</p>
<p>36 教員等を対象とした研修及び教材の開発に係る支援の実施</p> <p>教員に対する博物館活用に関する研修会やワークショップを開催する。</p> <p>教員による施設利用の事前学習を支援する。</p> <p>大阪府・市教育センター等と連携を図り、教科部会や教員を支援する。</p>		<p>【機構の評価】 自：3、陶：4、科：3、歴：5、事：3</p> <p>東洋陶磁美術館では、文化庁補助金により小学生向けオンライン授業の鑑賞学習コンテンツを企画・開発・実施し、歴史博物館では、特別展開連企画を小学校と協働で実施し、今後の教員研修で紹介を予定するなど、教員等の博物館活用を進める新規事業に取り組んだ。</p>	<p>4</p>
	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 教員のための博物館の日を開催し、学校利用のための研修や相談を実施する。</p> <p>【令和2年度実績】 コロナ禍の影響により中止。研修用動画コンテンツを提供。</p> <p>イ 教員向けサポート連絡誌TM通信を発行し、利用法の周知に努める。</p> <p>【令和2年度実績】 コロナ禍の影響による休館に伴</p>	<p>36</p> <p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 教員のための博物館の日は人数を限定し、対面で開催した。また、博学連携のための研究会を科研究事業の一環として行っている。</p> <p>イ 教員向けサポート連絡誌TM通信の発行を再開した。特別展等を含め館のより良い利用につなげる情報を提供している。</p> <p>ウ 教員と連携した貸出資料・学習キットの開発に</p>	<p>3</p>

	<p>い、2号の発行にとどまった。</p> <p>ウ 教員と連携した貸出資料・学習キットの開発に努める。</p> <p>【令和2年度実績】科研費の研究結果をもとに、学芸員の研究活動を紹介するミニガイド「クジラのバトン」を発行した。オンラインコンテンツとしても動画版を公開した。</p>		<p>ついて、科研費事業等で取り組んだ。</p>	
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 教員や子ども向けの研修・ワークショップへの協力・施設利用のための事前学習への支援について検討する。</p> <p>イ 館蔵品画像オープンデータ化を通し、教材や教育プログラムへの利用推進を図る。</p>	36	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア リニューアル後の教員や子ども向けの研修・ワークショップへの協力・施設利用のための事前学習への支援について検討するとともに、ベンチマーケティングや各種情報収集を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生向けオンライン授業の鑑賞学習コンテンツ「カラフルアートクラス ゆてき♥ステキ」を企画・開発し、大阪市内の小学校2校において実施した(文化庁 Innovate MUSEUM事業) ・視覚障害者向けの鑑賞プログラム「カラフルアートワークショップ・さわってみよう東洋陶磁」を企画・開発し、大阪市立自然史博物館において実施した(文化庁Innovate MUSEUM事業) ・ユニバーサルミュージアム研究会へ参加する等、各種事例の情報収集を行った。 <p>イ 館蔵品画像のオープンデータ化等を通して、教材等教育現場への利活用推進を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校、大学の教科書・教材への掲載 2件 ・館蔵資料10件を「大阪市立東洋陶磁美術館収蔵品画像オープンデータ」サイトで追加公開し、オープンデータ化した(再掲) <p>【令和3年度実績】2件</p>	4
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 大阪市教育センター等と連携を図り、サイエンスショーや実験実習等の教職員向けの研修を実施する。</p> <p>【令和2年度実績】コロナ禍の影響により実績なし</p> <p>イ 教員と連携を行い、事業の教育効果を高める。</p>	36	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 大阪市教育センター、大阪教育大学との連携による研修「科学館セミナー」を1回、大阪市教育センターとの連携による「大阪市立科学館連携研修」を1回、「理科教育推進 大学連携講座」を1回実施した。また、大阪市新任教員研修を1人(2日間)実施した。</p> <p>【令和3年度実績】3件実施。</p> <p>イ 大阪市教育センターと連携し実施した教員研修「大阪市立科学館連携研修」では、教員からもサイエンスショーに対する意見、提案を受け、サイエンスショーの実施に役立てた。</p>	3
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 教員向けの利用講座を通じ、ワークショップ等で当館の魅力を伝えるようにし、当館の活用を図るようにする。</p> <p>イ 教員研修への協力をを行う。</p> <p>【令和2年度実績】コロナ禍の影響ため実施せず</p> <p>ウ 教員のための博物館の日を実施する。</p> <p>【令和2年度実績】コロナ禍の影響のため実施せず</p> <p>エ 授業づくりの支援のため、教員に素材となる資</p>	36	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 大阪市社会科学研究会(6月17日)において、難波宮を素材とした地域学習の実例について学芸員が発表し、学校団体への利用を呼び掛けた。</p> <p>イ 大阪市教育センターと協力して、8月5日に教員研修を実施した(参加者47名)。今年度は教育現場に立つ教員を講師として招聘する等内容の充実を図った。</p> <p>【令和3年度実績】50名(オンライン開催)</p>	5

	料・情報を提供する。		<ul style="list-style-type: none"> ・8月に大阪市立中学校教員1名の初任者員研修を受け入れた。 ウ 機構事務局と協力して「教員のための博物館の日」を教員研修と同時開催した（参加者57名、内教員研修外は10名）。また本研修において、エの取組を、企業・小学校と連携した展覧会プログラムとして紹介した。 【令和3年度実績】50名（オンライン開催） エ 特別企画展「和菓子、いとおかし」において、株式会社鶴屋八幡の協力を得て、中大江小学校と連携し、見学会・講演会・和菓子作り体験（樹脂粘土使用）のプログラムと教材の提供を行った。この事業概要は動画にまとめてYouTubeで公開したほか、令和5年度には教員研修において、担当教員からプログラム内容を紹介予定である。 	
	(事務局経営企画課) ア 「教員のための博物館の日」を自然史博物館、歴史博物館で各1回開催予定。	36	(事務局経営企画課) ア 「教員のための博物館の日」を自然史博物館、大阪歴史博物館で開催した。(8/3 59名、8/5 41名と計100名が参加)	3

中期目標	<p>3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」</p> <p>(2) 幅広い利用者への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施 ・博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧並びにそれらの調査研究に関する教育及び普及の事業を行うこと(再掲11) ・多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開(再掲12) ・多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実(再掲23)
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(2) 幅広い利用者への支援						
さまざまな人々の多様な学習ニーズに応えるため、支援メニューの充実に取り組む。						
<p>【各館等の基礎的活動の充実を目指す事項】</p> <p>37 学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施</p> <p>学校を単位としたメンバーズ制度による高校・大学生等の利用促進を図る。</p> <p>大学院生や若手研究者への研究協力(インターン制度を含む)を行う。</p> <p>市民による高度な研究を支援するための制度を継続的に実施する。</p> <p>関連団体への専門的助言等を通じて支援を行う。</p>			<p>【機構の評価】</p> <p>美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3</p> <p>中：3、事：3</p> <p>各館とも、計画通りにキャンパスメンバーズや、学生・大学等への支援を実施した。</p>	3		

	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 改修後の美術研究所の運営方法について検討を進める。(3市美改修)</p> <p>イ 休館中の美術研究所の活動として作品画像による添削を中心としたオンラインサポートを実施する。</p> <p>ウ 大阪公立大学等での博物館学関連講座への出講を行う。</p> <p>【令和2年度実績】博物館展示論、博物館資料保存論、博物館経営論</p> <p>エ キャンパスメンバーズ対応館であることをPRし、大学生等の来館を促す。</p> <p>【令和2年度】来館者870名</p>	37	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 美術研究所の講師会議を毎月実施し、リニューアル後の運営についての検討を進めている。</p> <p>イ 4月からオンラインサポートを実施している(30名が参加)。</p> <p>ウ 大阪公立大学での博物館学関連講座への出講を行った。</p> <p>エ キャンパスメンバーズ利用者 1,238人</p>	3	
	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 博物館実習等を通じ、学生への支援を行う。</p> <p>【令和2年度実績】夏期20名、秋期13名、冬期に21名、合計45名を受け入れたが、冬期はオンラインにて実施した。</p> <p>イ 要請に基づき、大学での博物館学関連講座への出講を行う。</p> <p>【令和2年度実績】計画通り実施</p> <p>ウ 館蔵資料の閲覧対応等を通じて研究者の活動を支援する。</p> <p>【令和2年度実績】6月以降再開。利用の成果が植物分野だけでも12論文公表されている。</p> <p>エ ジュニア自然史クラブを通じた自然史科学に興味を持つ中高生への直接的な指導を行う。</p> <p>【令和2年度実績】92名がメーリングリスト登録、コロナ禍の影響で多くが中止となり、5回の行事(うち1回はオンライン)を実施、延べ79名が参加。</p> <p>オ 周辺地域の Super Science Highschool指定校等へのサポートを要請に基づいて行う。</p> <p>【令和2年度実績】高校生物教育研究会等を通じ支援(11/23 生徒研究発表会等で発表)</p> <p>カ 博物館と連携して活動する市民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行う。(再掲)</p> <p>キ 大学生ワークショップサポートスタッフへの教育的指導を含めたエデュケーターとしての育成に努める。</p> <p>【令和2年度実績】 大学もオンラインとなっていたため年度当初の募集を断念、昨年度参加者を中心にサポートスタッフを募集したところ11名が登録、活動を行った。</p> <p>ク キャンパスメンバーズ対応館であることをPRし、大学生等の来館を促す。</p> <p>【令和2年度実績】来館者481名</p>	37	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 博物館実習を通常通り受け入れた。</p> <p>イ 大阪公立大学(博物館経営論・展示論・資料保存論、分担)、和歌山大学博物館経営論、奈良女子大学博物館展示論等に出講。その他、近畿大学等各大学の博物館での実習に協力した。</p> <p>【令和3年度実績14件】</p> <p>ウ 館蔵資料の研究目的での閲覧は日常的に受け入れている。閲覧利用は、標本整理ボランティアを含め910名。また研究目的のインターン生も受け入れた。(再掲)</p> <p>エ 112名がメーリングリスト登録、今年度は雨天中止を除き、少人数での野外行事を多数実施した。</p> <p>オ 高校生物教育研究会等を通じ支援、(11/23生徒研究発表会等で発表)、また、2月に「地域自然史と保全大会」でも学生が発表。(再掲)</p> <p>カ 博物館と連携して活動する市民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行っている。(再掲)</p> <p>キ ワークショップサポートスタッフの育成は順調に進み3月には成果発表を博物館こどもまつりとして実施した。</p> <p>ク キャンパスメンバーへの来館促進のため、SNS等で告知を行った。</p>	3	

	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 東洋陶磁研究の世界的な拠点として、外来研究員や研修生（インターン）の受け入れを推進する。</p> <p>【令和2年度実績】研修生（インターン）3名</p> <p>イ 包括連携協定を締結している大阪公立大学の博物館学関連講座への出講を行う。</p> <p>【令和2年度実績】（見学実習受け入れ）3大学55名（※市大の展示論を含む）</p> <p>ウ 館蔵資料の調査対応等を通じて研究者の活動を支援する。</p> <p>エ キャンパスメンバーズ制度に加入している大学の学生をはじめとした、学生等の来館促進の方策について検討する。</p> <p>【令和2年度実績】来館者483人</p>	37	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 大学院生インターン1名（継続1名）の受け入れを行った。</p> <p>【令和3年度実績】インターン4名の受け入れを行った。</p> <p>イ 包括連携協定を締結している大阪公立大学の博物館学関連講座への出講を行った。</p> <p>【令和3年度実績】大阪市立大学46名・大阪芸術大学47名</p> <p>ウ 館蔵資料の調査対応等を通じた研究者の活動支援を行った（1件2名）。</p> <p>【令和3年度実績】2件2名</p> <p>エ キャンパスメンバーズ制度に加入している大学の学生をはじめとした、学生等の来館促進の方策について検討した。</p> <p>【令和3年度実績】443人</p>	3	
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 天文学を学べる大学と連携し、その分野への進学に興味を持っている生徒に情報提供を行う場を設け、大学と高校生の仲立ちを担う活動を実施する。</p> <p>イ 市井の研究者と学芸員の協同による中之島科学研究所事業を行う。</p> <p>ウ 各種友の会活動等への学芸員の協力、関与を行い、科学に対して興味関心の高い市民に対する専門的な助言等の支援を行う。</p> <p>【令和2年度実績】友の会 会員数725人</p> <p>エ 博物館実習を実施し、学芸員資格の取得を目指す学生の支援を行う。</p> <p>オ キャンパスメンバーズ対応館であることをPRし、大学生等の来館を促す。</p> <p>【令和2年度】来館者1,119名</p>	37	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 全国の大学と協力し、天文を学べる大学や大学院に興味のある高校生教員、保護者等を対象にしたイベント「天文学者大集合！宇宙を学ぶ大学紹介イベント」を対面により実施し、併せてオンライン中継を実施した。実来場は24名参加。</p> <p>【令和3年度実績】オンライン実施で500名参加</p> <p>イ 中之島科学研究所事業を実施し、研究員と学芸員等による講演、議論を行う「コロキウム」を11回実施した。</p> <p>【令和3年度実績】3回実施</p> <p>ウ 友の会の活動を支援し、例会での講演をはじめとした各種支援を実施した。（友の会会員数655人）</p> <p>エ 博物館実習は、9月に対面で実施した。受講生5名</p> <p>オ 今年度のキャンパスメンバーズ制度の利用者数は、2,727名であった。</p>	3	
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 夏季に博物館実習等を通じ、学芸員資格の取得を目指す実習生を受け入れる。</p> <p>【令和2年度実績】11大学46名</p> <p>イ 要請にもとづき、大阪公立大学、大阪大学、同志社大学等への出講を行う。</p> <p>【令和2年度実績】大阪大学、同志社大学、大阪芸術大学、関西大学、神戸大学、大阪市立大学</p> <p>ウ 館蔵資料の閲覧対応等を通じて研究者の活動を支援する。</p> <p>【令和2年度実績】11件</p> <p>エ キャンパスメンバーズ対応館であることをPRし、大学生等の来館を促す。</p> <p>【令和2年度】来館者498名</p>	37	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 8月22日から9月3日までの期間に、2期に分けて博物館実習を行い、9大学52名の実習生を受け入れた。また見学実習は6大学137名を受け入れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月から8月にかけて、大阪市立大学大学院生1名のインターンを受け入れた。 ・大阪公立大学学生の職業インタビュー1件に対応した。 <p>【令和3年度実績】11大学42名</p> <p>イ 大阪大学（2講座）、大阪芸術大学、関西大学、京都橋大学（後期予定）、同志社大学、大阪市立大学3講座に学芸員を派遣する。</p> <p>【令和3年度実績】大阪大学、大阪芸術大学、関西大学、京都橋大学、同志社大学、大阪市立大学3講座</p>	3	

			ウ 15件の資料閲覧申請に対応した。 【令和3年度実績】15件 エ キャンパスメンバーズの令和4年度の来館実績は981名。 【令和3年度実績】1,147名		
	(大阪中之島美術館) ア これまでの外部研修生(インターン)制度を見直し、開館後の研修プログラムの検討を進める。 イ 博物館実習生の受け入れ計画を作成する。 ウ 大阪公立大学での博物館学に係る講義を分担する。	37	(大阪中之島美術館) ア これまでの外部研修生(インターン)制度を見直し、研修プログラムを策定した。 イ 博物館実習生の受け入れ計画を作成するとともに、R5年度の実習生の受け入れ開始の準備を行った。 ウ 大阪公立大学での博物館学に係る講義を分担した。	3	
	(事務局経営企画課) ア キャンパスメンバーズを実施し、大学生等が各博物館を気軽に訪れられるようにし、常設展示・特別展等で行う文化・知識に触れやすくする環境を整え、専門的な知識内容の理解を深められるようにする。 【令和2年度実績】提携校 大学4校 高校3校	37	(事務局経営企画課) ア キャンパスメンバーズ制度を実施した。提携校 大学2校、高校2校。特に、大阪公立大学とは、本制度を利用しながら博物館学講座(保存論、展示論、経営論の3講座)との連携を実施し、展示論では自然史博物館・科学館を見学した。	3	
38 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業 講座・講演会・シンポジウム等を通じて、活動成果の公開と普及に努める。(再掲) 踏査や見学機会を通じて、実物に接する機会を提供する。(再掲) ワークショップの実施やリファレンス窓口を設置して、利用者の学習支援を行う。(再掲)			【機構の評価】 美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3 中：3、事：3 コロナ禍の影響もあり、一部実施を中止するものもあったが、オンラインなど開催方法を工夫し、教育・普及機会の確保に努めた。	3	
	(大阪市立美術館) ア 改修に際し、1階多目的室やカフェに講演会やレクチャー等に使用可能な設備、3階にワークショップ等に使用可能な部屋を作り、再開館後の教育普及事業の充実に備える。(3市美改修)	38	(大阪市立美術館) ア 1階部分について、大展示室を多目的室とし、講演会・映画上映・コンサート等に対応できるスペースとし、美術ホールについては、慶沢園を望むテラスを備えるカフェスペースとして改修を進めている。3階部分について、倉庫をアトリエ・工作室とし、作品制作、小規模な講座、ワークショップ等様々な教育普及事業が行えるスペースとして改修を進めている。	3	
	(大阪市立自然史博物館) ア 各種の自然観察会等多様な野外行事・講演会を継続的に実施する。(再掲) イ 学芸員の専門、特別展の内容に則した「自然史オープンセミナー」を開催する。(再掲) ウ 外部の学術団体等と連携したシンポジウム・講演会等を誘致開催する。(再掲)	38	(大阪市立自然史博物館) ア 野外観察会は雨天や熱中症警戒アラートによる中止等を除き、順調に実施している。ただし、密を避ける目的から定員を少なめにしたの実施となっているため、参加者数は例年より少なくなっているが、その分内容の充実を図ることができた。 イ 『自然史オープンセミナー』は8月まではオンラインで実施し、9月移行はハイブリッドによる開催を行っている。 ウ 地学団体研究会との共催によるセミナーをハイブリッド開催した。また、日本菌学会のオンライン公開講演会に協力した。近畿植物同好会、関西	3	

			自然保護機構等との共催シンポジウムをハイブリッドで実施した。	
	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア リニューアル後の展覧会計画策定に際して、展覧会ごとに関連した講演会や講座等の計画について検討する。(再掲) 【令和2年度実績】 実会場2回、オンライン2回	38	(大阪市立東洋陶磁美術館) ア リニューアル後の展覧会計画策定に際して、展覧会ごとに関連した講演会や講座等の計画について検討した。それとともに開館40周年記念事業等オンライン配信の講演会等イベントを実施した。(再掲) ・開館40周年記念特別インタビュー「大阪市立東洋陶磁美術館の開館への道とこれから(前編・後編)」(11月7日～、当館公式YouTube配信) ・日中国交正常化50周年記念講演会「大阪市立東洋陶磁美術館と中国文物展」(後援:外務省、中国駐大阪総領事館)(9月29日～、当館公式YouTube配信) オンライン配信2回 【令和3年度実績】 実会場1回、オンライン配信4回 イ 学芸員の調査研究の成果を還元するための講演会、講座、レクチャー等を継続的に実施した。また、台北の国立故宫博物院への特別協力の作品貸出に伴い、記念講演会やギャラリートークを行った。なお、感染症予防対策及び休館中のため、オンラインによる実施に取り組む。(1CRS)(再掲) 実会場2回(海外)、オンライン2回 【令和3年度実績】2回(オンライン) ウ 韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念公開講座(15)「東アジア水中考古学の成果」をオンライン開催(令和5年3月4日、期間限定アーカイブ配信(YouTube限定公開)3月8日～21日)。(再掲) 【令和3年度実績】 韓国陶磁研究基金による李秉昌博士記念公開講座(14)「高麗陶磁と磁州窯系陶磁」をオンライン開催(令和4年3月5日)で行った。 エ 小学生や視覚障害者等に向けた新たな鑑賞学習のコンテンツを企画・開発し、実施した。 ・小学生向けオンライン授業の鑑賞学習コンテンツ「カラフルアートクラス ゆてき♥ステキ」を企画・開発し、大阪市内の小学校2校において実施した(文化庁 Innovate MUSEUM事業)(再掲) ・視覚障害者向けの鑑賞プログラム「カラフルアートワークショップ・さわってみよう東洋陶磁」を企画・開発し、大阪市立自然史博物館において実施した。(文化庁 Innovate MUSEUM事業)(再掲)	3
	(大阪市立科学館) ア 学芸員による各種実験教室や研修・講座を実施	38	(大阪市立科学館) ア 学芸員等による各種実験教室・講座として、天	3

	<p>する。(再掲) 【令和2年度実績】8件 イ ボランティアによる展示ガイドやエキストラ実験ショーを実施する。(再掲) 【令和2年度実績】コロナ禍の影響により実績なし ウ 館外に出張しプラネタリウムやサイエンスショー、講演等を実施するアウトリーチ活動を実施する。(再掲) 【令和2年度実績】4件 エ 中之島科学研究所コロキウムの実施を通じ、学芸員の研究成果の発表を行う。(再掲) オ 随時、来館、電話による問い合わせ対応を行う。(再掲) カ 新型コロナウイルス感染症の感染リスク軽減のため、オンラインによる事業を実施する。(再掲)(1CRS) (再掲)</p>			
	<p>(大阪歴史博物館) ア 学芸員が各自の専門の最新の研究成果をつたえる「なにわ歴博講座」を継続的に実施する(再掲)。 【令和2年度実績】3回 イ 学芸員の専門に即した連続講座を実施する(再掲)。 【令和2年度実績】考古学入門講座、漢文講座はコロナ禍の影響のため中止 ウ 展覧会等の関連事業としてのシンポジウム等を開催する(再掲)。 エ 時宜に叶ったテーマで館長講演会を開催する。(再掲)</p>	<p>38 (大阪歴史博物館) ア なにわ歴博講座は6月から毎月実施し、11回開催し、784名の参加者があった。(再掲) 【令和3年度実績】6回(371名) 感染症対策としてガイドレシーバーを利用した考古学入門講座「考古学散歩」を2回実施し、38名の参加者があった。(再掲) 【令和3年度実績】3回38名 イ 特別展「絶景!滑稽!なにわ百景!」 ・講演会 117名(再掲) 特別企画展「和菓子、いとおかし」 ・対談 126名 ・スライドトーク 2回:計162名(再掲) 特集展示「新発見!なにわの考古学2022」 ・講演会 79名(再掲) ウ 館長による友の会講演会を1回実施し、「なにわ歴博講座」を10月に開催した。(再掲)</p>	3	
	<p>(大阪中之島美術館) ア トークイベント、シンポジウム等、開館イベントを実施する。(開館前より継続実施)(再掲) イ アーカイブズの方針、収集や整理、システム開発や運用方法等にかかる研修、普及事業を実施する。</p>	<p>38 (大阪中之島美術館) ア トークイベント、シンポジウム等を、展覧会関連を中心に積極的に実施した。 イ アーカイブズの方針、収集や整理、システム開発や運用方法等にかかる研修、普及事業を実施した。</p>	3	

	<p>(事務局経営企画課)</p> <p>ア 各館の学芸員等が連携して行う連続講座を16講演程度開催する。(再掲)</p> <p>【令和2年度実績】学芸員連続講座15回実施</p> <p>イ 大阪公立大学等と連携して、各館の学芸員が講演するミュージアム連続講座を1シリーズ(6講演)、歴史に関する連続講座を1回、シンポジウムを1回、理系の講演会を1回、それぞれ開催する。状況に応じてオンライン配信の取り組みを行う。(再掲)</p> <p>【令和2年度実績】大阪市立大学との連携で6講演実施 歴史連続講座1シリーズ6講演実施 「徳川大坂城400年」シンポジウム実施</p> <p>ウ 博物館に興味を持つ市民団体等のために「出前講座」を実施する。(再掲)</p> <p>【令和2年度実績】2件実施</p>	38	<p>(事務局経営企画課)</p> <p>ア 各館の学芸員による連続講座「TALK&THINK」を1~2月に15回実施した。</p> <p>イ 大阪公立大学等と連携して以下の事業を実施した。</p> <p>理系講演会「全国同時七夕講演会」：7月31日 歴史に関する連続講座「豊田秀吉の大坂城と城下町～最近の研究から～」：11月(4講演) 「ミュージアム連続講座」：3月に1シリーズ(6講演)</p> <p>博学連携講演会「すみよし南部の10万年 一大阪平野の形成から大学誕生まで」：3月18日</p> <p>ウ 10月に1件実施した。</p>	3	
<p>39 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公開</p> <p>図録・紀要等印刷物の発行によって調査研究その他の活動の成果を公表する(再掲)。</p> <p>収蔵資料や図書等に関する情報をインターネットを介して公開する(再掲)。</p> <p>講演会や学会発表映像、収蔵標本データ観察記録等のアーカイブ化と公開を促進する(再掲)。</p>			<p>【機構の評価】</p> <p>美：3、自：3、陶：3、科：3、歴：3、中：3</p> <p>各館とも展覧会の図録や研究報告等を計画どおり発行した。一部インターネットを介してこうかいするなど、博物館の活動の成果の公開を行うことができた。</p>	3	
	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 研究紀要を発行し、HP上で公開する。(再掲)</p> <p>イ 広報誌『美をつくし』を発行する。(再掲)</p>	39	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 3月に刊行し、HP上で公開した。</p> <p>【令和3年度実績】研究紀要年1回</p> <p>イ 改修後に向けた内容でR5年度に発行予定。</p> <p>【令和3年度実績】2回</p>	3	
	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 研究報告の継続的な発行とHP上での公開(再掲)</p> <p>イ 共同研究報告書、館蔵資料集等の継続的な発行(再掲)</p> <p>ウ 年報の作成およびHP上での公開を通じ、館の活動を公開する。</p> <p>【令和2年度実績】10月に館報45号を発行、リポトリに掲載した。</p> <p>エ SNSやブログ、ホームページを活用した学術情報や研究過程の発信を行う。(再掲)</p>	39	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 大阪市立自然史博物館研究報告77号を発行した(再掲)、自然史研究4巻6号を発行した。(再掲)</p> <p>イ 収蔵資料目録54集を発行した。(再掲)</p> <p>ミニガイドNo.35を発行した。(再掲)</p> <p>ウ 館報47号を発行した。(再掲)</p> <p>エ 特別展解説書『日本の鳥の巣467』を製作発行した。(再掲)</p> <p>オ 友の会発行の月刊誌Nature Study68巻4号から69巻3号の12冊を発行した。(再掲)</p> <p>カ 共著書籍の出版が発行された。(再掲)</p>	3	
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 調査研究の成果を反映した展覧会図録や館蔵品に関する書籍・図録の制作、監修、発行及びその準備を行う。(再掲)</p> <p>イ 李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告を発行する。(再掲)</p>	39	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 調査研究の成果を反映した展覧会図録や館蔵品に関する書籍・図録の制作、監修、発行、販売等の準備を行った。(再掲)</p> <p>編集発行1件、監修(あるいは編集協力)1件</p> <p>・館蔵品図録『李秉昌コレクション(仮)』のデザイン制作(デザインコンペティションを実施し、デザイン業務を完成させた)</p> <p>・泉屋博古館「大阪市立東洋陶磁美術館 安宅</p>	3	

			<p>コレクション名品選101」展図録 監修（編集協力） ・館蔵品図録『李秉昌コレクション（仮）』の制作準備</p> <p>【令和3年度実績】編集発行2件、編集2件 イ 李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告について、報告書「李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告」(15)を印刷・発行した。あわせて、同報告書のオンライン開催用カラーPDF版を作成・配布した。（再掲）</p> <p>【令和3年度実績】 報告書「李秉昌博士記念韓国陶磁研究報告(14)「高麗陶磁と磁州窯系陶磁」を印刷・発行。あわせて、同報告書のオンライン開催用カラーPDF版を作成・配布した。</p>	
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 学芸員の調査研究成果等を、研究報告の出版や学会発表、HPを通じて公開する。(再掲)</p> <p>イ 月刊誌「うちゅう」を発行し、各種活動や所蔵資料を広く紹介する。(再掲)</p> <p>【令和2年度実績】12冊発行</p> <p>ウ 3か月ごとに「科学館だより」を発行し、各種活動や所蔵資料を広く紹介する。(再掲)</p> <p>エ 展示解説の動画配信や SNS ツールを利用した情報発信を行う。(再掲)</p> <p>オ 学芸員の執筆によるミニブックを発行する。(再掲)</p> <p>カ 学芸員の専門性を生かしたホームページを作成する。(再掲)</p>	39	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 大阪市立科学館研究報告誌や月刊「うちゅう」等の発行物をHP上で公開し、成果を広く公開した。また、学芸員による研究成果の学会・研究会発表(口頭、論文を含む)を2件行った。</p> <p>イ 月刊「うちゅう」4月～3月号の計12冊を発行した。</p> <p>【令和3年度実績】12冊発行</p> <p>ウ 「科学館だより」を4号発行した。</p> <p>【令和3年度実績】2号発行</p> <p>エ HP上で展示解説動画「学芸員の展示場ガイド」108件を配信した。また、Twitterでは、「大阪市立科学館広報」、「学芸員@大阪市立科学館」、「館長の散歩@科学館」の3つのアカウントを開設し、情報発信を行った。</p> <p>オ ミニブックは16冊を販売している。今年度新たに新刊の刊行を1冊、増刷を2冊実施した。また、「こよみハンドブック2022-2024」を発行・販売している。</p> <p>【令和3年度実績】12冊発行。</p> <p>カ HP上においては、月刊「うちゅう」や研究報告誌等のオンライン配信を通じて、学芸員の活動を積極的に発信した。</p>	3
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 年1号の研究紀要を継続的に発行し、HP上で公開する(再掲)。</p> <p>【令和2年度実績】「大阪歴史博物館研究紀要」第19号</p> <p>イ 共同研究報告書、館蔵資料集等を継続的に発行する(再掲)。</p> <p>【令和2年度実績】「共同研究報告書」第15号、「大阪歴史博物館館蔵資料集」第17号</p> <p>ウ 年報の作成およびホームページ上での公開を通じ、館の活動を公開する(再掲)。</p> <p>エ 特別展の図録を作成する(再掲)。</p>	39	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 研究紀要第21号を発行した。データは総合学術電子ジャーナルサイト「J-STAGE」で公開予定である。(再掲)</p> <p>【令和3年度実績】研究紀要 第20号</p> <p>イ 共同研究報告書はコロナ禍による活動制限の影響により、館蔵資料集は予算削減により作成を見送った。(再掲)</p> <p>【令和3年度実績】 共同研究報告書16、館蔵資料集18「田中半次郎関係資料」を発行</p> <p>ウ 令和3年度年報を発行、HPに掲載した。(再</p>	3

	<p>【令和2年度実績】企画から中心的に関わった2本の巡回特別展において作成。ただし1本は開催中止のため非公開。</p> <p>オ 特集展示リーフレットを継続的に作成する(再掲)。</p> <p>【令和2年度実績】5本の特集展示において作成。ただし1本は臨時休館により非公開。</p>		<p>掲)</p> <p>【令和3年度実績】</p> <p>「大阪歴史博物館年報」令和2年度 エ 特別展「絶景!滑稽!なにわ百景!」では、滑稽浪花名所に特化した図録を作成・販売して好評を得た。(再掲)</p> <p>【令和3年度実績】1本の特別展で図録作成した。 オ 開催した6本の特集展示で作成・配布し、印刷、配布方法の見直しを行い、HPのPDF公開も実施した。(再掲)</p> <p>【令和3年度実績】 開催した6本の特集展示において作成・配布した。</p>		
	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア アーカイブズ情報室を開設し、アーカイブ資料やアーカイブ図書を公開する。(再掲)</p> <p>イ 撮影済みの画像データの公開 撮影済みの画像データを公開して、大阪中之島美術館収蔵品管理システムの充実を図る。(再掲)</p> <p>ウ 特別展の図録を作成・販売する。(再掲)</p>	39	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア アーカイブ資料やアーカイブ図書の整理・登録等の業務を進めた。(再掲)</p> <p>イ アーカイブズ情報室を開設し、アーカイブ資料やアーカイブ図書を公開した。(再掲)</p> <p>ウ 作品資料の撮影を行うとともに、撮影済みの画像データの登録を進め、収蔵品管理システムの充実を図った。(再掲)</p>	3	
<p>40 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実 デジタル機器(情報端末)等を活用した多言語対応を進める(再掲)。 パンフレット、展示解説文等の多言語化や、サインの充実を図る(再掲)。</p>			<p>【機構の評価】</p> <p>美:3、自:3、陶:3、科:3、歴:3、中:3 コロナ禍の影響もあり、外国人の受け入れがほとんどなかったが、多言語での情報発信などの継続と、将来に向けた見直しを行った。</p>	3	
	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 改修後の運用を見据え施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化の見直しを進める。(再掲)(3市美改修)</p> <p>イ これまでに実施した外国人動向調査の成果等を生かし、多言語での情報発信の見直しを進める。(再掲)(3市美改修)</p>	40	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア ウェブサイトリニューアルに関連するコンサルティングの中で多言語化対応についても検討を進めている。</p> <p>イ 大阪観光局の「留学生コンソーシアム」との連携による取組み等を活かし、多言語での情報発信の見直しを進めている。</p>	3	
	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア これまでに実施した外国人を含む利用者動向調査の成果等を生かし、やさしい日本語を含め、多言語での情報発信の見直しを進める。(再掲)</p> <p>イ 常設展示場内における外国語表記についてQRコードを利用した解説等多様な手法を用いる検討を行う。(再掲)</p> <p>ウ 館内表示や非常放送の多言語対応等について検証と検討を進める。(再掲)</p>	40	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア やさしい日本語への取り組みを、文化庁事業を含め実施した。</p> <p>イ 充実に向けて引き続き検討を行った。現状でも展示室の概要説明等での4ヶ国語表記等、最小限は実現できていると考えているが、大規模改修に向けた他館の調査、検討の中で充実化に向けて検討を進めている。(再掲)</p> <p>ウ 英語による非常放送等は実現しているが、スタッフによる対応等らなる改善手法について検討した。(再掲)</p>	3	

	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア コレクション展示における主要館蔵品61件の多言語対応解説アプリ(「ポケット学芸員」)の提供とその充実を図る。(再掲)</p> <p>イ 作品解説やパネル、出版物等の多言語化に努める。(再掲)</p> <p>ウ 新型コロナウイルスが収束後に増加する海外からの来館者の対応として、施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化やピクトグラム化の検討を進める。(再掲)</p>	<p>40</p> <p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア リニューアルオープンに向けて、コレクション展示における主要館蔵品61件の無料作品解説アプリ(「ポケット学芸員」)の提供を継続しながら、作品動画等のコンテンツや多言語化の充実に向けての準備を行った。(再掲)</p> <p>【令和3年度実績】平常展示における主要館蔵品61件の無料作品解説アプリ(「ポケット学芸員」)の提供を継続しながら多言語対応として中国語(簡・繁)、韓国語を追加した。</p> <p>イ 出版物等の多言語化に努めた。(再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館蔵品図録『李秉昌コレクション(仮)』における英文併記。 ・館蔵品のデジタル画像データの海外向け利用推進のため「収蔵品画像利用規約」の中国語(簡・繁)、韓国語への翻訳を行った。 <p>【令和3年度実績】作品解説やパネル、出版物等の多言語化に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常設展示の作品解説やパネルの英文併記 ・新館蔵品図録、展覧会図録等における英文併記 ・館蔵品のデジタル画像データの海外向け利用推進のため「写真利用規約」等の英語、中国語(簡・繁)、韓国語への翻訳を行った。 ・館蔵品情報の研究成果を反映して解説の改訂を行い、それに伴い多言語への反映を行った。 <p>ウ 新型コロナウイルスが収束後に増加する海外からの来館者の対応として、施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化やピクトグラム化を含む新たなロゴ・サイン計画の検討・準備を進めた。(再掲)</p>	<p>3</p>	
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア HP、リーフレットの英語・中国語・韓国語対応を行う。(再掲)</p> <p>イ オンラインを利用した展示場解説文の多言語化、展示解説ビデオの英語テロップ表記を行う。(再掲)</p> <p>ウ 施設案内等(非常時の案内を含む)の多言語化の検討を進める。(再掲)</p> <p>エ 解説・説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者増加を図る。(再掲)</p>	<p>40</p> <p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア HPにおける各国語への誘導ページの作成や三つ折りリーフレットにて英語・中国語・韓国語の対応を実施した。</p> <p>イ 常設展示物の解説文をスマートフォンアプリで取得できるシステム「ポケット学芸員」において、英語、中国語、韓国語で運用した。また、YouTubeで公開中の展示解説動画「学芸員の展示場ガイド」の一部に英語字幕を入れて公開した。</p> <p>ウ 施設案内の英語、中国語等多言語化を一部実施した。加えて非常階段内の表示をわかりやすく認識しやすいものに変更した。</p> <p>エ 常設展示物に、スマートフォンアプリ「ポケット学芸員」にアクセスできるQRコードを設置したほか、YouTubeの展示紹介ビデオの紹介を設置する等、来館者が情報を得られる工夫を多言語で展開している。</p>	<p>3</p>	
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 来館者状況を注視しつつ施設案内等の多言語化について見直しを進め、展示更新計画と合わせて</p>	<p>40</p> <p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 平常は7種の外国語パンフレット配布数を分析し、国別の来館者動向の把握に努めた。4年度も</p>	<p>3</p>	

	新たなあり方を検討する（再掲）。 イ 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実を図る（再掲）。		インバウンドが極めて少ない状態であったが、後半は回復傾向にある。展示改修計画については一部再検討を予定しているが多言語対応について未定である。（再掲） イ 展示資料の内容に合わせ適宜外国語訳を付した。（再掲）		
	（大阪中之島美術館） ア 施設案内や券売等の他言語化を推進し、外国人の受入れ体制の充実に努める。（再掲）	40	（大阪中之島美術館） ア 公式HP、オンラインチケット販売システム等の他言語化を推進し、外国人の受入れ体制の充実に努めた。	3	

中期目標	<p>3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」</p> <p>(3) 参画機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア及びNPOの各館の活動への参画の促進 ・各館の活動に関する利用者との対話の機会及び場の設定 ・さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価	市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由 ・評価のコメント
(3) 参画機会の提供					
市民活動に寄与するため、次の通り、各館の活動への幅広い参画の機会を提供する。					
<p>【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】</p> <p>41 ボランティア及びNPOの各館の活動への参画の促進</p> <p>友の会の組織と自主性を活かした運営を支援する各種ボランティア(ガイドや学芸補助等)活動の拡充を図る。</p>			<p>【機構の評価】</p> <p>自：3、陶：3、科：3、歴：3</p> <p>自然史博物館および科学館では、ボランティア活動等を実施した。一部コロナ禍の影響により、ボランティアの研修のみとするなどあったが、可能な形で、各館活動へのボランティアの参画の機会を提供した。</p>	3	
	<p>（大阪市立自然史博物館）</p> <p>ア ボランティア活動を維持し、自然科学的な研修を実施して活動が充実するよう継続して検討を行う。</p> <p>【令和2年度実績】 コロナ禍の影響により活動できる次期が限定的であった。延べ41名が事前研修等を受け、補助スタッフとして各種野外行事・実習等を支援した。</p> <p>イ 学生向けのボランティアについては、自然科学的な研修とともに、教育手法についての研修を充実させ、人材育成を強化する。</p> <p>【令和2年度実績】 11名の学生が参加し、研修を受けて年度末にはプログラム実施を担った。</p> <p>ウ 関連NPO法人等との協働事業を積極的に実施す</p>	41	<p>（大阪市立自然史博物館）</p> <p>ア 補助スタッフとして各種野外行事・実習等を支援してもらっているこの他にも、資料整理ボランティア（魚類標本等）が活動を活発化させている。</p> <p>イ 昨年度から継続の学生も多く参加し、充実した研修を受けている。</p> <p>ウ 各NPOと連携を進めている。4月には大阪自然史センターとの活動報告会を連携してオンラインにて実施。912回再生。8月、12月には環境事業協会の講座に協力、3月には自然環境保全協会のシンポジウムに協力した。</p> <p>エ 月例ハイク等を含め連携を継続。（再掲）</p>	3	

	<p>る。</p> <p>【令和2年度実績】大阪自然史フェスティバル、東北被災博物館支援、各地域でのワークショップ等の実施で大阪自然史センターと、研修やICOM対応等で西日本自然史系博物館ネットワークと共同する等各NPOと連携を進めている。</p> <p>エ 人材育成を目的として講座や見学会への講師派遣等、友の会への連携を継続する。(再掲)</p> <p>【令和2年度実績】月例ハイク、合宿等を含め連携を継続したが、多くの行事が中止となった。</p>				
	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 当館活動に賛同・支援する機会を広く提供するため、ボランティア制度を再検討する。</p>	41	<p>(大阪市立東洋陶磁美術館)</p> <p>ア 当館活動に賛同・支援する機会を広く提供するため、ボランティア制度を再検討した。また、ボランティアに対し休館中の取り組みを発信するとともに、リニューアル開館後の新プロジェクトの企画準備等を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア新制度案の策定を行い、ボランティア有志を交えての検討会議を実施した。(1回) ・休館中の活動事例を紹介する研修を行なった。(1回) <p>【令和3年度実績】 展覧会ごとの研修1回、意見交換会1回</p>	3	
	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 展示解説ボランティアによる展示ガイド、プチサイエンスショー、実験教室並びにその実施に向けての研修を行う。</p> <p>【令和2年度実績】 コロナ禍の影響のため実績なし</p> <p>イ 科学デモンストレーターによるエキストラ実験ショーの実施、並びにその実施に向けての研修とスキルアップ活動を行う。</p> <p>【令和2年度実績】 コロナ禍の影響のため実績なし</p> <p>ウ 科学館だいすきクラブ、友の会活動、東亜天文学会の活動支援を行う。</p>	41	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア 展示解説ボランティア「サイエンスガイド」による活動を実施し、併せて研修を行った。また7月に子ども向けワークショップ「サイエンスガイドとあそぼう!」、12月には「サイエンスガイドの日・カガクの体験マルシェ」、3月には「電気記念日スペシャルイベント」を実施した。(7月下旬から9月末までは、新型コロナウイルス感染拡大防止のためガイド活動を休止)</p> <p>イ 5月より月1回、科学デモンストレーターによるオンライン事業「おうちで科学とものづくり! オンライン教室」を実施した。またエキストラ実験ショーを実施した(4月から10月下旬までは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休止)。</p> <p>ウ 友の会活動では、例会やサークル等の実会場実施・オンライン開催を支援した。科学館大好きクラブはコロナ禍により活動休止となった。活動再開は未定だが、再開に向けて支援を継続する。東亜天文学会へは、月1回の大阪支部例会の開催を支援している。</p>	3	
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア コロナ禍・コロナ後を見据えてボランティア活動を再検討するとともに、特別展等の見学、館内の講座への参加等の研修を行い、ボランティアスタッフの資質を高める。</p> <p>【令和2年度実績】 活動(バックヤード作業) 延べ人数132人</p>	41	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア ボランティア活動の再検討については、万博を念頭に置いた展示改修に合わせて構想していたが、改修計画が凍結となったためスケジュールを前倒しして検討を進めている。コロナ感染対策のため休止していた「遺跡探訪」は5月に再開したが、定員・回数を縮小しての学芸員のみ活動と</p>	3	

	<p>イ 近隣地域に活動拠点を置く NPO法人等と、わくわく子ども教室「凧づくりと凧揚げ」等の協働事業を実施する。 【令和2年度実績】「凧づくりと凧揚げ」を協議の上中止</p>		<p>なり、ボランティア活動は再開できていない。「ハンズオン」「スタンプラリー」「歴史を掘る」の3活動は引き続き休止中である。 展示見学、および講座等参加による自己研修は1年を通じて実施し、展示見学の参加者は65名、講座等の参加者は142名(14回)であった。 コロナ対策で研修が困難なため、研修に代わるものとして発行した「ボランティアだより」は35～39号を発行した。 【令和3年度実績】「ボランティアだより」27～34号を発行。オンラインによるボランティアミーティング(2月)、研修(3月)を実施。 イ NPO法人まち・すまいづくりと協働して、日本凧の会・大阪の協力で1月28日に「凧づくりと凧揚げ」(参加者38名)を実施した。 【令和3年度実績】 凧づくりと凧揚げ 9名</p>		
<p>42 各館の活動に関する利用者との対話の機会及び場の設定 ボランティアとの意見交換の場を設け、意見を聴取する。 友の会会員等との意見交換の場を設け、意見を聴取する。 市民団体との共同事業を通じて、利用者との対話を図る。</p>			<p>【機構の評価】 自：3、科：3、歴：3 歴史博物館では2年ぶりに対面による友の会の総会を開催、自然史博物館では友の会総会でのアンケートの実施など、友の会等との意見交換の場を作り、利用者との対話の機会を作った。</p>	3	
	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 市民連携のあり方を検討する館長諮問の協議を設置し、ボランティアやNPOとのさらなる連携等に関する方針を検討する。 【令和2年度実績】協議会についてはまちづくり関係者、コミュニティビジネス関係者、NPO経営アドバイザー等の候補を決定し、打診し、打ち合わせを目指したが臨時閉館に伴い延期した。 イ 友の会の総会および評議員会、各種ワーキンググループを通じ、意見を聴取する。 【令和2年度実績】評議員会(全てオンラインにて5回実施)、友の会総会(オンラインにて1月)、事業WG(オンライン一部ハイブリッドにて5回実施)等で意見聴取した。 ウ 協働するNPOとの定期的な協議の機会を設け連携を密に行う。 【令和2年度実績】自然史センターと毎月協議を実施(オンラインを含む)、事業報告会は4月27日にオンラインで実施した。</p>	42	<p>(大阪市立自然史博物館) ア 大規模改修をめぐる検討の中で、ボランティアやNPO関係者の参加を求め、博物館の開かれた運営のあり方を検討している。これらの協議を優先した結果、当初検討した協議会設置は先送りしている。 イ 友の会総会での大規模改修に関わるアンケート調査実施、評議員会(年間5回)、各種ワーキンググループ(随時)で意見交換を重ねている。 【令和3年度実績】 評議員会(全てオンラインにて5回実施)、友の会総会(オンラインにて1月)、事業WG(オンライン一部ハイブリッドにて5回実施)等で意見聴取した。 ウ 協働するNPOとの定期的な協議の機会を設け連携を密に行った。 【令和3年度実績】 自然史センターと毎月協議を実施した(オンラインを含む)</p>	3	
	<p>(大阪市立科学館) ア サイエンスガイドリーダーとの定期的な打ち合わせを通じて、意見徴収を行う。</p>	42	<p>(大阪市立科学館) ア サイエンスガイドリーダーと定期的に打ち合わせを行い、意見に基づいて常設展示物の調整や解説文等の改良を行った。</p>	3	

	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア ボランティアとの意見交換の場として、ボランティア懇談会を開催する。 【令和2年度実績】ボランティア懇談会の代替アンケートを1回実施。</p> <p>イ 友の会の総会および幹事会を通じ、意見を聴取する。</p>	42	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 「ボランティアだより」のメールマガジン配信方式への移行に伴う連絡等に合わせ、意見集約に努めた。 【令和3年度実績】 意見交換会（オンライン）を1回実施</p> <p>イ 友の会では、6月26日に対面による総会が2年ぶりに開催された。その前後を含めて、幹事会が13回開催された。当館では、総会を含めた友の会事業に講師を派遣して協力し、博物館への要望等の聴取を行った。</p>	3	
<p>【中長期的発展を見据えて取り組む事項】</p> <p>43 さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励</p> <p>美術団体等へ施設を貸出し、市民による成果発信を支援する(再掲)。 施設のエントランス等を利用し、関係団体による成果展示を支援する(再掲)。 市民参加のフェスティバル等を開催し、活動成果発表の場を提供する(再掲)。</p>			<p>【機構の評価】</p> <p>美：3、自：3、科：3、歴：3、中：3 各館とも計画通りに、事業をすすめ、市民の活動・学習成果の発表の場を提供することができた。</p>	3	
	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 改修後を見据え、新たな教育普及事業のあり方について検討を進める。(3市美改修)</p> <p>イ 作品修復体験等、地元企業との連携による体験型ワークショップに関する企画を進め、改修後の教育普及活動でのコンテンツとして展開を目指す。(3市美改修)</p>	43	<p>(大阪市立美術館)</p> <p>ア 美術研究所及びOSAKAアートハブ(仮)の活動案を下期で取りまとめ、館内で検討を開始した。</p> <p>イ 作品修復ワークショップ等、企業との連携をもとに行う取組みを試験的に実施し、リニューアル後のOSAKAアートハブの企画にまとめ、教育普及活動コンテンツ展開に役立てた。</p>	3	
	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 市民の自然に関わる文化活動の発表の場として大阪自然史フェスティバルを開催する。(再掲)</p> <p>イ 博物館と連携して活動する市民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行う。(再掲)</p> <p>ウ 関連学会と連携した市民科学の発表機会を誘致する。(再掲)</p> <p>エ 大阪府高等学校生徒生物研究発表会や自由研究展等生徒・児童の発表機会の確保に努める。(再掲)</p>	43	<p>(大阪市立自然史博物館)</p> <p>ア 市民の自然に関わる文化活動の発表の場としてジオ・カーニバル2022・大阪自然史フェスティバル2022開催した。(再掲)</p> <p>イ 博物館と連携して活動する市民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行った。(再掲)</p> <p>ウ 関連学会と連携した市民科学の発表機会として各学会のポスター発表を支援するとともに、2月に『地域自然史と保全』研究発表大会を実施し、発表の機会とした。</p> <p>エ 大阪府高等学校生徒生物研究発表会や自由研究展等生徒・児童の発表の機会を確保した。(再掲)</p>	3	

	<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア サイエンスガイドによる展示ガイド等のボランティア活動を支援する。</p> <p>イ 科学デモンストレーターによるエキストラ実験ショーをはじめとしたボランティア活動を支援する。</p> <p>ウ こどものためのジオ・カーニバル企画委員会、青少年のための科学の祭典大阪大会実行委員会等の活動を支援する。</p> <p>エ 友の会有志による、「青少年のための科学の祭典」への出展を支援する。</p> <p>オ 科学館大好きクラブによる展示解説を支援する。</p> <p>カ ボランティアの科学デモンストレーター有志による万博共創チャレンジへの参加とその活動を支援する。(2万博)</p>	43		<p>(大阪市立科学館)</p> <p>ア サイエンスガイドによるボランティア活動を支援し、展示場ガイドやワークショップ「サイエンスガイドとあそぼう」「サイエンスガイドの日・カガクの体験マルシェ」「電気記念日スペシャルイベント」を実施した。(7月下旬から9月末までは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止)</p> <p>イ 科学デモンストレーターによる活動として、5月より月1回、オンライン事業「おうちで科学とものづくり! オンライン教室」を実施した。加えて、2025年の大阪万博に向けてデモンストレーター有志による「SCIENCE de DOYA (サイエンスでどや!)」が行う活動に対して館として支援し、7月には「サイエンスてんこもり!」を実施した。また、エキストラ実験ショーを実施した(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4月から10月下旬まで休止)。</p> <p>ウ 11月に自然史博物館で開催した「こどものためのジオ・カーニバル」について企画委員会に協力したほか、「青少年のための科学の祭典大阪大会実行委員会」の活動を支援し、大会を8月に開催した。</p> <p>エ 今年度は友の会有志による出展はなかったが、継続的な協力を行っている。</p> <p>オ 科学館大好きクラブは、新型コロナウイルス感染拡大が長引いているため当面休止の申し入れがあり。今後の再開にむけて継続的に協力を行っている。</p> <p>カ ボランティアの科学デモンストレーター有志による万博共創チャレンジの活動として、7月に「サイエンスてんこもり」を実施したほか、活動を支援している。(2万博)</p>
	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 館の活動に関係する学術団体等と連携し、市民が最新の研究成果を享受できる報告の場を設ける。</p> <p>【令和2年度実績】 第36回歴史学入門講座(同講座実行委員会)開催中止</p>	43	3	<p>(大阪歴史博物館)</p> <p>ア 昨年度は休止した「歴史学入門講座」を同講座実行委員会と連携して7月に開催した(参加者36名)。11月に科研費「中世後期から近世初頭における武家拠点形成の研究」及び「NPO法人旧真田山陸軍墓地とその保存を考える会」と共催のシンポジウムを開催した(参加者 武士拠点約100名、真田山76名)。(再掲)</p> <p>【令和3年度実績】 歴史学入門講座(同講座実行委員会)オンライン開催のため共催なし</p>
	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア 多様な層を対象としたプログラムを企画、実施する。</p>	43	3	<p>(大阪中之島美術館)</p> <p>ア 子どものためのラーニングプログラム「ナッカキッズ」をスタートするなど、多様な層を対象としたプログラムを企画、実施した。</p>

大項目 II	II 業務運営の改善及び効率化に関する事項 5 業務運営の改善及び効率化 (1) 人材の活用と育成 (2) 評価制度の活用 (3) ICTの導入及び活用 (4) 民間活力の導入
-----------	---

中期目標	5 業務運営の改善及び効率化 法人は、業務運営の改善及び効率化を図ることで、法人の事業の持続的かつ安定的な実施を目指す (1) 人材の活用と育成 ・ 職員の能力が発揮できる組織体制の構築及び適切かつ柔軟な人員配置 ・ 職員のスキルアップを図るための学習機会の確保 ・ 包摂的な社会にふさわしい人材の獲得 ・ 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(再掲5)
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(1) 人材の活用と育成						
49 職員の意欲及び能力を活かすため、必要な体制整備を図るとともに、職員の育成に取り組む。 【法人として充実を目指す事項】 49 職員の能力が発揮できる組織体制の構築及び適切かつ柔軟な人員配置	(事務局) 職員の意欲及び能力向上に資するため、職員の能力が発揮できる組織体制の構築や職員の適切かつ柔軟な配置を進める。	49	(事務局総務課) 学芸員の再雇用制度を新たに創設し、知識やノウハウを持った職員を引き続き配置できるよう整備した。	3		
50 職員のスキルアップを図るための学習機会の確保 法人内での人事交流を積極的に実施する。 職員のスキルアップに寄与するため、職員の職能別・階層別の研修を実施する。	(事務局) 職種や職階を超えた職員に共通する研修を実施する。 係長級職員向けの研修を実施する。 新採・新任研修を実施する。 学芸員の資質向上を目的に、専門的研修を実施する。 法人の内部統制の推進のための研修を実施する。	50	(事務局総務課) 経営理念の全職員に浸透させることを目的として、総務系・学芸系の全係長を対象に研修を行った(機構ロゴ、キャッチコピーをグループワークで制作する研修。全3回) リスク管理に基づく全職員対象研修「個人情報保護について」、職員研修「職場のパワーハラスメントを考える」を実施した。 採用1～4年目の学芸員に対して、機構及び各館業務を再確認し、機構全体のガバナンス強化を図ると同時に資質向上を図るため、新任学芸員研修を実施した。参加者数:12名 グループウェアを用いた各種のe-learningを実施し、人材の育成に努めた。	4		
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 51 包摂的な社会にふさわしい人材の獲得	(事務局) 年齢・性別等にとらわれず、能力、適性に合った人材を、すべての職種において採用する。	51	(事務局総務課) 継続して独自採用や民間採用等、職種を問わず多様な人材を確保した。	3		

<p>52 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成(再掲)</p> <p>業務の中核を担う職員を安定的に確保するために、中長期的な採用計画及び育成計画を立案し、運用する。</p> <p>年齢等にとらわれず、能力、適性に応じた人材を採用する。</p> <p>館蔵品保存管理、広報、教育、資金調達等に特化した専門人材の安定的確保と充実をめざす(再掲)。</p> <p>【中期計画期間中の目標】</p> <p>2021年度の大阪中之島美術館の開館後は、準備業務に従事した職員の削減を予定(3名程度)</p>	<p>(事務局)</p> <p>教育普及の人材のあり方について検討を行う。</p>	<p>52 (事務局総務課)</p> <p>市立美術館にて、美術教育におけるオンラインサポートを4月から実施する等、教育普及における知見を得る試みを実施するとともに、機構全体で専門人材の確保について議論を行った。また、事務系の有期雇用職員を本務登用するなど(3名)、人材の確保に努めた。</p>	<p>3</p>		
--	---	---	----------	--	--

<p>中期目標</p>	<p>5 業務運営の改善及び効率化</p> <p>(2) 評価制度の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人の中期計画及び年度計画における適正な目標設定及び自己評価 能力に応じた人事評価の実施 法人の適正な目標設定及び評価の基礎となる運営に関する調査研究の実施 インセンティブが適正に働く人事制度の導入
-------------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価 評価の判断理由(実施状況等)	評価	市長の評価 評価の判断理由 ・評価のコメント	
(2) 評価制度の活用						
<p>評価制度に基づく業務改善及び職員のモチベーションが向上するよう、適正な制度の構築及び運用を目指す。</p>						
<p>【法人として充実を目指す事項】</p> <p>53 法人の中期計画及び年度計画における適正な目標設定及び自己評価</p> <p>中期計画及び年度計画(以下「中期計画等」という。)の策定及び評価に関する規程等を整備し、その適切な運用に努める。</p>	<p>(事務局)</p> <p>年度計画については、令和5年度分の策定に向けて、評価委員会の意見に沿いながら、適正な目標設定を行ったうえで年度計画を作成する。自己評価については、6月末までに令和3年度の自己評価を大阪市長に提出し、また上半期終了後に中期計画期間終了前年度の評価(仮評価)及び令和4年度の間評価(仮評価)を実施し、業務改善につなげる。</p>	<p>53</p>	<p>(事務局経営企画課)</p> <p>6月末に、令和3年度の自己評価をとりまとめ、大阪市長に提出した。その後の大阪市評価委員会において、評価内容の記載内容等について意見を頂き、機構内で情報共有を行い、次期の自己評価に活かすこととした。</p> <p>次期の中期計画を見据えて、法人設立後3年で実施した事業とその効果を取りまとめる等、機構における3年間の自己評価を行い大阪市評価委員会へ提出した。</p> <p>令和4年度上半期の中間評価を取りまとめ、下半期の業務改善に活かした。</p>	<p>3</p>		
<p>54 能力に応じた人事評価の実施</p> <p>職員の能力向上を図るため、業務の成果を総合的に評価する人事評価制度を構築し、その運用をめざす。</p>	<p>(事務局)</p> <p>職種に応じた能力が的確に把握できる人事評価制度の深化を図る。</p>	<p>54</p>	<p>(事務局総務課)</p> <p>令和3年度の人事評価結果における、評価分布を分析し、令和4年度の人事評価説明会に反映させた。</p>	<p>3</p>		
<p>【中長期的発展を見据えて取り組む事項】</p> <p>55 法人の適正な目標設定及び評価の基礎となる運</p>	<p>(事務局)</p> <p>展示会事業における観覧者数や事業費を始め、適</p>	<p>55</p>	<p>(事務局経営企画課)</p> <p>各館における入館者状況について、入館者数と</p>	<p>3</p>		

<p>営に関する調査研究の実施 他館の事例研究等、博物館運営に関する調査・研究を実施する。(再掲)</p>	<p>正な目標設定や評価の基礎となる運営に関する他館情報も含めた調査研究を実施する。</p>		<p>推移。属性等を可視化して把握し、各館とも共有した。 ・各館の日々の展示ごとの観覧者数等をリアルタイムで集計・分析し、他館の情報も含めた経営会議等での議論を通じて、業務改善を促した。</p>		
<p>56 インセンティブが適正に働く人事制度の導入 適正な目標設定や評価の基礎となる運営に関する調査研究を実施する。 職員の資質向上を図るため、自己評価や人事評価に基づき、インセンティブが適正に働く制度を構築し、その運用を目指す。</p>	<p>(事務局) 事業評価や人事評価に基づき、インセンティブが適正に働く制度の構築を検討し、その運用を実現する。</p>	56	<p>(事務局総務課) 引き続き、館長業績評価制度を用い、業績に応じた給与の支給を行う等、インセンティブが適正に働く制度の運用を行った。</p>	3	

<p>中期目標</p>	<p>5 業務運営の改善及び効率化 (3) ICTの導入及び活用 ・財務、会計、勤怠、人事及び給与業務等におけるシステムの導入及び活用</p>
-------------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価	評価	
			評価の判断理由(実施状況等)		
(3) ICTの導入・活用					
<p>業務の標準化及び迅速な処理のため、ICTの導入及びその活用を図る。</p>					
<p>【法人として充実を目指す事項】 57 財務、会計、勤怠、人事及び給与業務等におけるシステムの導入及び活用 業務の効率化を図るため、法人の各館を結ぶネットワークを構築し、各種システムを稼働させる。</p>	<p>(事務局) 各館と事務局を結ぶネットワークを通じて、法人情報の迅速な共有を図る。人事・給与や財務会計システムを利活用し、業務の円滑化・省力化を図る。利用者へのサービスの向上及び業務の効率化を図るため、民間活力を効果的に導入する。</p>	57	<p>(事務局総務課) 財務会計システムを活用し月1回の決算見込みを行う等リアルタイムの経営判断に活用を図った。 コロナ感染者状況や療養状況を各館・事務局に随時共有を行い、リスク管理に努めた。 サブスクシステムの試験的導入(市美)や、海外資本のデジタルチケットシステムを利用して、中国やアジア圏へのマーケティングを一部館にて開始した(歴博)。</p>	3	

<p>中期目標</p>	<p>5 業務運営の改善及び効率化 (4) 民間活力の導入 ・事業効果を見極めた外部委託の推進 ・専門的な知識又は技能を有する民間の人材の登用 ・民間事業者等の外部からの意見を聴取する仕組みの導入</p>
-------------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(4) 民間活力の導入						
利用者へのサービスの向上及び業務の効率化を図るため、民間活力を効果的に導入する。						
<p>【法人として充実を目指す事項】</p> <p>58 事業効果を見極めた外部委託の推進</p> <p>施設の管理・運営業務等における効率化を図る観点から、競争入札等を継続するとともに、各館の特性を踏まえて、新たな仕組みの導入について検討する。</p>	<p>(事務局)</p> <p>事務局や各館の進める事業に対する顧客の評価を把握するため、その調査における外部委託を進める。</p>	58	<p>(事務局総務課)</p> <p>機構においてはサービスの向上や効率化に資するため、引き続き案内・受付・清掃・設備保守等の部門について外部委託を実施した。</p> <p>(事務局施設管理課)</p> <p>前々年、前年に引き続き、市立美術館改修及び東洋陶磁美術館エントランス工事においてCM（コンストラクション・マネジメント）業務の委託により、スケジュール管理やコスト管理等業務の効率化に加え、工事発注方法等の手法や工事における協議の体制づくり等の改善が図られた。</p> <p>大阪市立美術館大規模改修工事では、総合評価方式一般競争入札を取り入れ、工程管理や環境対策等についての提案が図られる見通しである。</p>	3		
<p>【中長期的発展を見据えて取り組む事項】</p> <p>59 専門的な知識又は技能を有する民間の人材の登用</p> <p>広報や教育等適材適所で、専門的知識を有する外部人材の登用を検討する。</p>	<p>(事務局)</p> <p>民間から登用した専門知識を有する職員らが中心となり、機構の広報等について検討を行う。</p>	59	<p>(事務局総務課)</p> <p>民間からの登用した職員のノウハウを活かし、デジタルプロモーションの一環として、電子チケットの”サブスクリプション”やアジア圏を商圏とする旅行予約サイト運営企業へのアプローチ等テストマーケティングを実施した。</p>	3		
<p>60 民間事業者等の外部からの意見を聴取する仕組みの導入</p> <p>委託事業者等から意見を聴取し、必要に応じて、業務改善への反映を図る。</p>	<p>(事務局)</p> <p>1. 委託事業者等から意見を聴取し、必要に応じて、業務改善への反映を図る。</p>	60	<p>(事務局総務課)</p> <p>ICTに関する新しい取組に対し、機構のインフラシステムの状況について委託事業者とディスカッションを行い、職員への教育訓練方法等を検討した。</p> <p>(事務局施設管理課)</p> <p>前年度からより実勢価格にあった民間の市場単価を採用する積算基準にて実施しており、契約不調はほぼない状況である。</p> <p>市立美術館改修及び東洋陶磁美術館エントランス工事において、CM業務の委託により、スケジュール管理やコスト管理等業務の効率化に加え、工事発注方法等の手法や工事における協議の体制づくり等の改善が図られた。</p>	3		
	<p>2. リモート・ワーク（在宅勤務）の推進</p> <p>コロナ禍を契機とした新しい生活様式に対応した働き方を推進するため、専用端末や諸規程等を整備し、リモート・ワークの推進を図る。</p>		<p>適宜開催した新型コロナウイルス感染症対策本部会議において積極的にリモート・ワークを推奨する旨決定し職員へ周知する等、新しい生活様式に対応した働き方の浸透を図った。</p> <p>導入した在宅勤務を可能とするための端末（モバイルパソコン）を積極的に活用し、意思疎通や情報共有を行った。</p>	3		

大項目 Ⅲ	Ⅲ 財務内容の改善に関する事項 6 財務内容の改善 (1) 収入の確保 (2) 経費の節減
----------	--

中期目標	6 財務内容の改善 法人は、財務内容の改善を図り、持続可能な事業の実施に必要な資金を確保することで、安定的な経営を目指す (1) 収入の確保 ・幅広い利用者の獲得及び法人資産の有効活用による収入の増加 ・各館の活動への理解と支援に基づく寄附金等の積極的な獲得
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価																			
			評価の判断理由(実施状況等)	評価																		
(1) 収入の確保																						
<p>持続可能な事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、各館の収入の増加に努めるとともに、外部からの資金獲得に努める。</p> <p>61 幅広い利用者の獲得及び法人資産の有効活用による収入の増加 観覧料収入や法人資産の有効活用等により、安定的な収入確保を図る。 【法人として充実を目指す事項】 観覧料収入の安定的確保を図るため、館毎の特性に応じた常設展及び特別展の集客力を高める取り組みを実施し、観覧料収入の増加に努める。</p> <p>【中期計画期間中の増収目標(5年での割合)】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>常設展</th> <th>特別展</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>美術館</td> <td>3%</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>自然史博物館</td> <td>—</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>東洋陶磁美術館</td> <td>—</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>科学館</td> <td>5%</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>歴史博物館</td> <td>3%</td> <td>3%</td> </tr> </tbody> </table> <p>保有資産について、新たなテナントの誘致や適切なテナント料の設定、貸会議室の稼働率上昇の取り組み等を実施し、施設の有効利用による増収を図る</p>		常設展	特別展	美術館	3%	5%	自然史博物館	—	5%	東洋陶磁美術館	—	3%	科学館	5%	—	歴史博物館	3%	3%	<p>(事務局) 令和3年度より実施している機構中期戦略(CRS)によって、収入確保を推進する。 【法人として充実を目指す事項】 次の中期目標期間中の増収目標の他一斉に必要な単年度分の増収をめざす。 ・中期計画期間中の増収目標 (2019年4月1日版 中期計画より抜粋) (大阪市立美術館) 常設展: 5年で3%特別展: 5年で5% (大阪市立科学館) 常設展: 5年で5% (大阪歴史博物館) 常設展: 5年で3%特別展: 5年で3% (大阪市立東洋陶磁美術館) 特別展: 5年で3% (大阪市立自然史博物館) 特別展: 5年で5%</p>	61	<p>(事務局総務課) 機構中期戦略(CRS)を引き続き実施し、サービスのデジタル化やデジタル化による新規利用者層の開拓を行い、顧客満足度の向上及び収入確保を図った。</p>	3
	常設展	特別展																				
美術館	3%	5%																				
自然史博物館	—	5%																				
東洋陶磁美術館	—	3%																				
科学館	5%	—																				
歴史博物館	3%	3%																				

<p>【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 62 各館の活動への理解と支援に基づく寄附金等の積極的な獲得</p> <p>積極的な寄附金や協賛金等の獲得のため、法人の担当者を定め、取り組みを強化する。 社会教育施設としての役割と、安定的事業実施を念頭においた、特別展等における適正な料金のあり方を検討し、その適用に努める。</p>	<p>(事務局)</p> <p>1. 社会教育施設としての役割と、安定的事業実施を念頭においた、特別展等における適正な料金のあり方を検討する。 法人寄附、協賛獲得に向けて制度設計を行い、実施準備に取り組む。 2. オンラインショップを運営し、SNSによる発信や積極的な商品開発により、新たな収益の獲得を実現する。</p>	62	<p>(事務局経営企画課)</p> <p>法人寄附獲得のための戦略作成を行い、試験的に寄附獲得活動を行ったものの、特別展における適正な料金のあり方についての検討は他機関の調査のみにとどまるなど、不十分であった。 昨年度に引き続き、オンラインショップ4店舗を運営した。SNSやメールマーケティングを行い、セールスプロモーションを実施した。</p>	2		
---	--	----	--	---	--	--

中期目標	<p>6 財務内容の改善</p> <p>(2) 経費の節減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 契約の方法、期間及び単価の見直しによる経費の縮減 ・ 共同調達による経費の縮減
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由 ・ 評価のコメント	評価
(2) 経費の節減						
<p>安定的な経営を実現するため、経費の縮減に努める。</p> <p>【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 63 契約の方法、期間及び単価の見直しによる経費の縮減</p> <p>委託費等の契約内容を点検し、契約期間や単価の見直しを実施する。</p> <p>【中期計画期間中の削減目標】 2022年度から一括契約を導入し、美術館を除く各館の維持管理費(委託費)の5%削減を見込む</p>	<p>(事務局)</p> <p>業務委託や高額物品の調達等において、規程に従い、競争入札を積極的に実施する。 一層の競争性の確保に努め、一括調達や長期契約に向けた規程等を整備し経費の縮減を図る。</p>	63	<p>(事務局総務課)</p> <p>規程に沿って、積極的に競争入札を実施した。また、長期契約においても、可能なものについては実施した。</p> <p>(事務局施設管理課)</p> <p>市立美術館の大規模改修工事において、総合評価方式一般競争入札を採用したほか、展示ケース製作設置を別途一般競争入札にすることにより、経費削減に取り組んだ。</p>	3		
<p>64 共同調達による経費の縮減</p> <p>各施設の業務内容等を考慮し、消耗品や役務について、具体的な品目を定めたくうえで共同調達を進める。</p>	<p>(事務局)</p> <p>各施設の業務内容等を考慮し、消耗品や役務について具体的な品目を定めたくうえで、各館等との共同調達を進める。</p>	64	<p>(事務局総務課)</p> <p>コピー用紙の共同調達について、今年度より事務局にて業者を選定して一括購入を行った。</p>	3		

大項目 IV	IV その他業務運営に関する重要事項
	7 その他業務運営に関する重要事項(内部統制) (1) 環境整備 (2) 重要なリスク回避のための体制の構築

中期目標	7 その他業務運営に関する重要事項(内部統制) 法人は、業務を恒常的に維持し発展させることのできる組織を確立するため、リスクを回避できる仕組みを構築し、機能させることで、内部統制の強化に努める
	(1) 環境整備 ・法人として内部統制に必要な規程及び体制の整備並びに法人内での周知徹底 ・研究者及び学芸員として必要な規程及び体制の整備並びに法人内での周知徹底 ・各職階及び各職域に応じた必要な権限の付与及び責任の明確化 ・法人の各機関への適切な権限の配分及び各機関における適切な意思形成の確保 ・情報共有に必要なイントラネットをはじめとするICTの活用の促進 ・内部監査等による定期的な内部点検及び監事による監査の確実な実施

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(1) 環境整備						
内部統制の確立のため、必要な規程の策定等を行うとともに、その理解を深めるための環境を整備する。						
【法人として充実を目指す事項】 65 法人として内部統制に必要な規程及び体制の整備並びに法人内での周知徹底 コンプライアンスの遵守を徹底するため、法令や社会的規範に基づいて法人の内部規程を整備し、理解促進に向けた研修を実施する。	(事務局) 法令や業務方法書等に基づいた内部統制の推進に関する規程に沿った運用を行う。 役員及び職員としての倫理指針及び行動指針を遵守する。	65	(事務局総務課) 契約監視委員会を8月及び2月の2回開催し、機構の契約事務が適正に行われているか、外部委員による確認等を行った。 リスク管理委員会を開催して、リスクインシデントに関する確認と再発防止策についての策定と周知及び実施を推進した。合わせて、リスク管理案件についての研修を行い、理解度チェックを期してテストやアンケートを実施した。	3		
66 研究者及び学芸員として必要な規程及び体制の整備並びに法人内での周知徹底 研究者や博物館人としての倫理観を確保するため、内部規程を整備し、理解促進に向けた研修を実施する。	(事務局) 研究者及び学芸員としての倫理観の確保、理解促進に向けた研修を実施する。	66	(事務局経営企画課) 科研費従事者への研究者倫理研修を2月に実施した。 採用1～4年目の学芸員に対して、機構及び各館業務の必要性・重要性を再確認し、機構全体のガバナンスや資質向上を図るため、新任学芸員研修を実施した。	3		
67 各職階及び各職域に応じた必要な権限の付与及び責任の明確化 役員の役割を明確にし、法人業務を監理・監督を遂行する。 業務執行のための体制と役割分担を明確にし、確実な執行に努める。	(事務局) 組織や役員の分掌に関する規程に沿って、法人業務を監理・監督する。	67	(事務局総務課) 組織が分掌規程に則って運営できているかを監督するため、監事による各種会議への出席、役員との面談等を行った。	3		
68 法人の各機関への適切な権限の配分及び各機関における適切な意思形成の確保	(事務局) 理事会や業務執行のための会議を定期的開催	68	(事務局総務課) 機構における会議体として、「理事会」「経営	3		

理事会や業務執行のための会議体を整備し、迅速な意思決定や情報共有を図る。 業務分担と執行および責任の所在を明確にするための規程を整備し、その確実な運用を図る。	し、迅速な意思決定や情報共有を図る。		会議」「総務連絡会」「学芸連絡会」を定期的に開催し、各階層において迅速な意思決定や情報共有等を図った。 また、昨年度に引き続き「新型コロナウイルス感染症対策本部会議」を時機に応じて開催し、コロナ禍での情報共有及び機構統一の対策を迅速に行った。			
69 情報共有に必要なイントラネットをはじめとするICTの活用促進 意思疎通や情報共有のため、テレビ会議システム等のICT技術の活用を検討する。	(事務局) 意思疎通や情報共有のため、導入したグループワークやウェブ会議のシステム等のICT技術を積極的に活用する。	69	(事務局総務課) 引き続き全館へのグループウェア導入を通じて、迅速な情報共有を図るとともに、ペーパーレス化を推進した。 遠隔会議のシステムを利用してオンライン会を積極的に実施して、移動のための経費や時間の縮減を図るとともに、ペーパーレス化を推進した。	3		
70 内部監査等による定期的な内部点検及び監事による監査の確実な実施 内部監査等により定期的に内部統制環境の整備状況・有効性をモニタリングするとともに、監事による監査機能・体制の強化に取り組み、内部統制に関する必要な見直しを行う。	(事務局) 監事監査及び内部監査により、内部統制環境を点検し、有効性をモニタリングするとともに、内部統制に関する必要な見直しを行う。	70	(事務局総務課) 内部監査計画書を策定し、事務局及び各館において業務監査及び会計監査を実施した。 9月より監事による各館往査を実施し、内部統制環境や年度計画の進捗状況等の監査を行った。 監事、会計監査人、内部監査室が連携し、内部統制の有効性についてモニタリングを進めた。	3		

中期目標	7 その他業務運営に関する重要事項(内部統制) (2) 重要なリスク回避のための体制の構築 ・リスク管理体制の整備及び組織全体で取り組むべき重要なリスクの評価 ・ネットワークセキュリティの強化
------	---

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由・評価のコメント	評価
(2) 重要なリスク回避のための体制の構築						
重要なリスクを回避するため、早期の発見及び対処が可能な体制を構築する。 【法人として充実を目指す事項】 71 リスク管理体制の整備及び組織全体で取り組むべき重要なリスクの評価 適切なリスク管理を行うため、業務の遂行、入館者の安全、資産管理等多角的な視点からリスクを調査し、問題の早期発見に努める。	(事務局) 業務実施の障害となるリスクを調査し、当該リスクへの適切な対応を可能とする規程に沿った運用を行う。 入館者の安全、資産管理等多角的な視点からリスクを調査し、問題の早期発見とリスク回避を図る。 建築物(付帯設備も含む)管理・点検を行い施設障害発生時のリスク回避に努める。	71	(事務局総務課) 適宜、新型コロナウイルス感染症対策会議を実施した。 リスク管理委員会を開催し、各館におけるリスクの洗い出しや対応策の検討を行った。 (事務局施設管理課) 工事中の火災予防や事故の未然防止、入退館理の手続き等、工事に関する諸注意事項を整理した「安全作業心得」を、工事前に受注者に配布し講習会を行う等、工事における安全対策について徹底するよう努めた。 建築工事等において、事故・災害が起こらないよう施工者に対して、工程会議等の機会に安全の	3		

<p>72 ネットワークセキュリティの強化 個人情報等の機密情報の漏えいを未然に防ぐため、情報セキュリティ対策を一元化し、徹底する。訓練等を通じて、情報セキュリティ対策の実施状況を毎年度把握し、その結果に基づいて改善に努める。</p>	<p>(事務局) 個人情報等の機密情報の漏えいを未然に防ぎ、情報セキュリティ対策の一元化を図るため、情報システムに関する作業部会を立ち上げ、報告をまとめる。 訓練や研修を通じて、情報セキュリティ対策の実施状況を把握し、その結果に基づいて改善に努める。</p>	<p>72 (事務局総務課) 徹底を指示するよう努めた。 大規模な工事等では職員の安全対策のため、個人用ヘルメットを着用する等、安全に努めた。 情報システムにかかるWGで各種の検討は行ったものの、ドメインの移行作業の決定にとどまり、報告をまとめるには至らなかった。 歴史博物館で個人情報の漏えい事故が発生した。本事業を受け、早急に研修を実施し再発防止に努めることとした。</p>	<p>2</p>		

大項目 IV	IV その他業務運営に関する重要事項の目標を達成するためとるべき措置 8 その他業務運営に関する重要事項(その他) (1) 利用者等の安全確保 (2) 環境保全の取組み (3) 情報公開の推進
-----------	--

中期目標	8 その他業務運営に関する重要事項(その他) 法人は、時代の要請に応え、社会の理解や支持を得ることで、公共的な施設としての役割を果たす (1) 利用者等の安全確保 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者及び職員等の安全確保に必要な体制の整備及び各館で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底 ・博物館等の施設として必要な機能及び快適な利用環境の確保に向けた各館の施設の計画的な整備及び改修(再掲9) ・バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設の計画的な整備及び改修(再掲)
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由 ・評価のコメント	評価
(1) 利用者等の安全確保						
さまざまな人々が快適に利用できるようにするため、各館の施設における安全を確保する。 【法人として充実を目指す事項】 73 利用者及び職員等の安全確保に必要な体制の整備及び各館で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底 利用者及び職員の安全を確保するため、定期的な安全訓練を行う。 職員に対する研修等を通じて、職員の安全に対する意識向上を図る。	(事務局) 利用者及び職員の安全を確保するため、定期的な安全訓練を行う。研修等を通じて、職員の安全に対する意識向上を図る。	73	(事務局総務課) 安全確保のため「新型コロナウイルス感染症対策本部会議」での決定や機構独自のガイドラインに沿って、次の対策を実施した。 新型コロナウイルス対策として策定した、機構独自の「ガイドライン(大阪市博物館機構関係各館用)」を、大阪府内の感染状況や府民への要請、業界ガイドライン(日博協)の改訂や動きを注視し、随時機構のガイドラインの改訂や注意喚起を行い、入館者や職員の安全を確保しつつ、博物館活動の安定化を図ってきた。現在もクラスター等の発生を回避することができている。	3		
【中長期的発展を見据えて取り組む事項】 74 博物館等の施設として必要な機能及び快適な利用環境の確保に向けた各館の施設の計画的な整備及び改修 博物館施設として必要な機能や快適な利用環境の確保に向けた計画的な整備・改修を行う。	(事務局) 快適な利用環境の確保に向けた計画的な整備を行う。 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化を念頭に施設の点検を実施する。	74	(事務局施設管理課) 各館施設の計画的な整備及び改修(5か年の改修計画)の具体的な中身(詳細)を検討し、現状の令和5年度までの中期5ヶ年の改修計画について、点検結果報告や劣化状況、工事手順等を勘案し、計画を修正した。 また、施設の老朽化状況や更新時期を勘案し、令和6年度からの次期5か年の改修計画についても計画を見直した。	3		
75 バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設の計画的な整備及び改修(再掲) 高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性を図るため、バリアフリー化を推進する。(再掲) さまざまな利用者を念頭に、ユニバーサルデザイン化を推進する。(再掲)	建築物の大規模改修時において、博物館の設置及び運営上の望ましい基準に基づきバリアフリー及びユニバーサルデザインを推進する。	75	(事務局施設管理課) 既設建築物のエレベーターやエスカレーター、自動扉の作動状況等、現状のバリアフリーの維持管理状況について、毎月の点検結果に基づいて適切に維持管理されていることを確認した。 東洋陶磁美術館の増築、市立美術館の大規模改	3		

			<p>修時に、トイレやスロープ、エレベーター等のバリアフリー化を推進している。</p> <p>東洋陶磁美術館のエレベーター改修工事等において「大阪市ひとにやさしいまちづくり条例」に基づき設計を進めた。</p> <p>各館にて現状のバリアフリーの点検を行った。</p> <p>企業と連携し、パブリックトイレモデル相談会を各館に案内し、実施した。</p>		
--	--	--	---	--	--

中期目標	<p>8 その他業務運営に関する重要事項(その他)</p> <p>(2) 環境保全の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・省エネ機器の使用の推奨及び適正な空調温度の設定 ・再生紙その他の資源の有効利用の促進 ・環境に配慮した取組みの指標化及びその公開 ・新たな省エネルギーの実現に向けた取組みの推進
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価		市長の評価	
			評価の判断理由(実施状況等)	評価	評価の判断理由 ・評価のコメント	評価
(2) 環境保全の取組み						
環境への負荷を低減するとともに、社会の要請に応えるため、環境に配慮した取組みを進める。						
<p>【法人として充実を目指す事項】</p> <p>76 省エネ機器の使用の推奨及び適正な空調温度の設定</p> <p>環境に配慮した業務運営を行うため、省エネ機器・器具の使用や適正な空調温度の設定・維持に努める。</p>	<p>(事務局)</p> <p>環境に配慮した業務運営を行うため、省エネ機器・器具の使用や適正な空調温度の設定・維持に努める。</p>	76	<p>(事務局施設管理課)</p> <p>各館における上記の設定・維持に必要な技術指導を行った。</p> <p>近畿経済産業局主催の省エネシンポジウムや各種省エネセミナーの受講を各館へ奨励し、省エネ意識の向上を図った。</p>	3		
<p>77 再生紙その他の資源の有効利用の促進</p> <p>ICTを活用したペーパーレスの推進や、再生紙利用の促進等を図る。</p> <p>リデュース・リユース・リサイクルの徹底に努める。</p>	<p>(事務局)</p> <p>再生紙利用の促進や両面コピーの徹底を図る。</p>	77	<p>(事務局総務課)</p> <p>ICT活用(全館のグループウェア導入、オンラインソフト導入)によりペーパーレス化を推進した。</p> <p>事務局及び各館で、再生紙利用の促進や両面コピーの徹底を図った。</p> <p>職員への意識啓発を実施した。</p>	3		
<p>【中長期的発展を見据えて取り組む事項】</p> <p>78 環境に配慮した取組みの指標化及びその公開</p> <p>環境への取組状況を明らかにするため、その成果を公表する。</p>	<p>(事務局)</p> <p>建物の大規模改修時にトッランナー機器等の先端省エネルギー機器の導入を図る。</p> <p>制定した「リデュース・リユース・リサイクルのための法人としての取組計画」に沿って、引き続き省エネルギーに努める。</p>	78	<p>(事務局施設管理課)</p> <p>設備更新時に省エネ機器を導入するように努めた。</p> <p>「リデュース・リユース・リサイクルのための法人としての取組計画」に沿って、引き続き省エネルギーに努めた。</p>	3		

79 新たな省エネルギーの実現に向けた取組みの推進	(事務局) 環境への取組状況をエネルギーの使用の合理化等に関する法律に基づき管理する。	79 (事務局施設管理課) エネルギーの使用の合理化等に関する法律の下に以下の省エネに取り組んだ。 各館の省エネ診断結果をもとに、より効率的な施設整備計画となるよう見直しを図った。 文部科学省・近畿経済産業局へ提出している「中長期計画書」で計画している市立美術館及び東洋陶磁美術館でのエレベーター改修や照明器具のLED化について、それぞれ大規模改修工事やエントランス増築工事へ反映した。 予防保全による空調機器等の更新を行った。 関西広域連合の「夏の節電・省エネルギーの呼びかけ」に対し、各館へ節電の協力を依頼した。	3		
---------------------------	--	---	---	--	--

中期目標	8 その他業務運営に関する重要事項(その他) (3) 情報公開の推進 ・ホームページ等を通じた情報の積極的な公開 ・情報公開請求に対する迅速な対応
------	--

中期計画	年度計画	小項目No.	法人の自己評価 評価の判断理由(実施状況等)	評価	市長の評価 評価の判断理由 ・評価のコメント	
(3) 情報公開の促進						
<p>運営状況の透明性を確保し、広く法人の活動への理解及び信頼を得るため、情報公開を推進する。</p> <p>【各館の基礎的活動の充実を目指す事項】</p> <p>80 ホームページ等を通じた情報の積極的な公開 業務内容等を広く理解してもらうため、法令に定める情報のみならず業務内容の理解に資する情報を、ホームページ等で積極的に公表する。</p>	(事務局) 法令に定める情報のみならず業務内容の理解に資する情報を、HP等で積極的に公表する。	80	(事務局総務課) 法定事項をはじめ、業務内容の理解に資する情報(新型コロナ対策についての法人対応方針等)HP等で積極的に公表した。 (事務局経営企画課) 業務の実績に関する評価結果等について、HP等で積極的に公表した。	3		
81 情報公開請求に対する迅速な対応 事業内容や運営状況に関する情報公開請求に対し、迅速に対応する。	(事務局) 業務内容に理解に資する情報をHP等で積極的に公開する。	81	(事務局総務課) 事業内容や運営状況に関する情報公開請求(令和5年3月末時点0件)に対して迅速に対応した。	3		